

ネットワーク リモート コントロール システム SCU-LAN10

取扱説明書

“はじめに”	P.8
“基本的な使い方 (FTDX101)”	P.10
“画面各部の機能 (FTDX101)”	P.17
“基本的な使い方 (FTDX10)”	P.49
“画面各部の機能 (FTDX10)”	P.56
“基本的な使い方 (FT-710)”	P.87
“画面各部の機能 (FT-710)”	P.94

製品の仕様・外観・画面表示等は改良のため予告なく変更することがあります。
この取扱説明書は、ソフトウェアの操作に関する説明が記載されています。
初期設定に関しては取扱説明書＜インストール編＞を参照してください。
対応する無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

目次

はじめに	8
重要	8
ご利用上の注意	8
商標	8
その他の注意・制限事項	9
基本的な使い方 (FTDX101)	10
SCU-LAN10 リモートコントロールソフトウェアを起動する	10
リモートコントロールソフトウェア画面	11
画面レイアウトを切り替える	11
受信音量を調節する	12
周波数を変更する	12
周波数帯 (バンド) を切り替える	12
周波数を変更する	12
(1) マウスのホイール操作、ドラッグ操作	12
(2) スペクトラムスコープ画面で周波数を変更する	14
(3) テンキー画面で周波数を入力する	15
モード (電波形式) を切り替える	15
送信時に表示するメーターを切り替える	16
送信する	16
画面各部の機能 (FTDX101)	17
電源ボタン	17
リモートボタン	17
画面レイアウト切替ボタン	18
送信機能ボタン	19
TUNE ボタン	19
VOX ボタン	19
MIC GAIN/PROC ボタン	19
MONI ボタン	20
SPEED/PITCH ボタン	20
SYNC ボタン	20
SPLIT ボタン	20
FUNC ボタン (ファンクションメニュー表示)	21
RF POWER ボタン	21
MONI LEVEL ボタン	22
DNR LEVEL ボタン	22
NB LEVEL ボタン	22
VOX GAIN ボタン	22
VOX DELAY ボタン	22
ANTI VOX ボタン	22
MEM CH ボタン	22
M-GROUP ボタン	23
R.FIL ボタン	23
RPT ボタン	23
MIC EQ ボタン	23
ENC/DEC ボタン	23
TONE FREQ ボタン	23
QMB LIST ボタン	24
スペクトラムスコープエリア	25
画面操作	25

スコープ機能ボタン	26
CENTER/CURSOR/FIX ボタン	26
SLOW1/SLOW2/FAST1/FAST2/FAST3 ボタン	27
SPAN ボタン	27
3DSS ボタン	28
MONO (デュアル / モノ表示切替) ボタン	28
MULTI (マルチ表示切替) ボタン	28
HOLD ボタン	28
ZIN (オートゼロイン) ボタン	28
S.MENU ボタン (スペクトラムスコープメニュー表示)	29
オシロスコープ / AF-FFT エリア	31
画面操作	31
MAIN バンド / SUB バンド操作部	32
送信時のメーター動作選択	32
メモリーチャンネルの選択	33
QMB チャンネルの選択	33
電波形式の切替	33
周波数の変更操作	34
バンド選択	34
MHz 桁	34
kHz 桁	35
Hz 桁	35
QMB 操作	36
MAIN ◀ SUB / SUB ▶ MAIN 操作	36
CLAR (クラリファイア) 操作	36
受信部の設定操作	37
ANT (アンテナの切り替え) ボタン	37
ATT (アッテネーター) ボタン	37
IPO (Intercept Point Optimization) ボタン	37
R.FIL (ルーフィングフィルタの切り替え) ボタン	37
AGC (Automatic Gain Control) ボタン	38
メモリーチャンネル操作	38
V/M ボタン	38
M▶V ボタン	38
V▶M ボタン	39
メモリーチャンネルリストの操作	39
メモリーチャンネルの編集	40
AF Gain/RF Gain 調節	41
AF (スピーカーアイコン)	41
RF (RF GAIN) / SQL	41
SHIFT/WIDTH 操作	42
SHIFT ボタン	42
WIDTH ボタン	42
フィルター機能表示エリアの操作	42
混信除去機能の操作	43
NB (ノイズブランカー) ボタン	43
DNR (デジタルノイズリダクション) ボタン	43
DNF (デジタルノッチフィルター) ボタン	43
NOTCH (ノッチ) ボタン	43
CONT (コンツアー) ボタン	44
APF (オーディオピークフィルター) ボタン	44
VC TUNE 操作	44
VC TUNE (VC チューン) ボタン	44
RX/TX ボタン操作	45
RX ボタン	45
TX ボタン	45
PTT 操作	45

PTT ボタン	45
メニューバー	46
File	46
Setup	46
Help	48
ショートカットキー	48
基本的な使い方 (FTDX10)	49
SCU-LAN10 リモートコントロールソフトウェアを起動する	49
リモートコントロールソフトウェア画面	50
画面レイアウトを切り替える	50
受信音量を調節する	51
周波数を変更する	51
周波数帯 (バンド) を切り替える	51
周波数を変更する	51
(1) マウスのホイール操作、ドラッグ操作	51
(2) スペクトラムスコープ画面で周波数を変更する	53
(3) テンキー画面で周波数を入力する	54
モード (電波形式) を切り替える	54
送信時に表示するメーターを切り替える	55
送信する	55
画面各部の機能 (FTDX10)	56
電源ボタン	56
リモートボタン	56
画面レイアウト切替ボタン	57
送信機能ボタン	58
TUNE ボタン	58
VOX ボタン	58
MIC GAIN/PROC ボタン	58
MONI ボタン	59
SPEED/PITCH ボタン	59
TXW ボタン	59
SPLIT ボタン	59
FUNC ボタン (ファンクションメニュー表示)	60
RF POWER ボタン	60
MONI LEVEL ボタン	61
DNR LEVEL ボタン	61
NB LEVEL ボタン	61
VOX GAIN ボタン	61
VOX DELAY ボタン	61
ANTI VOX ボタン	61
MEM CH ボタン	61
M-GROUP ボタン	62
R.FIL ボタン	62
RPT ボタン	62
MIC EQ ボタン	62
ENC/DEC ボタン	62
TONE FREQ ボタン	62
QMB LIST ボタン	63
スペクトラムスコープエリア	64
画面操作	64
スコープ機能ボタン	65
CENTER/CURSOR/FIX ボタン	65
SLOW1/SLOW2/FAST1/FAST2/FAST3 ボタン	66

SPAN ボタン	66
3DSS ボタン	66
MULTI (マルチ表示切替) ボタン	67
HOLD ボタン	67
ZIN (オートゼロイン) ボタン	67
S.MENU ボタン (スペクトラムスコープメニュー表示)	68
オシロスコープ / AF-FFT エリア	70
画面操作	70
VFO-A/VFO-B 操作部	71
送信時のメーター動作選択	71
メモリーチャンネルの選択	72
QMB チャンネルの選択	72
電波形式の切換	72
周波数の変更操作	73
バンド選択	73
MHz 桁	73
kHz 桁	74
Hz 桁	74
QMB 操作	75
VFO-A / VFO-B 切替操作	75
受信部の設定操作	76
IPO (Intercept Point Optimization) ボタン	76
R.FIL (ルーフィングフィルタの切り替え) ボタン	76
AGC (Automatic Gain Control) ボタン	77
メモリーチャンネル操作	77
M ボタン	77
V/M ボタン	77
メモリーチャンネルリストの操作	78
メモリーチャンネルの編集	79
AF Gain/RF Gain 調節	80
AF (スピーカーアイコン)	80
RF (RF GAIN)	80
SHIFT/WIDTH 操作	80
SHIFT ボタン	80
WIDTH ボタン	81
フィルター機能表示エリアの操作	81
フィルター機能表示エリアの操作	81
NB (ノイズブランカー) ボタン	81
DNR (デジタルノイズリダクション) ボタン	82
DNF (デジタルノッチフィルター) ボタン	82
NOTCH (ノッチ) ボタン	82
CONT (コンツアー) ボタン	82
APF (オーディオピークフィルター) ボタン	82
PTT 操作	83
PTT ボタン	83
メニューバー	84
File	84
Setup	84
Help	86
ショートカットキー	86
基本的な使い方 (FT-710)	87
SCU-LAN10 リモートコントロールソフトウェアを起動する	87
リモートコントロールソフトウェア画面	88
画面レイアウトを切り替える	88
受信音量を調節する	89

周波数を変更する	89
周波数帯（バンド）を切り替える	89
周波数を変更する	89
(1) マウスのホイール操作、ドラッグ操作	89
(2) スペクトラムスコープ画面で周波数を変更する	91
(3) テンキー画面で周波数を入力する	92
モード（電波形式）を切り替える	92
送信時に表示するメーターを切り替える	93
送信する	93
画面各部の機能（FT-710）	94
電源ボタン	94
リモートボタン	94
画面レイアウト切替ボタン	95
送信機能ボタン	96
TUNE ボタン	96
VOX ボタン	96
MIC GAIN/PROC ボタン	96
MONI ボタン	97
SPEED/PITCH ボタン	97
TXW ボタン	97
SYNC ボタン	97
SPLIT ボタン	97
FUNC ボタン（ファンクションメニュー表示）	98
RF POWER ボタン	98
MONI LEVEL ボタン	99
DNR LEVEL ボタン	99
NB LEVEL ボタン	99
VOX GAIN ボタン	99
VOX DELAY ボタン	99
ANTI VOX ボタン	99
MEM CH ボタン	99
M-GROUP ボタン	100
RPT ボタン	100
MIC EQ ボタン	100
ENC/DEC ボタン	100
TONE FREQ ボタン	100
QMB LIST ボタン	100
スペクトラムスコープエリア	101
画面操作	101
スコープ機能ボタン	102
CENTER/CURSOR/FIX ボタン	102
SLOW1/SLOW2/FAST1/FAST2/FAST3 ボタン	103
SPAN ボタン	103
3DSS ボタン	103
MULTI（マルチ表示切替）ボタン	104
HOLD ボタン	104
ZIN（オートゼロイン）ボタン	104
S.MENU ボタン（スペクトラムスコープメニュー表示）	105
オシロスコープ /AF-FFT エリア	107
画面操作	107
VFO-A/VFO-B 操作部	108
送信時のメーター動作選択	108
メモリーチャンネルの選択	109
QMB チャンネルの選択	109
電波形式の切替	109

周波数の変更操作	110
バンド選択	110
MHz 桁	110
kHz 桁	111
Hz 桁	111
QMB 操作	112
VFO-A / VFO-B 切替操作	112
受信部の設定操作	113
IPO (Intercept Point Optimization) ボタン	113
AGC (Automatic Gain Control) ボタン	113
メモリーチャンネル操作	114
M>V ボタン	114
V/M ボタン	114
メモリーチャンネルリストの操作	115
メモリーチャンネルの編集	116
AF Gain/RF Gain 調節	117
AF (スピーカーアイコン)	117
RF (RF GAIN)	117
SHIFT/WIDTH 操作	117
SHIFT ボタン	117
WIDTH ボタン	117
フィルター機能表示エリアの操作	118
フィルター機能表示エリアの操作	118
NB (ノイズブランカー) ボタン	118
DNR (デジタルノイズリダクション) ボタン	118
DNF (デジタルノッチフィルター) ボタン	119
NOTCH (ノッチ) ボタン	119
CONT (コンツアー) ボタン	119
APF (オーディオピークフィルター) ボタン	119
PTT 操作	120
PTT ボタン	120
メニューバー	121
File	121
Setup	121
Help	123
ショートカットキー	123

はじめに

重要

- SCU-LAN10 およびリモートコントロールソフトウェアは、インターネットまたは LAN を利用して、当社のトランシーバーを遠隔操作で運用（リモートコントロール）するための製品です。
- 本書はリモートコントロールソフトウェアの操作に関して詳しく説明しています。
- 本ソフトウェアをダウンロードまたはインストールされる前に、「ご利用上の注意」を必ずお読みのうえ、内容をご確認いただいたうえで、ダウンロードまたはインストールを行ってください。
- 本ソフトウェアをダウンロードまたはインストールされた場合は、「ご利用上の注意」に同意いただいたものとみなします。

ご利用上の注意

- 遠隔操作を行うための設定には、トランシーバーの設定だけでなくパソコンやネットワークに関する知識が必要となります。当社では、お客様のパソコンの設定やネットワーク設定に関するサポートは行ないません。
- ルーターのポート開放や、Windows ファイアウォール機能、およびセキュリティソフトウェアの設定変更などが必要になります。本製品を使用する場合のセキュリティに関しては、お客様の責任において行ってください。
- ネットワークを利用した通信では、音声や操作遅延、また音声の音質の変化などが発生し、これは原理的に改善することができません。
- お客様のネットワークまたはパソコン、OS、セキュリティソフトウェアなどの環境・状態によっては、本書に記載された手順の設定だけでは、正しく動作しないことがあります。
- 当社は、SCU-LAN10 およびソフトウェアを使用した結果、お客様の誤った設定、不具合や誤動作などによって、通信や通話の機会を逸したために発生した損害など、付随的な損害に対する責任を負わないものとします。本ソフトウェアの使用は、すべてお客様の責任において行ってください。本ソフトウェアを使用する事により、お客様に損害が生じたとしても、当社は一切の責任を負わないものとします。
- 本ソフトウェアおよび本ソフトウェアに付属されているマニュアル等の著作権、その他のいかなる知的財産権も、すべて八重洲無線株式会社に帰属します。
- 本ソフトウェアの改修、変更、リバース・エンジニアリング、逆コンパイル等の行為を禁止します。また、ダウンロードされたファイルの再配布、他メディアへの転載、販売等も禁止します。

注 意

実際に送信を伴う運用を行なうためには、電波法における審査基準（電波法関係審査基準 第 15（アマチュア局）の 26 アマチュア局の遠隔操作）の条件を満たし、日本国内における「アマチュア無線局のインターネット及び LAN（専用線）を利用した遠隔操作」の運用と電波法上の申請が必要です。

インターネットや LAN を利用した遠隔操作でアマチュア無線局を運用するための指針について、一般社団法人 日本アマチュア無線連盟（JARL）のホームページ（[インターネットを利用してアマチュア無線局の遠隔操作をおこなうための指針](#)）に案内されていますので、参考にしてください。

商標

Microsoft[®]、Windows[®]、Windows[®] 10、Windows[®] 11 は、米国 Microsoft Corporation のアメリカ合衆国および / またはその他の国における登録商標です。

* その他の社名、製品名などは、一般に各社の表示、商標または登録商標です。

その他の注意・制限事項

ネットワーク経由で遠隔操作をする場合、原理上、遅延やデータの欠落が避けられず、無線機の通常操作とは異なり、スムーズな操作ができない場合があります。具体的には以下のような現象がおこるあります。

- 音声が届切れる場合があります
- 送信 / スタンバイのタイミングが遅れる場合がありますので、コンテストやパイルアップのような、素早い応答が必要な通信などには適していません
- 実際の無線機の音声と音質が異なります
- SSTV などの画像通信や RTTY (AFSK)、JT65、FT8 などデジタルモード通信には対応していません。
- CW モードの受信は可能ですが、リモートステーションから CW 送信はできません。
- 通信モード（電波形式）やアンテナ切り替えや IF フィルターや各種混信除去機能などは、MAIN バンド / SUB バンドまたは VFO-A/VFO-B で個別に設定できますが、各アマチュアバンドでは共通です。
- リモートコントロールソフトウェアのいくつかの機能はソフトウェア側だけで処理を行っていますので、ソフトウェアで操作をしてもトランシーバー側の設定などには反映されません。

● トランシーバーのファームウェア

接続するトランシーバーは、当社ウェブサイト (<http://www.yaesu.com/jp>) に公開されているファームウェアを確認して、最新バージョンのファームウェアにアップデートしてください。

対応するファームウェアのバージョン

FTDX101MP/D	MAIN:	V01-14 以上
	DISPLAY:	V01-06 以上
	DSP:	V01-05 以上
	SDR:	V02-03 以上
	AF:	V01-00 以上
FTDX10	MAIN:	V01-01 以上
	DISPLAY:	V01-01 以上
	DSP:	V01-01 以上
	SDR:	V01-00 以上
	AF:	V01-00 以上
FT-710	MAIN:	V01-11 以上
	DISPLAY:	V01-08 以上
	DSP:	V01-01 以上
	SDR:	V01-04 以上

基本的な使い方 (FTDX101)


SCU-LAN10 リモートコントロールソフトウェアを起動する

1. Windows のスタートボタンをクリックして、“Yaesu Musen” グループの [YAESU SCU-LAN10] アイコンをクリックして、リモートコントロールソフトウェアを起動します。





- デスクトップの [YAESU SCU-LAN10] アイコンをダブルクリックしてリモートコントロールソフトウェアを起動することもできます。
- 画面左上の“Setup”メニューの“Connection Setup”でご使用になるトランシーバー(FTDX101MP/FTDX101D シリーズ)に設定されていないと、一部の機能の動作や画面の表示が正常に動作しません。設定について詳しくは“SCU-LAN10 取扱説明書 <インストール編>”を参照してください。
- はじめて SCU-LAN10 と接続したときは、自動で“Connection Setup”画面が表示されますので初期設定をしてください。



1. [] ボタンをクリックします。

自動でトランシーバーの電源がオンになり、リモートコントロールが開始されます。

リモートコントロール中は“  ” ボタンと“REMOTE” ボタンが赤色に変わります。

- [REMOTE] ボタンはリモートコントロールの開始 / 終了をします。[REMOTE] ボタンをクリックするとトランシーバーの電源がオフの時は自動でオンになります。ネットワークが不安定な場合などでリモートコントロールが切断されてしまった場合には、[REMOTE] ボタンをクリックして再開できます。
- はじめて [] ボタンまたは [REMOTE] ボタンをクリックしたときに、Windows やお使いのファイヤーウォールソフトウェアの設定により、警告画面が表示される場合があります。このときは、リモートコントロールソフトウェアからのインターネットアクセスを許可する(ブロックを解除する)ように設定してください。

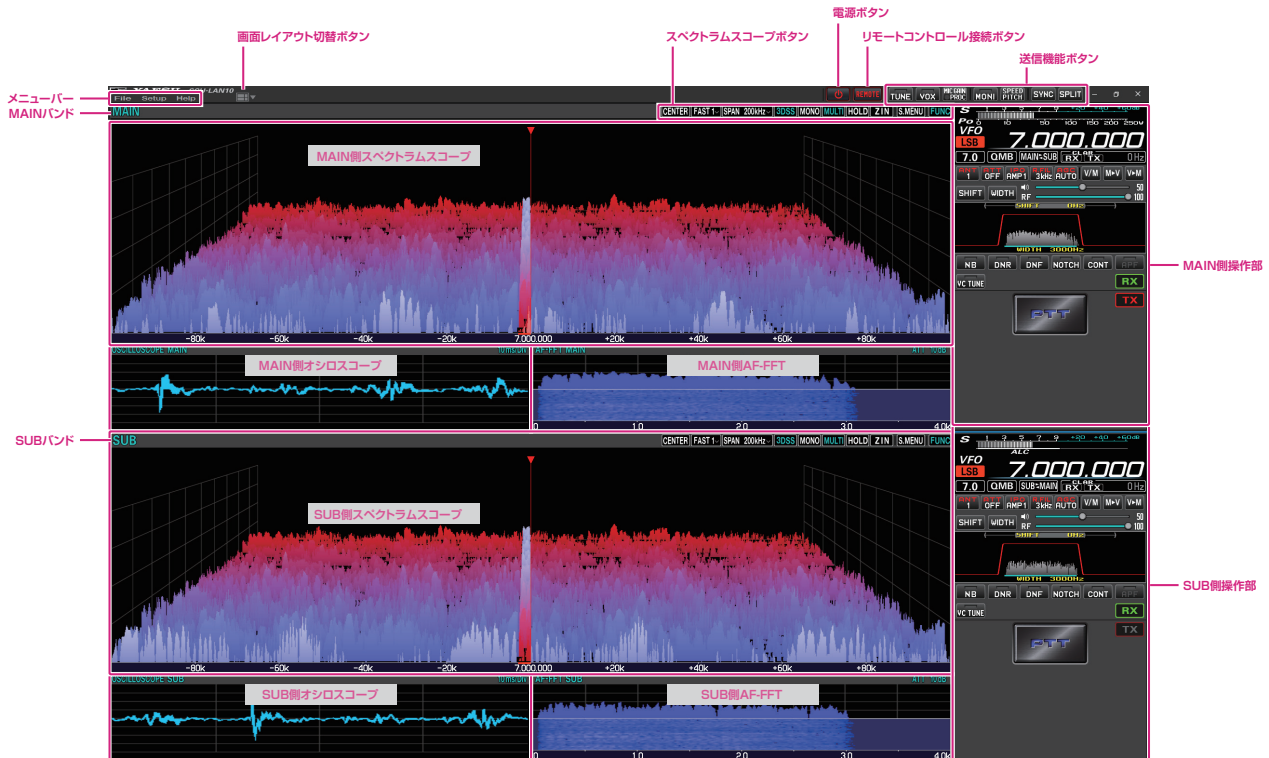


リモートコントロールソフトウェア画面

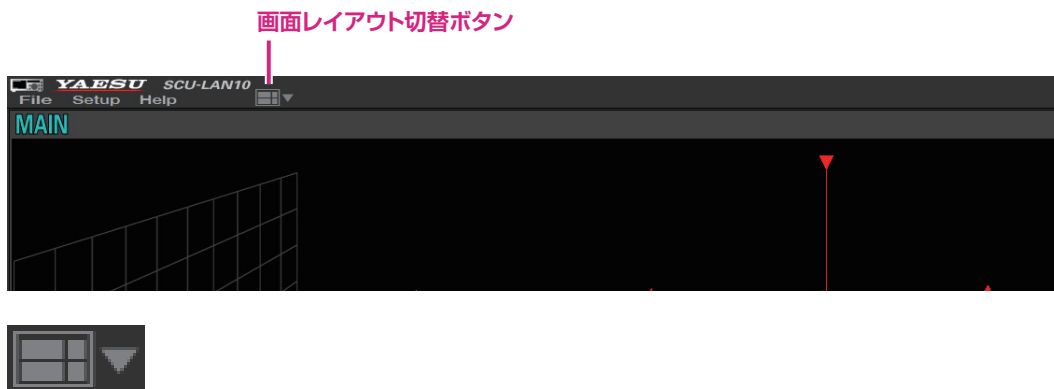
初期設定では、画面上側に MAIN バンド、下側に SUB バンド、画面左側にスペクトラムスコープ、右側に周波数やメーター、フィルター画面などが表示されます。



- 下記の表示例では [MULTI] ボタンをクリックしてオシロスコープ、AF-FFT スコープを表示させています。
- ご使用になるパソコンの画面解像度によって、各エリアのサイズやレイアウトなどは自動的に調整されますので、下記の表示例と多少異なる場合があります。



画面レイアウトを切り替える



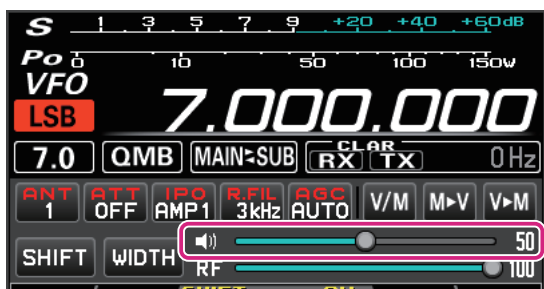
クリック：

画面レイアウトを 6 種類の中から選択できます。



クリック & ホールド：画面内の各エリアの大きさを初期設定に戻すことができます。

受信音量を調節する



● AF GAIN (スピーカーアイコン)

スライダーの上でマウスのホイールをまわすか、クリックまたはドラッグして受信音を聞きやすい音量に調節します。

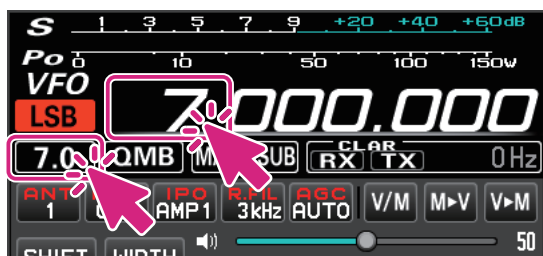


- スピーカーアイコンをクリックする度に、MUTE(消音)/MUTE 解除が切り替わります。
- パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
MAIN バンド：カーソルキー上(↑)/下(↓)
SUB バンド：Shift+ カーソルキー上(↑)/下(↓)

周波数を変更する

周波数帯 (バンド) を切り替える

1. MHz の桁またはバンド表示部をクリックするとバンド選択画面が表示されます。



2. 切り替えるバンドをクリックします。



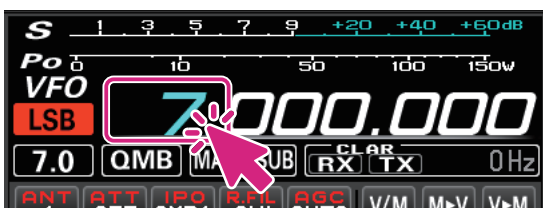
周波数を変更する

周波数の変更方法には以下の 3 通りの方法があります。

(1) マウスのホイール操作、ドラッグ操作

● MHz 桁

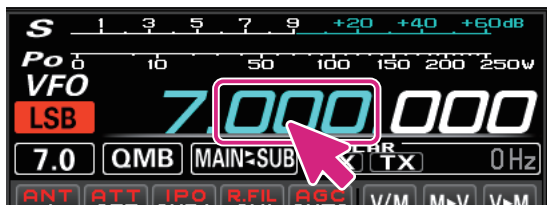
1. 周波数の MHz の上にマウスカーソルを移動すると緑色に変わります。



2. この状態でマウスのホイールをまわすと 1MHz ステップで周波数が変わります。

● kHz 桁

1. 周波数の 100kHz ~ 1kHz の 3 桁の上にマウスカーソルを移動すると 1kHz よりも上の桁が緑色に変わります。



2. この状態でマウスのホイールをまわすと、設定した FAST ステップで周波数が変わります。
 - 数字の上側半分または下側半分のクリックすると、FAST ステップで周波数がアップまたはダウンします。
 - また、数字をクリックしたままマウスを上または下に移動すると、FAST ステップで周波数が連続で変わります。
 - FAST ステップまたは TUNING ステップを変更するには 100kHz ~ 1Hz の桁を右クリックします。詳しくは次ページの“チューニングステップを変更する”を参照してください。



キーボードの [SHIFT] キーを押しながら、100kHz ~ 1Hz の桁をクリックすると、その桁以下をワンタッチでゼロにできます。

● Hz 桁

1. 周波数の 100Hz ~ 1Hz の 3 桁の上にマウスカーソルを移動すると、周波数のすべての桁が緑色に変わります。



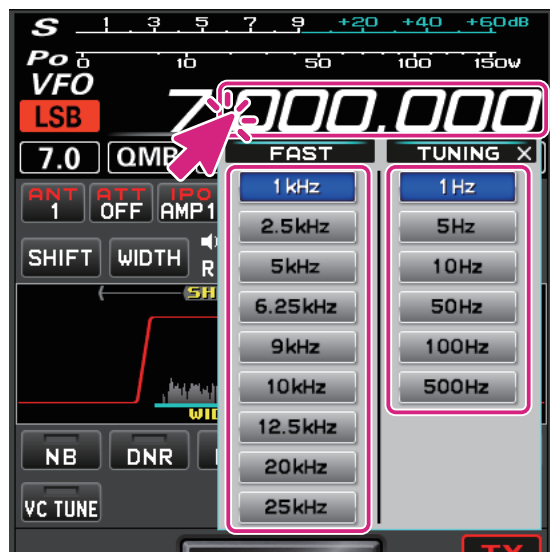
2. この状態でマウスのホイールをまわすと、TUNING ステップで周波数が変わります。
 - 数字の上側半分または下側半分のクリックすると、TUNING ステップで周波数がアップまたはダウンします。
 - また、数字をクリックしたままマウスを上または下に移動すると、TUNING ステップで周波数が連続で変わります。
 - TUNING ステップまたは FAST ステップを変更するには 100kHz ~ 1Hz の桁を右クリックします。詳しくは次ページの“チューニングステップを変更する”を参照してください。



- キーボードの [SHIFT] キーを押しながら、100kHz ~ 1Hz の桁をクリックすると、その桁以下をワンタッチでゼロにできます。
- 周波数表示部ではキーボードの [SHIFT] キーを押しながらホイールをまわしても FAST ステップにはなりません。
- パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
MAIN バンド：Page UP キー /Page Down キー
SUB バンド：Shift+Page UP キー /Shift+Page Down キー

• チューニングステップを変更する

1. 100kHz ~ 1Hz の桁を右クリックすると、FAST ステップと TUNING ステップの設定画面が表示されます。
2. 切り替える FAST ステップまたは TUNING ステップをクリックします。



(2) スペクトラムスコープ画面で周波数を変更する

1. スペクトラムスコープの画面にマウスカーソルを移動して、マウスのホイールをまわすと TUNING ステップで周波数が変化します。
 - キーボードの [SHIFT] キーを押しながらマウスのホイールをまわすと FAST ステップで周波数がアップ/ダウンします。
 - また、スペクトラムスコープで信号のピークなど、スコープ画面内をクリックすると、その周波数付近にジャンプします。その後、マウスのホイールをまわして周波数を合わせて目的の信号を聞くことができます。

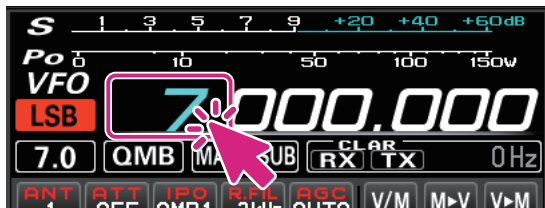


スペクトラムスコープ画面内を右クリックすると FAST ステップと TUNING ステップの設定画面が表示されます。

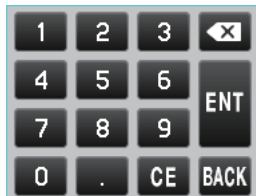


(3) テンキー画面で周波数を入力する

1. 周波数の MHz の桁で右クリックするとテンキー画面が表示されます。



2. 画面をマウスでクリックするか、またはパソコンの数字キーで周波数を入力します。

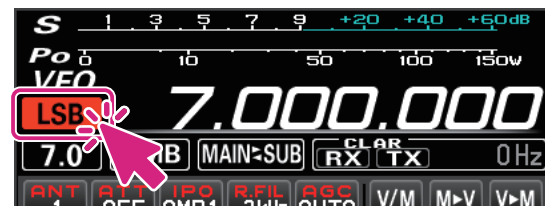


キーボード操作：

- Enter キー： 入力した周波数を確定する (ENT)
- Backspace キー： カーソルの前の数字を消去する (X)
- DEL キー： 入力中の数字を全て消去する (CE)
- ESC キー： 周波数入力をキャンセルしてテンキー画面を閉じる (BACK)

モード（電波形式）を切り替える

1. モードのアイコンをクリックします。



2. 切り替えるモードをクリックします。



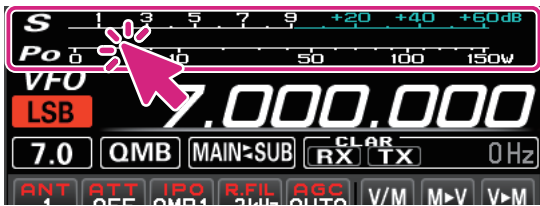
- モードのアイコンを右クリックすると、下記のモードの間をワンタッチで切り換えることができます。
LSB ↔ USB、CW-L ↔ CW-U、AM ↔ AM-N、FM ↔ FM-N
DATA-L ↔ DATA-U、DATA-FM ↔ D-FM-N、RTTY-L ↔ RTTY-U



- パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
LSB/USB： F1 キー (MAIN バンド), Shift+F1 キー (SUB バンド)
CW-L/CW-U： F2 キー (MAIN バンド), Shift+F2 キー (SUB バンド)
AM： F3 キー (MAIN バンド), Shift+F3 キー (SUB バンド)
FM： F4 キー (MAIN バンド), Shift+F4 キー (SUB バンド)

送信時に表示するメーターを切り替える

1. S/PO メーターをクリックします。



2. 切り替えるメーターをクリックします。



送信する

1. PTT ボタンをクリック & ホールドしている間、送信状態になります。

送信中は周波数の上に TX アイコンが表示されます。



2. パソコンのマイクロホンに向かって話します。
3. PTT ボタンを放すと受信に戻ります。



パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
スペースキー

● MOX ボタンに切り替える

PTT スイッチを MOX スイッチに切り替えることができます。

1. PTT ボタンを右クリックすると“PTT”と“MOX”の設定画面が表示されます。



2. [MOX] をクリックします。

画面各部の機能 (FTDX101)

電源ボタン

電源ボタン



クリック： リモートコントロール中ではないときは、自動でトランシーバーの電源がオンになり、リモートコントロールを開始します。
リモートコントロール中は、自動でトランシーバーの電源がオフになり、リモートコントロールを終了します。

リモートボタン

リモートコントロール接続ボタン



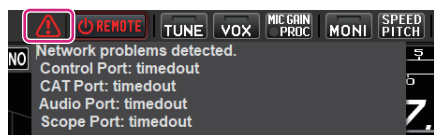
クリック： リモートコントロール中ではないときは、トランシーバーの電源がオフの時は自動でオンになりリモートコントロールを開始します。
リモートコントロール中は、トランシーバーの電源はオフにせず、リモートコントロールを終了します。



ネットワークが不安定な場合などでリモートコントロールが切断されてしまった場合に、[REMOTE] ボタンをクリックしてリモートコントロールを再開できます。

• ワーニング (注意) 表示

ワーニング表示が点灯したまま、あるいは時々点灯する場合は、ネットワーク回線またはポート解放の設定に問題がある可能性があります。SCU-LAN10 取扱説明書<インストール編>を参照し、設定を最初からやり直してください。ワーニング表示をクリックして、検出された問題を確認することができます。

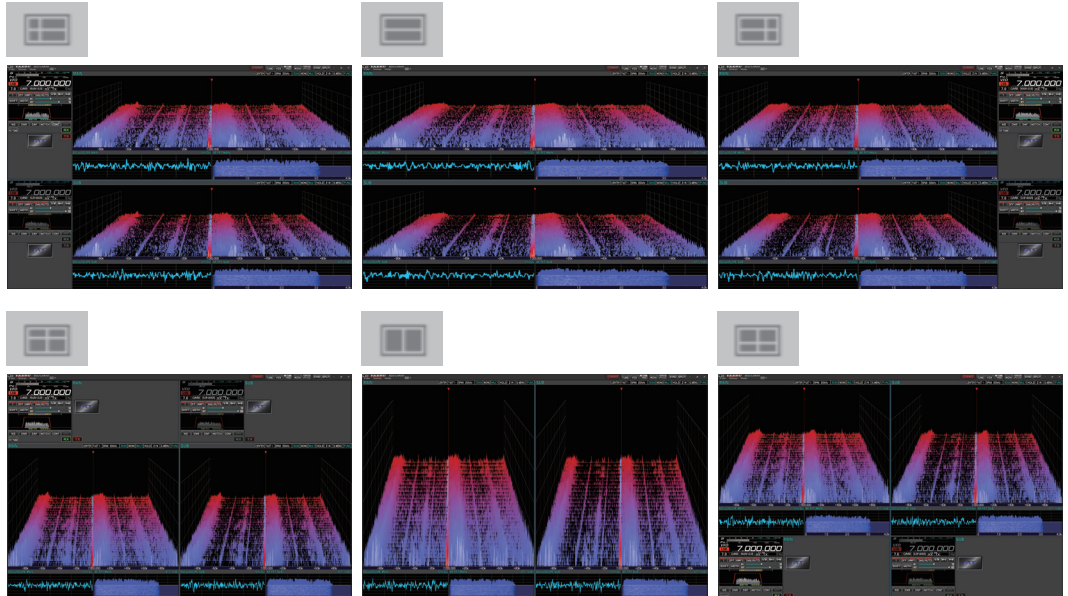


画面レイアウト切替ボタン

画面レイアウト切替ボタン

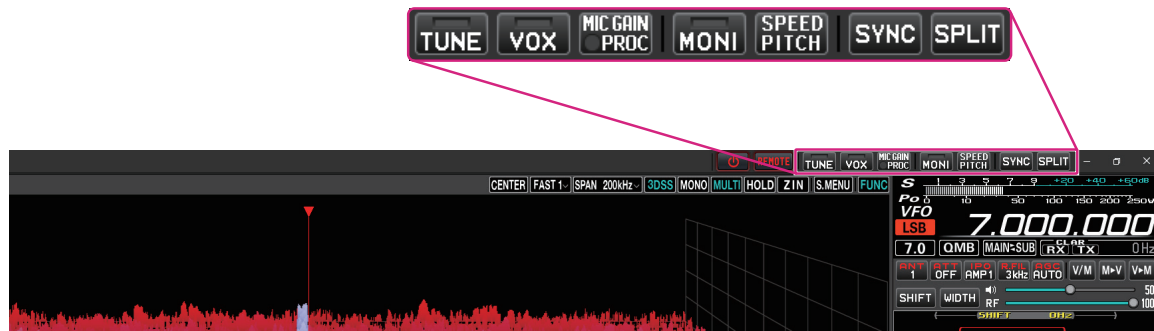


クリック： 画面レイアウトを 6 種類の中から選択します。



クリック & ホールド： 画面内の各エリアの大きさを初期設定に戻すことができます。

送信機能ボタン



TUNE ボタン

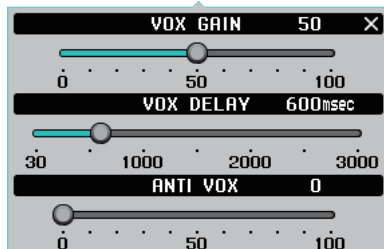


- クリック：** アンテナチューナーの ON/OFF を切り替えます。
ON の時、ボタンのインジケーターが赤く点灯します。
- クリック & ホールド：** 自動的に送信状態になり、アンテナチューナーのチューニング動作がスタートします。

VOX ボタン




- クリック：** VOX の ON/OFF を切り替えます。
ON の時、ボタンのインジケーターが赤く点灯します。
- 右クリック：** VOX 設定ウィンドウが開きます



MIC GAIN/PROC ボタン



- クリック：** PROC の ON/OFF を切り替えます。(LSB または USB モード時のみ動作します)
ON の時、ボタンの丸いインジケーターが赤く点灯します。
- 右クリック：** MIC GAIN/AMC/PROC 設定ウィンドウが開きます。
MIC GAIN/AMC/PROC 設定ウィンドウは右上の [ピン留めボタン]  をクリックすると、表示させたままにすることができます。



MONI ボタン



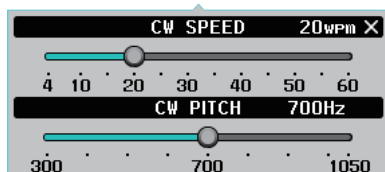
- クリック：** モニター機能の ON/OFF を切り替えます。
ON の時、ボタンのインジケーターが赤く点灯します。
- 右クリック：** モニターレベル（音量）設定ウィンドウが開きます



SPEED/PITCH ボタン



- クリック：** CW SPEED と CW PITCH の設定ウィンドウが開きます。



SYNC ボタン



- クリック：** SYNC（シンクロ機能）の ON/OFF を切り替えます。
ON の時、ボタンが赤色で表示されます。

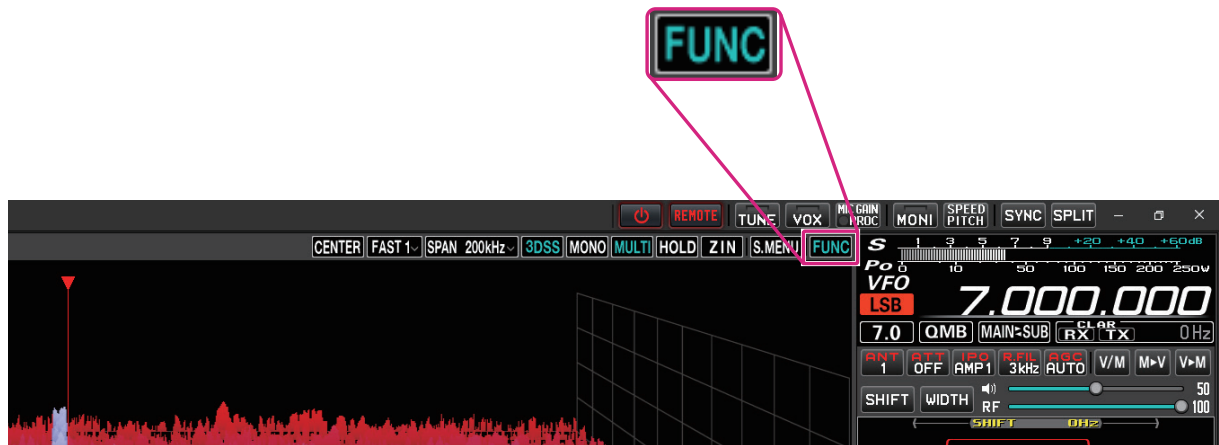
SPLIT ボタン



- クリック：** SPLIT（スプリット機能）の ON/OFF を切り替えます。
ON の時、ボタンが赤色で表示されます。
- クリック & ホールド：** クイックスプリット機能により、SUB バンド周波数が MAIN バンドの周波数 + クイックスプリット機能のオフセット周波数（初期設定値 : +5kHz）に設定されて、スプリット機能が ON になります。
スプリット機能が ON のときには、クリック & ホールドする度に SUB バンド周波数にオフセット周波数（初期設定値 : +5kHz）分が加算されます。
- 右クリック：** クイックスプリット機能のオフセット周波数の設定画面が開きます。



FUNC ボタン（ファンクションメニュー表示）



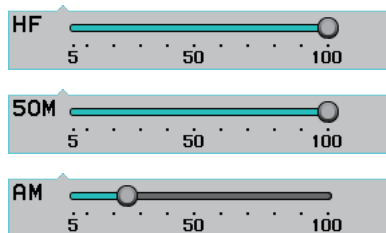
クリックすると各種機能の設定を行うファンクションメニュー画面を表示します。（トランシーバーのファンクションメニュー表示とは一部、項目が異なります。）



RF POWER ボタン



クリック： 現在の送信周波数（HF 帯 /50MHz 帯）または通信モード（AM モード）、それぞれの送信出力を調節します。



送信出力の設定は、トランシーバー本体のセットモード“MAX POWER”で設定されている最大送信出力以下の範囲内で設定できます。リモートコントロールではセットモード“MAX POWER”は変更できません。

セットモード **[OPERATION SETTING] → [TX GENERAL]**

HF MAX POWER（HF 帯）

50M MAX POWER（50MHz 帯）

AM MAX POWER（AM モード）

MONI LEVEL ボタン

MONI LEVEL
50

クリック： モニター機能の音量を調節します。



DNR LEVEL ボタン

DNR LEVEL
1

クリック： DNR レベル（ノイズが減衰するレベル）を調節します。



NB LEVEL ボタン

NB LEVEL
0

クリック： NB（ノイズブランカー）レベルを調節します。



VOX GAIN ボタン

VOX GAIN
50

クリック： VOX ゲインの調節をします。



VOX DELAY ボタン

VOX DELAY
500ms

クリック： VOX 機能で送信中に言葉の切れ目で受信状態に戻るまでの時間 (30 ~ 3000msec) を設定します。



ANTI VOX ボタン

ANTI VOX
50

クリック： VOX が“ON”のときに、スピーカーからの受信音で送信状態にならないように調節します。



MEM CH ボタン

MEM CH
M-01

メモリーモード中、メモリーチャンネルを選択します。

クリック： ボタンの上部をクリックすると順にメモリーチャンネルを選択します。ボタンの下部をクリックすると逆順にメモリーチャンネルを選択します。

ホイール： メモリーチャンネルを選択します。

M-GROUP ボタン

M-GROUP
OFF

クリック：メモリーグループ機能が ON のとき、メモリーグループを順に選択します。

ホイール：メモリーグループ機能が ON のとき、メモリーグループを選択します。

右クリック：メモリーグループ機能の ON/OFF を選択します。



R.FIL ボタン

R. FIL
3kHz

クリック：ルーフィングフィルタを選択します。現在の通信モードによって選択できるルーフィングフィルタは異なります。



- リモートコントロールする無線機に装備されていないルーフィングフィルタは表示されません。
- 300Hz、1.2kHz のフィルタはオプションです。(FTDX101MP の MAIN 側には 300Hz のフィルタが標準装備されています。)
- パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
r キー (MAIN バンド), Shift+r キー (SUB バンド)

RPT ボタン

RPT
SIMP

クリック：レピータ運用時のシフト方向を選択します。



SIMP：送信、受信共に同じ周波数です。

+ (プラス)：受信周波数より高い周波数（初期設定は +100kHz）で送信します。

- (マイナス)：受信周波数より低い周波数（初期設定は -100kHz）で送信します。

MIC EQ ボタン

MIC EQ
OFF

クリック：パラメトリックマイクイコライザー機能の ON/OFF を切り替えます。

※リモートコントロールでマイクイコライザーのパラメータの詳細設定は変更できません。

ENC/DEC ボタン

ENC/DEC
OFF

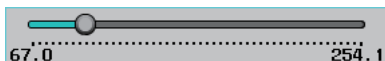
クリック：トーンエンコーダー機能またはトーンスケルチ機能をオンにします。



TONE FREQ ボタン

TONE FREQ
88.5

クリック：トーンエンコーダー機能およびトーンスケルチ機能のトーン周波数を設定します。



QMB LIST ボタン

QMB LIST

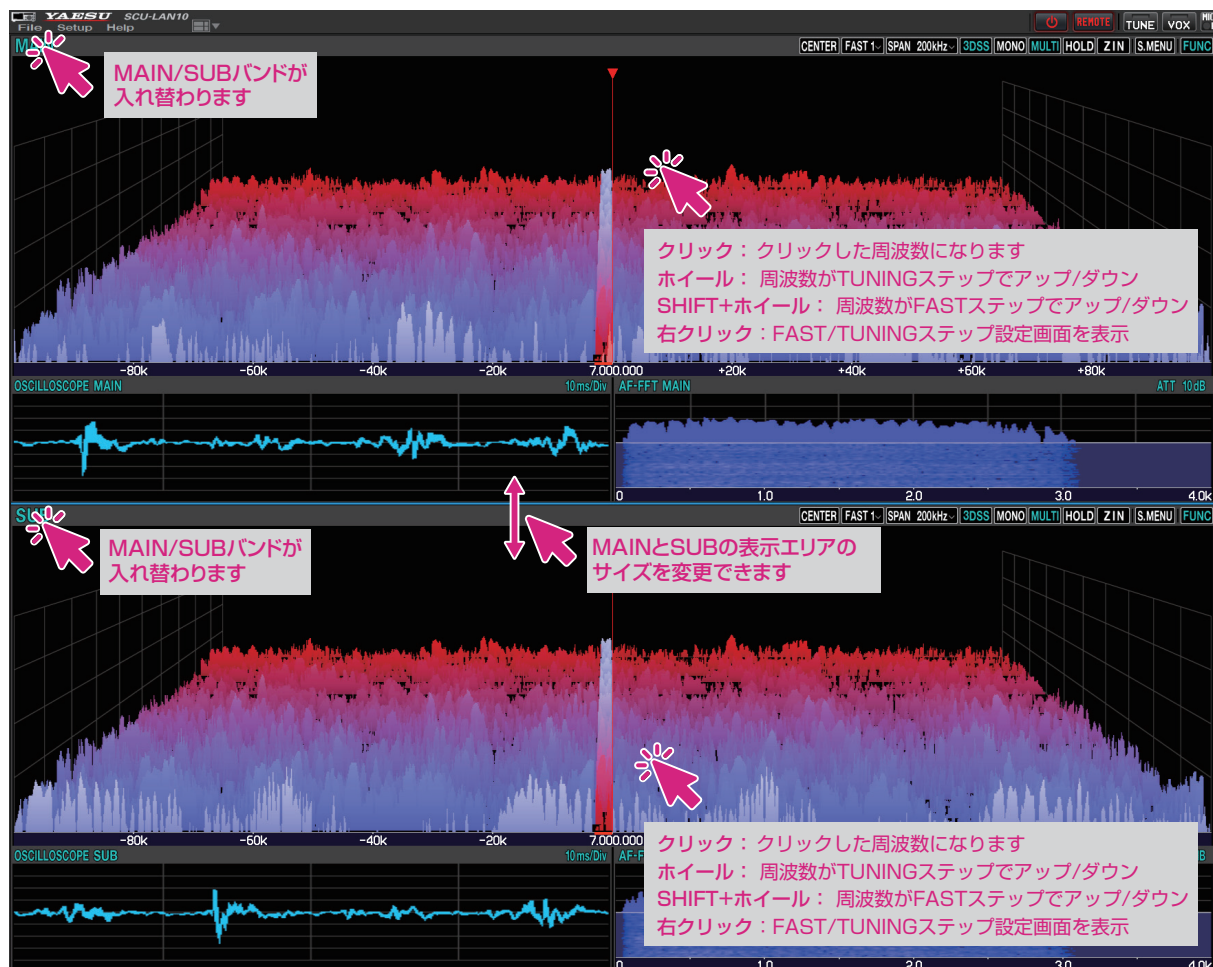
現在の周波数帯の QMB（クイックメモリーバンク）にメモリーされている内容を確認または削除することができます。また、右上の [10ch] または [5ch] をクリックして、QMB のメモリーチャンネル数を設定できます。

QMB LIST						X
1	--.---.---	-----	6	--.---.---	-----	10ch
2	--.---.---	-----	7	--.---.---	-----	
3	--.---.---	-----	8	--.---.---	-----	
4	--.---.---	-----	9	--.---.---	-----	
5	--.---.---	-----	10	--.---.---	-----	
						DELETE

スペクトラムスコープエリア

画面操作

3DSS 表示



キーボードの [SHIFT] キーを押しながらマウスのホイールをまわすと周波数が FAST ステップでアップダウンします。

ウォーターホール表示



キーボードの [SHIFT] キーを押しながらマウスのホイールをまわすと周波数が FAST ステップでアップダウンします。

- ホイールをまわして受信周波数を変更

スペクトラムスコープ画面でマウスのホイールをまわすと、受信周波数が TUNING ステップでアップ / ダウンします。

また、キーボードの [SHIFT] キーを押しながらマウスのホイールをまわすと周波数が FAST ステップでアップダウンします。

- クリックして受信周波数を変更

スペクトラムスコープ画面をクリックすると、その周波数付近にジャンプします。その後、マウスのホイールをまわして周波数を合わせて目的の信号を聞くことができます。

- 右クリックして FAST/TUNING ステップを変更

スペクトラムスコープ画面をクリックすると、FAST ステップと TUNING ステップの設定画面が開きます。

- MAIN/SUB バンド表示切り換え



クリックする度に MAIN バンドと SUB バンドの表示位置が入れ替わります。

- MAIN バンド / SUB バンドの画面サイズ変更

マウスカーソルを青色の線の上に移動して “↓” に変わったときにドラッグすると MAIN バンドと SUB バンドの表示エリアのサイズを変更できます。

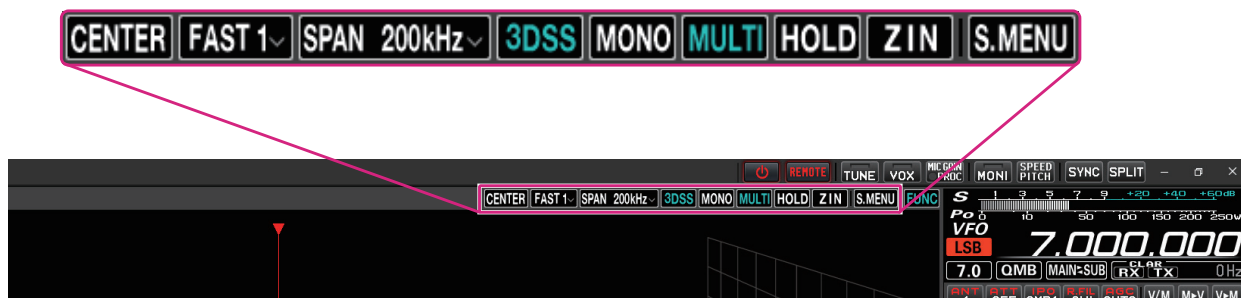
※画面レイアウトアイコン をクリック & ホールドすると、サイズを初期化することができます。

- ウォーターホール表示エリアのサイズ変更

スペクトラムスコープがウォーターホール表示になっているときに、ウォーターホール表示部をクリックすると、表示エリアのサイズを 3 段階で変更できます。

※画面レイアウトアイコン をクリック & ホールドすると、サイズを初期化することができます。

スコープ機能ボタン



CENTER/CURSOR/FIX ボタン



スペクトラムスコープの動作を切り替えます。

クリック： CENTER (センター) 表示と CURSOR (カーソル) 表示、FIX (フィックス) 表示が、クリックするたびに切り替わります。

クリック & ホールド：

- ・ CENTER または CURSOR の時にボタンをクリック & ホールドすると、受信周波数の 100Hz 以下の桁がゼロになります。
- ・ FIX の時にボタンをクリック & ホールドすると、受信周波数がスコープのスタート周波数に戻ります。

右クリック： FIX の時にボタンを右クリックすると、スコープのスタート周波数 (左端) を入力するポップアップ画面が開きます。



キーボード操作：

Enter キー： 入力した周波数を確定する (ENT)

Backspace キー： カーソルの前の数字を消去する (X)

DEL キー： 入力中の数字を全て消去する (CE)

ESC キー： 周波数入力をキャンセルしてテンキー画面を閉じる (BACK)

SLOW1/SLOW2/FAST1/FAST2/FAST3 ボタン



スペクトラムスコープ表示のスweep速度を切り替えます。

クリック： スペクトラムスコープ表示のスweep速度を選択するポップアップ画面が表示されます。



SLOW1：	スweepスピード	遅い
SLOW2：	スweepスピード	↑
FAST1：	スweepスピード	標準
FAST2：	スweepスピード	↓
FAST3：	スweepスピード	早い



この機能の設定は、リモートコントロールソフトウェアにのみ適用されます。トランシーバーのスペクトラムスコープ画面とは個別の設定です。

SPAN ボタン



スコープ画面の周波数スパン（表示範囲）を設定します。

クリック： スコープ表示のスパンを選択するポップアップ画面が表示されます。



パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。

MAIN バンド：カーソルキー左(←)/ 右(→)

SUB バンド：Shift+ カーソルキー左(←)/ 右(→)

3DSS ボタン



3DSS 表示とウォーターフォール表示を切り換えます。

クリック： “3DSS” 表示と “ウォーターフォール” 表示が切り替わります。“3DSS” 表示のときボタンの文字が緑色で表示されます。

MONO（デュアル / モノ表示切替）ボタン



スコープ画面を MAIN バンドまたは SUB バンドの片側だけを表示する “MONO” 表示に切り替えます。

クリック： “MONO” 表示のときボタンが赤色で点滅して表示されます。

MULTI（マルチ表示切替）ボタン



クリック： オシロスコープ画面と AF-FFT 画面を表示する “マルチ表示” に切り替わります。“マルチ表示” のときボタンの文字が緑色で表示されます。

クリック & ホールド： “マルチ表示” の時にボタンをクリック & ホールドすると、オシロスコープ画面と AF-FFT 画面の表示位置を変更できます。

HOLD ボタン



MAIN/SUB 両方のスコープ画面と受信のフィルター画面の波形描画を一時停止します。

クリック： 一時停止 / 解除します。一時停止中はボタンが赤色で点滅して表示されます。

ZIN（オートゼロイン）ボタン



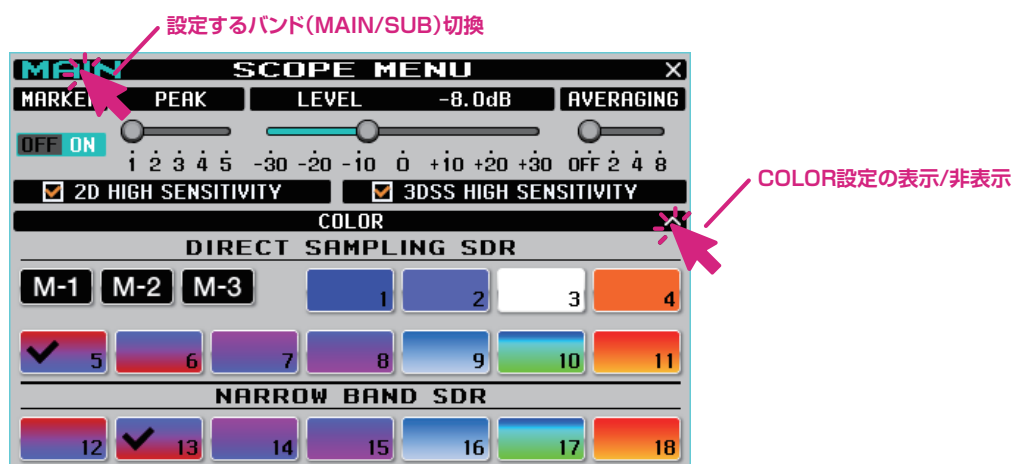
CW モードで CW 信号を受信中、受信 PITCH（音程）と一致するように、相手局の周波数に自動的に調整（ゼロイン）できます。

クリック： CW 信号を受信中にクリックすると、自動的にゼロインします。

S.MENU ボタン（スペクトラムスコープメニュー表示）



クリック： スコープ表示に関する設定を行うスコープメニュー画面を表示します。



● MARKER



ON/OFF のボタン部分をクリックして、受信周波数マーカー（緑）、送信周波数マーカー（赤）の表示を ON/OFF します。



スペクトラムスコープの動作が“CENTER”に設定されている時は、常にスコープの中心が受信周波数ですので、受信周波数マーカー（緑）は表示されません。

● PEAK



信号のレベルに対するスペクトラムスコープの表示色の濃淡を調整できます。

LV1：薄い

LV2：↑

LV3：標準

LV4：↓

LV5：濃い



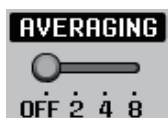
この機能の設定は、リモートコントロールソフトウェアにのみ適用されます。トランシーバーのスペクトラムスコープ画面の設定とは個別に動作します。

● LEVEL



目的の信号とノイズを区別しやすくするため、表示レベルの調整をします。

● AVERAGING



波形を平均化して滑らかに表示します。

OFF： 平均化しません

2 ～ 8： 平均化して表示します



- この機能はリモートコントロールソフトウェア専用ですので、この設定はトランシーバーのスペクトラムスコープ画面には影響しません。
- この機能の設定は、MAIN バンド / SUB バンドのスペクトラムスコープ画面で共通です。

● 2D HIGH SENSITIVITY



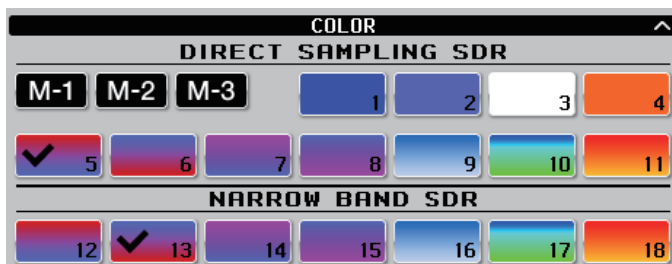
チェックマークを付けるとウォーターフォールの表示感度（縦軸）を強調して表示します。

● 3DSS HIGH SENSITIVITY



チェックマークを付けると 3DSS の表示感度（縦軸）を強調して表示します。

● COLOR 設定



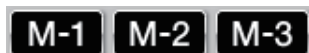
好みのカラーをクリックして表示色を選択します。

ダイレクトサンプリング SDR の受信部分とナローバンド SDR の受信部分のそれぞれの表示色を選択できます。



この機能の設定は、リモートコントロールソフトウェアにのみ適用されます。トランシーバーのスペクトラムスコープ画面の設定とは個別に動作します。

● 表示色メモリー



クリック： [M-1] ～ [M-3] ボタンをクリックして呼び出すことができます。

クリック & ホールド： 設定した表示色の組み合わせを [M-1] ～ [M-3] ボタンをクリック & ホールドして、保存することができます。

工場出荷時設定： M-1 COLOR-5、COLOR-13

M-2 COLOR-9、COLOR-17

M-3 COLOR-1、COLOR-18


オシロスコープ / AF-FFT エリア

画面操作



● オシロスコープ / AF-FFT エリアのサイズ変更

オシロスコープ / AF-FFT エリアの上部のタイトルバーをドラッグするとオシロスコープ / AF-FFT の表示エリアのサイズを変更することができます。

※画面上部の画面レイアウトアイコン  をクリック & ホールドすると、サイズを初期化することができます。

● クリックしてレベルとスイープスピードの設定（オシロスコープ）

オシロスコープ表示エリア内をクリックすると、波形の表示レベルと時間軸のスケールを設定できます。



レベル設定とスイープスピードの設定は、MAIN バンド / SUB バンドのオシロスコープ画面で共通の設定です。

● アッテネータの設定（AF-FFT）

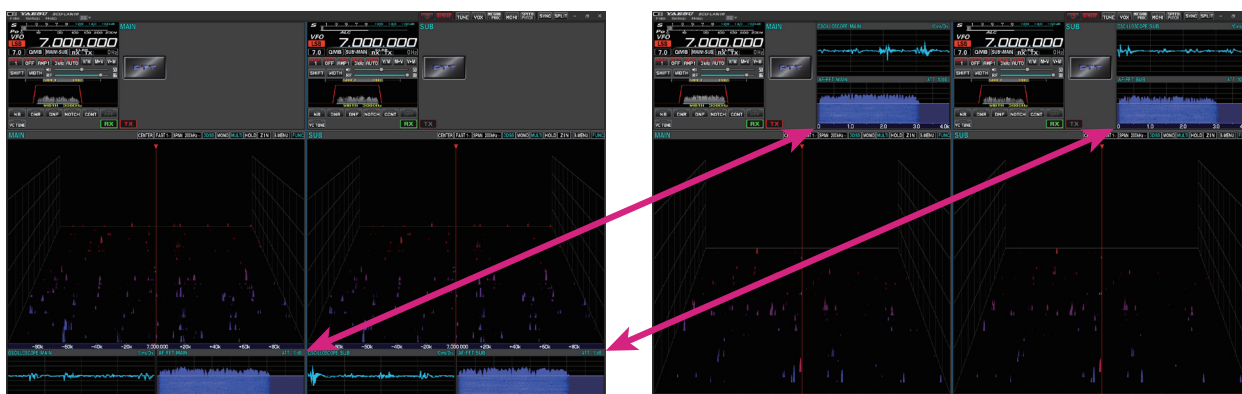
AF-FFT 表示エリア内をクリックすると、アッテネータを設定できます。



アッテネータの設定は、MAIN バンド / SUB バンドの AF-FFT 画面で共通の設定です。

● 表示位置の変更

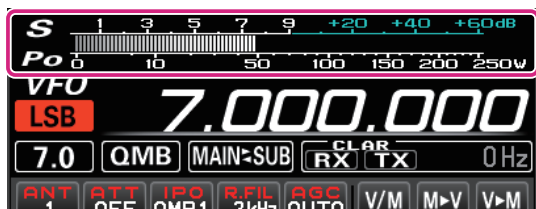
“マルチ表示”の時に [MULTI] ボタンをクリック & ホールドすると、オシロスコープ画面と AF-FFT 画面の表示位置を変更できます。



MAIN バンド /SUB バンド操作部



送信時のメーター動作選択

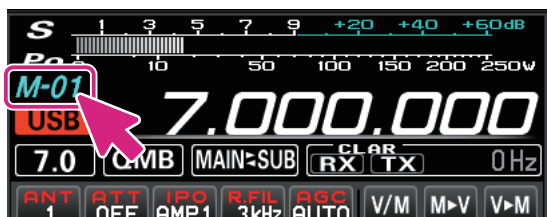


クリック： 送信時のメーター動作を選択できます。



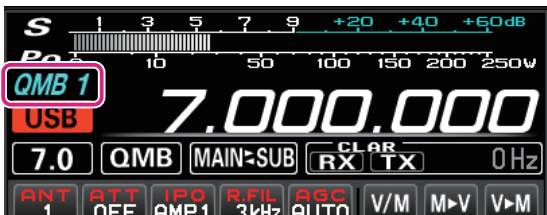
- PO： 送信出力表示
- ALC： ALC 電圧表示
- SWR： アンテナ SWR 表示
- COMP： AMC ゲインコントロール表示
(スピーチプロセッサ動作時はコンプレッションレベル表示)
- ID： 終段 FET のドレイン電流表示
- VDD： 終段 FET のドレイン電圧表示
- TEMP： 終段 FET の温度表示

メモリーチャンネルの選択



ホイール：メモリーチャンネル呼び出し中にメモリーチャンネル表示部でホイールをまわすとメモリーチャンネルが選択できます。

QMB チャンネルの選択



ホイール：QMB 呼び出し中に QMB チャンネル表示部でホイールをまわすと QMB メモリーチャンネルが選択できます。



パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。

MAIN バンド：q キー

SUB バンド：Shift+q キー

電波形式の切換



クリック：電波形式の切換ができます。



右クリック：下記のモード間をワンタッチで切り換えることができます。

LSB ↔ USB、CW-L ↔ CW-U、AM ↔ AM-N、FM ↔ FM-N

DATA-L ↔ DATA-U、DATA-FM ↔ D-FM-N、RTTY-L ↔ RTTY-U



パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。

LSB/USB：F1 キー (MAIN バンド)、Shift+F1 キー (SUB バンド)

CW-L/CW-U：F2 キー (MAIN バンド)、Shift+F2 キー (SUB バンド)

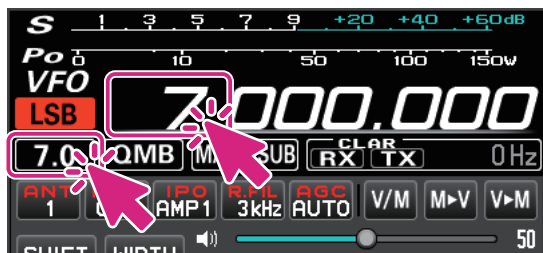
AM：F3 キー (MAIN バンド)、Shift+F3 キー (SUB バンド)

FM：F4 キー (MAIN バンド)、Shift+F4 キー (SUB バンド)

周波数の変更操作

バンド選択

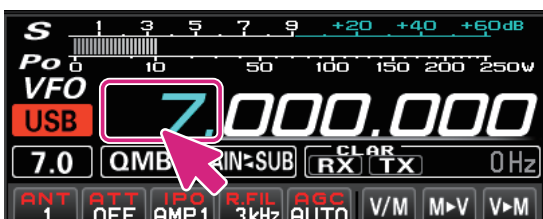
MHz の桁またはバンド表示部をクリックするとバンド選択画面が表示されます。



クリック： バンド選択



MHz 桁

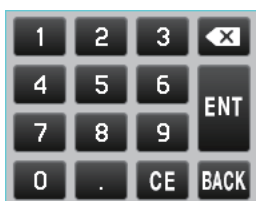


ホイール： 周波数が 1MHz ずつアップ / ダウン

クリック： バンド選択



右クリック： テンキー画面がポップアップして周波数を入力できます。テンキー画面をマウスでクリックするか、またはパソコンのキーボードで入力することもできます。



キーボード操作：

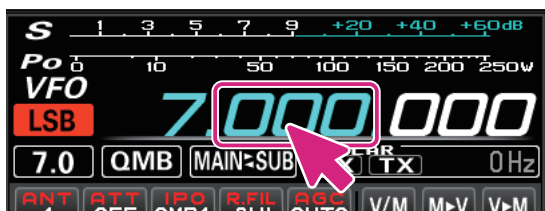
Enter キー： 入力した周波数を確定する (ENT)

Backspace キー： カーソルの前の数字を消去する (<X>)

Delete キー： 入力中の数字を全て消去する (CE)

Esc キー： 周波数入力をキャンセルしてテンキー画面を閉じる (BACK)

kHz 桁



- ホイール： 周波数が FAST ステップずつアップ / ダウン
 クリック： 数字の上半分 / 下半分をクリックすると周波数が FAST ステップずつアップ / ダウン
 上下にドラッグ： 周波数が FAST ステップで連続的にアップ / ダウン
 右クリック： FAST ステップ / TUNING ステップの設定画面を表示

FASTステップ TUNINGステップ



キーボードの[SHIFT]キーを押しながら、各桁の数字をクリックすると、その桁以下の数字をワンタッチでゼロにできます。

Hz 桁



- ホイール： TUNING ステップで周波数がアップ / ダウン
 クリック： 数字の上半分 / 下半分をクリックすると TUNING ステップで周波数がアップ / ダウン
 上下にドラッグ： TUNING ステップで周波数が連続でアップ / ダウン
 右クリック： FAST ステップ / TUNING ステップの設定画面を表示

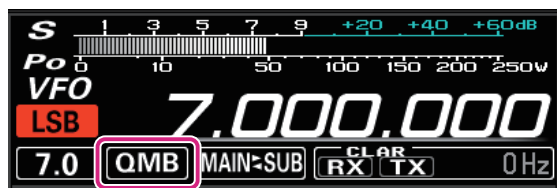
FASTステップ TUNINGステップ



- 周波数表示部ではキーボードの[SHIFT]キーを押しながらホイールをまわしても FAST ステップにはなりません。
- キーボードの[SHIFT]キーを押しながら、各桁の数字をクリックすると、その桁以下の数字をワンタッチでゼロにできます。
- パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
 MAIN バンド：Page UP キー /Page Down キー
 SUB バンド：Shift+Page UP キー /Shift+Page Down キー



QMB 操作



クリック： QMB にメモリーされている情報が順番に呼び出されます。



- QMB 呼び出し中に QMB チャンネル番号表示部の上にマウスカーソルを重ねてホイールをまわすと QMB チャンネルを選択することができます。
- パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
MAIN バンド：q キー
SUB バンド：Shift+q キー

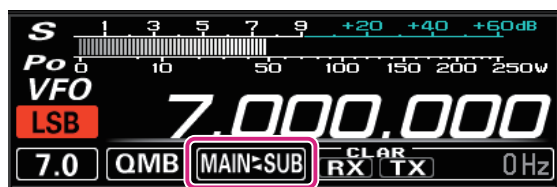
クリック & ホールド： 現在の運用状態を専用のメモリーチャンネル（QMB：クイックメモリーバンク）に 5 チャンネルまたは 10 チャンネルまでメモリーすることができます。

右クリック： QMB のリストが表示されます。

QMB LIST						
1	--.---.---	-----	6	--.---.---	-----	10ch
2	--.---.---	-----	7	--.---.---	-----	
3	--.---.---	-----	8	--.---.---	-----	
4	--.---.---	-----	9	--.---.---	-----	
5	--.---.---	-----	10	--.---.---	-----	DELETE

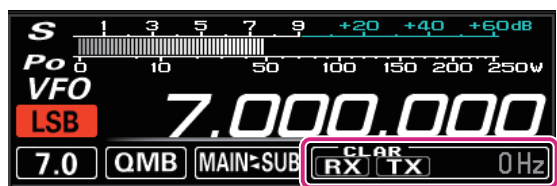
削除したいQMBメモリーをクリックして[DELETE]ボタンをクリックすると、消去することができます。
右上の[5ch]または[10ch]ボタンをクリックすると、QMBのチャンネル数を切り替えられます。

MAIN \rightrightarrows SUB / SUB \rightrightarrows MAIN 操作



クリック： MAIN バンドと SUB バンドの周波数や設定を入れ換えます。

CLAR (クラリファイア) 操作



クリック： [RX] また [TX] ボタンをクリックすると、RX クラリファイアまたは TX クラリファイアがオンになります。

ホイール： オフセット量（受信周波数と送信周波数の差）の表示部でホイールをまわすと、オフセット量が 10Hz ステップまたは 100Hz ステップ（AM/FM/DATA-FM/D-FM-N モード時）で変わります。

クリック & ホールド： [RX] また [TX] ボタンをクリック & ホールドすると、オフセット量をクリアします。

受信部の設定操作



ANT（アンテナの切り替え）ボタン



現在使用しているアンテナ端子番号（“1”：ANT 1、“2”：ANT 2、“3”：ANT 3/RX）を表示します。

クリック： アンテナ端子を選択します。



ATT（アッテネーター）ボタン



現在の ATT（受信入力信号の減衰量）設定を表示します。

クリック： 減衰量を選択します。



IPO（Intercept Point Optimization）ボタン



現在の IPO 設定を表示します。接続するアンテナやコンディションによる受信する信号強度にあわせて、RF アンプ部のゲインを選択できます。

クリック： IPO、AMP1（利得約 10dB）、AMP2（利得約 20dB）から選択します。



R.FIL（ルーフィングフィルタの切り替え）ボタン



現在選択されているルーフィングフィルタの帯域幅を表示します。

クリック： 300Hz、600Hz、1.2kHz、3kHz、12kHz のルーフィングフィルタを選択します。

現在の通信モードによって選択できるルーフィングフィルタは異なります。



- リモートコントロールする無線機に装備されていないルーフィングフィルタは表示されません。
- 300Hz、1.2kHz のフィルタはオプションです。（FTDX101MP の MAIN 側には 300Hz のフィルタが標準装備されています。）
- パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
MAIN バンド：r キー
SUB バンド：Shift+r キー



AGC (Automatic Gain Control) ボタン



現在選択されている AGC の設定を表示します。運用モード（電波型式）やフェージングなどの状態にあわせ、AGC 回路の時定数を切り換えて受信できます。

クリック： OFF、AUTO、FAST、MID、SLOW から選択します。AUTO のときは、電波形式に応じて自動的に時定数が切り替わります。



メモリーチャンネル操作



V/M ボタン



- メモリーチャンネルリストが表示されていないとき：
クリック： VFO と最後に使用したメモリーチャンネルを交互に呼び出します。
メモリーチャンネル呼び出し中にメモリーチャンネル番号表示部でホイールをまわすとメモリーチャンネルを選択することができます。
クリック & ホールド： メモリーチャンネルリストを開きます。
- メモリーチャンネルリストが表示されているとき：
クリック： メモリーチャンネルリストを閉じます。

M>V ボタン



- メモリーチャンネルリストが表示されていないとき：
クリック： メモリーチャンネルリストを開きます。
- メモリーチャンネルリストが表示されているとき：
クリック： メモリーチャンネルリストで選択中のメモリーチャンネルに保存されているデータを VFO に移して、メモリーチャンネルリストが閉じます。

V▷M ボタン



- メモリーチャンネルリストが表示されていないとき：
クリック： メモリーチャンネルリストを開きます。
クリック & ホールド： 最後に呼び出し / 書き込みしたメモリーチャンネルに、VFO のデータが書き込まれます。
- メモリーチャンネルリストが表示されているとき：
クリック： メモリーチャンネルリストを閉じます。
クリック & ホールド： メモリーチャンネルリストで選択中のメモリーチャンネルに、VFO のデータが書き込まれます。

メモリーチャンネルリストの操作

MEMORY CH LIST					
CH	FREQ	MODE	NAME	SCAN MEMORY	DISPLAY TYPE
M-01	7. 000. 000	LSB		SCAN	FREQ
M-02	7. 000. 000	LSB		SCAN	FREQ
M-03	14. 000. 000	LSB		SCAN	FREQ
M-04	--. --. --	-----	-----	----	----
M-05	--. --. --	-----	-----	----	----
M-06	--. --. --	-----	-----	----	----

GET DATA

SEND DATA

RECALL MAIN

RECALL SUB

M-VFO MAIN

M-VFO SUB

MAIN ▶ M

SUB ▶ M

ERASE

メモリーチャンネルリスト画面の最下部の枠線をドラッグすると、ウィンドウを広げて表示するチャンネル数を増やすことができます。

● 無線機からメモリーデータを読み込む



無線機に保存されている全てのメモリーチャンネルのデータを SCU-LAN10 リモートコントロールソフトウェアに読み込むことができます。

無線機からメモリーデータを読み込むとリモートコントロールソフトウェアに現在、保存されているメモリーデータは上書きされます。

リモートコントロールソフトウェアが現在、保存しているメモリーデータとは異なる機種種の無線機からメモリーデータを読み込む場合、機種ごとに異なる部分のデータを含めて、メモリーチャンネルに格納できるすべてのデータが転送されて上書きされます。異なる機種種のデータを読み込む場合は十分にご注意ください。

クリック： 確認画面が表示されますので、読み込む場合は [YES] をクリックします。

右クリック： メモリーデータを最後に読み込んだ日時を表示します。

● メモリーデータを無線機へ転送する



SCU-LAN10 リモートコントロールソフトウェアに保存されている全てのメモリーチャンネルのデータを無線機に転送することができます。

リモートコントロールソフトウェアでは無線機に保存されているメモリーデータとは別に、SCU-LAN10 リモートコントロールソフトウェア側で独立してメモリーデータを保存しています。



リモートコントロールソフトウェアが現在、保存しているメモリーデータを異なる機種 of 無線機に書き込むと、基本データは転送されますが、機種ごとに異なる部分のデータは初期値が転送されます。異なる機種にデータを転送する場合は十分にご注意ください。

クリック： 確認画面が表示されますので、転送する場合は [YES] をクリックします。

右クリック： メモリーデータを最後に転送した日時を表示します。

● メモリーチャンネル呼び出す



クリック： 選択中のメモリーチャンネルのデータを MAIN バンドまたは SUB バンドで呼び出します。

● メモリーデータを VFO に転送する



クリック： 選択中のメモリーチャンネルのデータを MAIN バンドまたは SUB バンドに転送します。

● メモリーに書き込む



クリック： MAIN バンドまたは SUB バンドの周波数や運用モードなどの情報を選択中のメモリーチャンネルに書き込みます。

● メモリーチャンネルの消去 / 復活



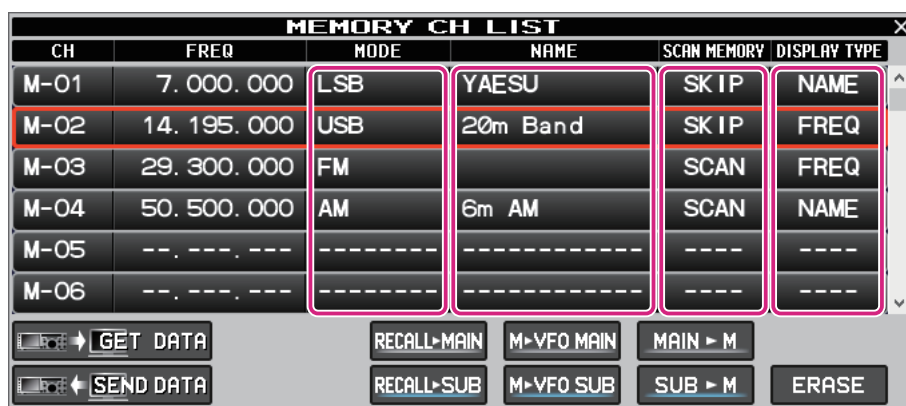
クリック： 選択中のメモリーチャンネルを消去または復活します。

クリック & ホールド： 確認画面が表示されますので、全てのメモリーチャンネルを消去して初期化する場合に [YES] をクリックします。



メモリーチャンネル "M-01" は消去できません。

メモリーチャンネルの編集



MODE、NAME、SCAN MEMORY、DISPLAY TYPE の各欄を右クリックするとメモリーチャンネルの各項目の内容を編集することができます。

- **MODE**

電波形式を選択します。



- **NAME**

メモリーチャンネルのアルファタグ（最大 12 文字）を入力 / 編集します。

- **SCAN MEMORY**

メモリスキャン時に、スキャンしたくないチャンネルを“SKIP”に設定します。

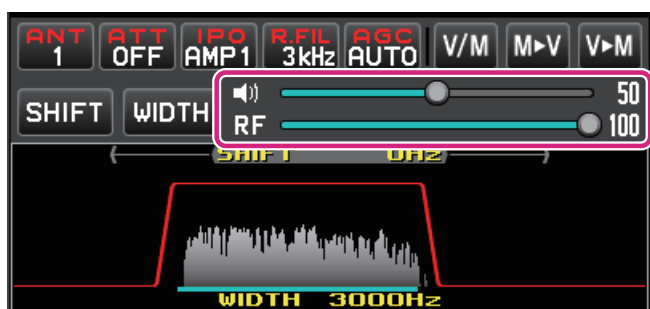


- **DISPLAY TYPE**

メモリーを呼び出したときの表示を“周波数表示”または“アルファタグ表示”に設定します。



AF Gain/RF Gain 調節



AF（スピーカーアイコン）

スライダーの上でマウスのホイールをまわすか、またはドラッグまたはクリックして受信音量を調節します。



スピーカーアイコンをクリックする度に、MUTE/MUTE 解除が切り替わります。

RF（RF GAIN） / SQL

スライダーの上でマウスのホイールをまわすか、またはドラッグまたはクリックして RF ゲインを調節します。



RF アイコンを右クリックすると、RF ゲインと SQL レベルのどちらを調節するか選択できます。

SHIFT/WIDTH 操作



SHIFT ボタン



クリック： ボタンが青色になっているときは、フィルター機能表示エリアのマウス操作で、IF フィルターのシフト周波数を変更できます。



パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。

MAIN バンド：s キー

SUB バンド：Shift+s キー

クリック & ホールド： IF フィルターのシフト周波数が 0Hz に戻ります。



シフトができない電波形式の時は、ボタンがグレイアウトで表示されます。

WIDTH ボタン



クリック： ボタンが青色で表示されているときは、フィルター機能表示エリアのマウス操作で、IF フィルターの帯域幅を変更できます。



パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。

MAIN バンド：w キー

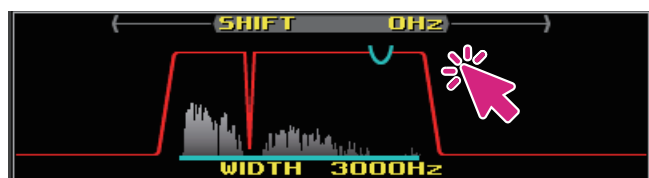
SUB バンド：Shift+w キー

クリック & ホールド： IF フィルターの帯域幅が初期値に戻ります。



帯域幅が変更できない電波形式の時は、ボタンがグレイアウトで表示されます。

フィルター機能表示エリアの操作



クリック / ホイール： SHIFT、WIDTH、NOTCH、CONTOUR、APF の各機能は、それぞれのボタンをクリックしてボタンが青色で表示されているときに、帯域幅やシフト、中心周波数などをマウスで調節することができます。

右クリック： フィルター機能表示エリア内の信号のスペクトラム表示の表示 / 非表示が選択できます。



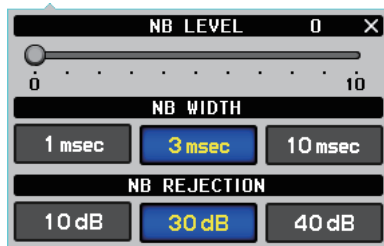
混信除去機能の操作



NB（ノイズブランカー）ボタン



- クリック： ノイズブランカー機能がオン / オフします。
右クリック： ノイズブランカー機能の動作設定が変更できます。



DNR（デジタルノイズリダクション）ボタン



- クリック： デジタルノイズリダクション機能がオン / オフします。
右クリック： デジタルノイズリダクション機能のレベルが設定できます。



DNF（デジタルノッチフィルター）ボタン



- クリック： デジタルノッチフィルター機能がオン / オフします。

NOTCH（ノッチ）ボタン



- クリック： IF ノッチ機能がオン / オフします。



パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
MAIN バンド： n キー
SUB バンド： Shift+n キー

- 右クリック： IF ノッチ機能の帯域幅が選択できます。



CONT (コンツアー) ボタン



クリック： コンツアー機能がオン / オフします。

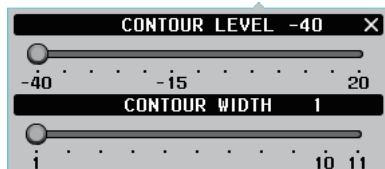


パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。

MAIN バンド：c キー

SUB バンド：Shift+c キー

右クリック： コンツアー機能の減衰量と帯域幅が設定できます。



APF (オーディオピークフィルター) ボタン



APF 機能は CW モード専用です。



クリック： APF 機能がオン / オフします。

右クリック： APF 機能の帯域幅が設定できます。



VC TUNE 操作



VC TUNE (VC チューン) ボタン



クリック： VC チューン機能がオン / オフします。



オンの時に VC チューン機能が使用できない周波数では、チューニングポイントメーターがグレイアウト表示になります。

クリック & ホールド： 下記の操作でチューニングポイントを微調整している場合に、自動で最適なチューニングポイントに戻ります。

● チューニングポイントを微調整する

VC チューンのバーグラフ上の \ominus または \oplus をクリックする、もしくはホイールを操作すると微調整ができます。

また、バーグラフをクリックするとやや大きな変化量で調整できます。

RX/TX ボタン操作



RX ボタン



クリックしてグレイアウトしているときは、バンドの受信音がミュートされます。もう一度クリックするとミュートが解除されます。



音声をミュートしているときでも、スペクトラムスコープや、フィルター機能表示エリア内の信号のスペクトラムは表示されます。

TX ボタン



クリックする度に送信するバンドが MAIN バンド /SUB バンドと切り替わります。

PTT 操作



PTT ボタン

クリック & ホールド： 送信します。



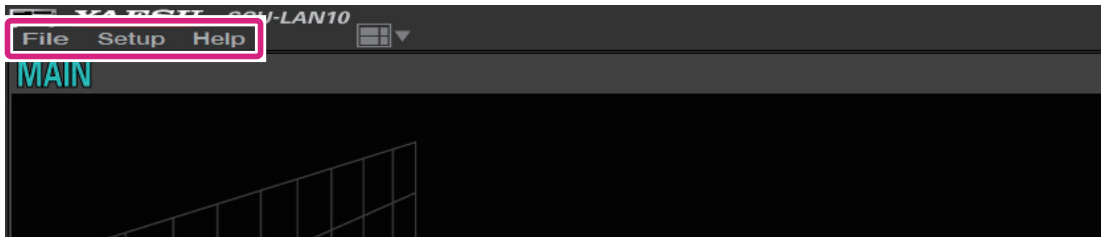
パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
スペースキー

右クリック：

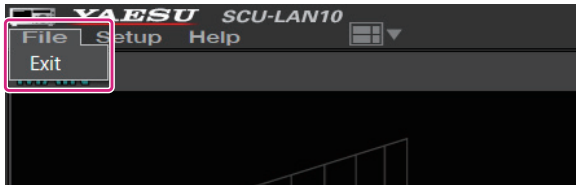
ボタンの機能を“PTT”と“MOX”から選択できます。



メニューバー

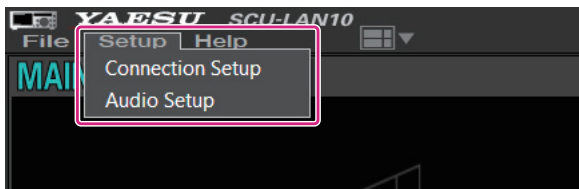


File

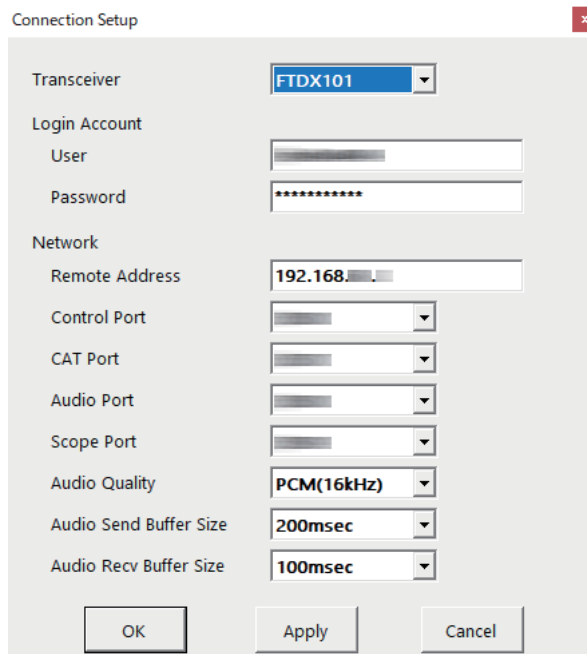


Exit : リモートコントロールソフトウェアを終了します。

Setup

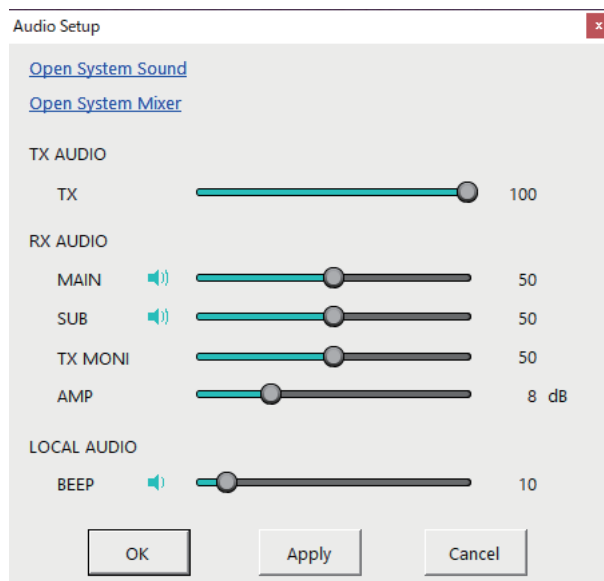


Connection Setup : SCU-LAN10 との接続に関する設定をします。
最初に一度だけ設定すれば変更する必要はありません。



SCU-LAN10 とリモート接続中はグレースアウト表示となり、設定の確認だけができます。
詳しくは、SCU-LAN10 取扱説明書 < インストール編 > を参照してください。

Audio Setup : オーディオレベルの設定画面を開きます。




Open System Sound
Open System Mixer

Windows の“サウンド”画面が表示されます。
Windows の“音量ミキサー”画面が表示されます。
Windows での音量調整について詳しくは SCU-LAN10 取扱説明書
＜インストール編＞を参照してください。


TX AUDIO
TX

送信変調レベルを調節します。
この調節は MIC GAIN/PROC ボタン  を右クリックして、表示される MIC GAIN 調節バー  の調節と同じです。



RX AUDIO
MAIN

MAIN バンドの受信音量を調節します。
この調節は MAIN バンド操作部の音量調節バー  の調節と同じです。

SUB

SUB バンドの受信音量を調節します。
この調節は SUB バンド操作部の音量調節バー  の調節と同じです。

TX MONI

モニター機能で送信音をモニターするときの音量を調節します。
この調節はボタン  を右クリックして、表示される MONI 調節バー  の調節と同じです。

AMP

MAIN/SUB バンドの受信音または TX MONI 音量が Windows の音量調節または上記の音量調節をしても、音量が著しく小さいような場合や歪んでしまうような場合に調節します。通常は変更する必要はありません。(工場出荷時設定 : 8dB)

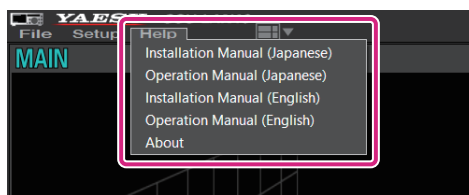
LOCAL AUDIO
BEEP

リモートコントロールソフトウェアを操作したときのビープ音量を調節します。



“Audio Setup”画面で調節しても音量が著しく小さいような場合や逆に音が大きすぎて歪んでしまうような場合には、Windows での音量調節をしてください。Windows での音量調節について詳しくは SCU-LAN10 取扱説明書＜インストール編＞を参照してください。それでも調整できない場合に上記の RX AUDIO の“AMP”の設定を変更してください。

Help



Installation Manual (Japanese) : 取扱説明書＜インストール編＞（日本語）の PDF ファイルを開きます。

Operation Manual (Japanese) : 取扱説明書（日本語）の PDF ファイル（本書）を開きます。

Installation Manual (English) : 取扱説明書＜インストール編＞（英語）の PDF ファイルを開きます。

Operation Manual (English) : 取扱説明書（英語）の PDF ファイルを開きます。

About : このソフトウェアの情報を表示します。

ショートカットキー

パソコンのキーボードのキーで下記の操作ができます。

機能	キー操作	
	MAIN バンド	SUB バンド
スペクトラムスコープ スパン（広く）	カーソルキー 右（→）	Shift + カーソルキー 右（→）
スペクトラムスコープ スパン（狭く）	カーソルキー 左（←）	Shift + カーソルキー 左（←）
VFO 周波数アップ	Page Up キー	Shift + Page Up キー
VFO 周波数ダウン	Page Down キー	Shift + Page Down キー
AF GAIN アップ	カーソルキー 上（↑）	Shift + カーソルキー 上（↑）
AF GAIN ダウン	カーソルキー 下（↓）	Shift + カーソルキー 下（↓）
SHIFT 機能選択	s キー	Shift + s キー
WIDTH 機能選択	w キー	Shift + w キー
ルーフィングフィルタ選択	r キー	Shift + r キー
NOTCH 機能選択	n キー	Shift + n キー
CONTOUR 機能選択	c キー	Shift + c キー
モード切換（LSB/USB）	F1 キー	Shift + F1 キー
モード切換（CW-L/CW-U）	F2 キー	Shift + F2 キー
モード切換（AM）	F3 キー	Shift + F3 キー
モード切換（FM）	F4 キー	Shift + F4 キー
QMB 呼び出し	q キー	Shift + q キー
PTT（送信）	スペースキー	



ショートカットキーの編集はできません。


基本的な使い方 (FTDX10)

SCU-LAN10 リモートコントロールソフトウェアを起動する


1. Windows のスタートボタンをクリックして、“Yaesu Musen” グループの [YAESU SCU-LAN10] アイコンをクリックして、リモートコントロールソフトウェアを起動します。




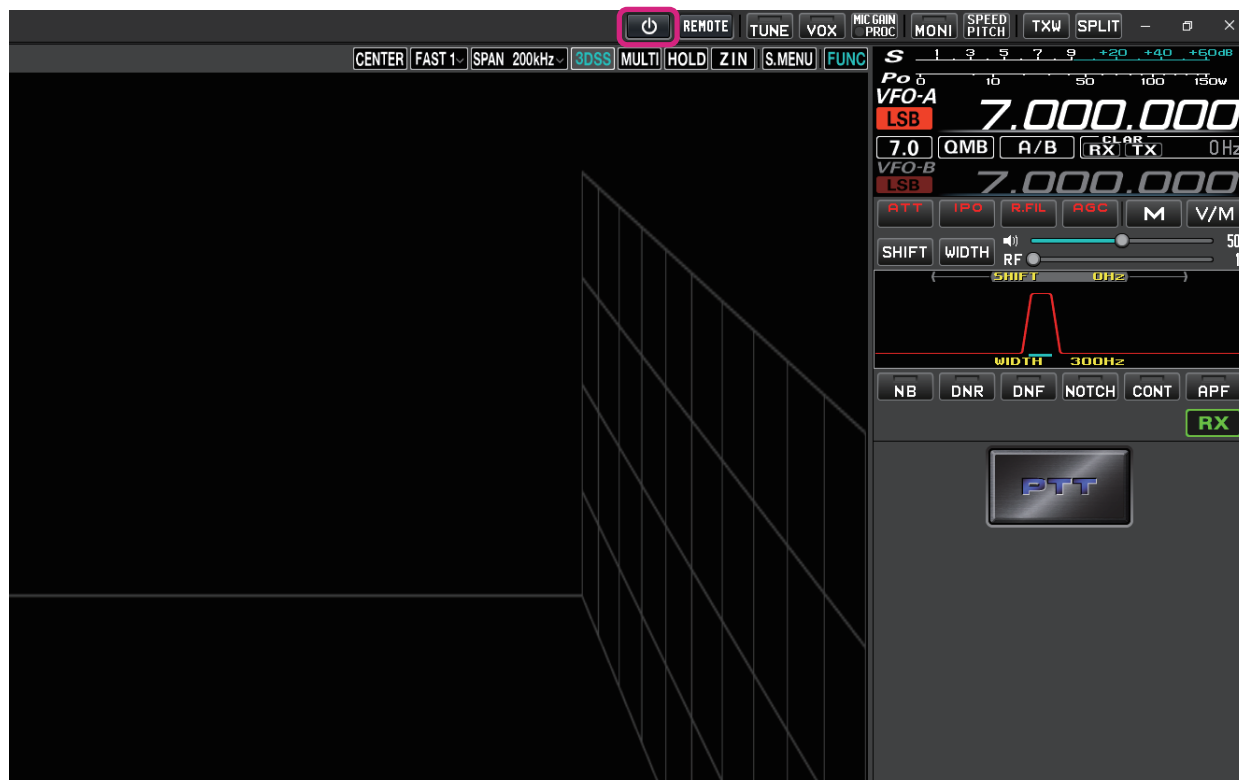
- デスクトップの [YAESU SCU-LAN10] アイコンをダブルクリックしてリモートコントロールソフトウェアを起動することもできます。
- 画面左上の“Setup”メニューの“Connection Setup”で、ご使用になるトランシーバー(FTDX10 シリーズ)に設定されていないと、一部の機能の動作や画面の表示が正常に動作しません。設定について詳しくは“SCU-LAN10 取扱説明書 <インストール編>”を参照してください。
- はじめて SCU-LAN10 と接続したときは、自動で“Connection Setup”画面が表示されますので初期設定をしてください。

1. [] ボタンをクリックします。

自動でトランシーバーの電源がオンになり、リモートコントロールが開始されます。

リモートコントロール中は“  ” ボタンと“REMOTE” ボタンが赤色に変わります。

- [REMOTE] ボタンはリモートコントロールの開始 / 終了をします。[REMOTE] ボタンをクリックするとトランシーバーの電源がオフの時は自動でオンになります。ネットワークが不安定な場合などでリモートコントロールが切断されてしまった場合には、[REMOTE] ボタンをクリックして再開できます。
- はじめて [] ボタンまたは [REMOTE] ボタンをクリックしたときに、Windows やお使いのファイヤーウォールソフトウェアの設定により、警告画面が表示される場合があります。このときは、リモートコントロールソフトウェアからのインターネットアクセスを許可する(ブロックを解除する)ように設定してください。

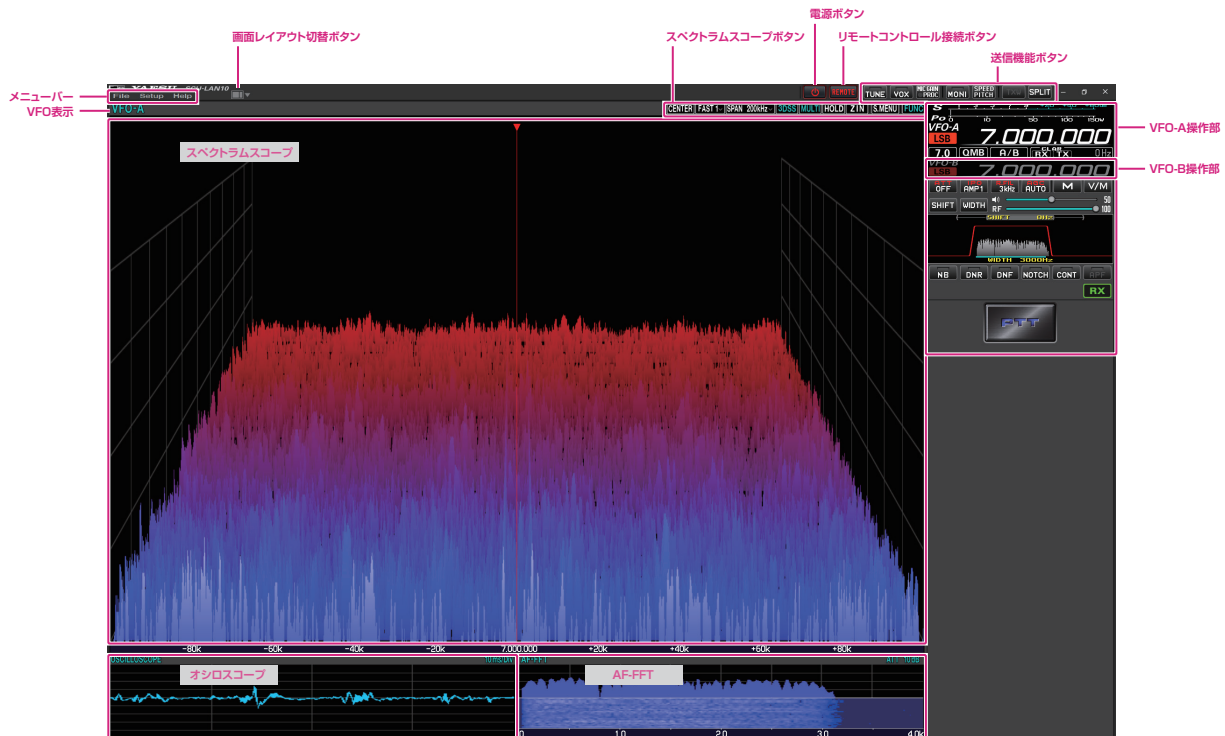


リモートコントロールソフトウェア画面

初期設定では、画面の左側にスペクトラムスコープ、右側に周波数やメーター、フィルター画面などが表示されます。



- 下記の表示例では [MULTI] ボタンをクリックしてオシロスコープ、AF-FFT スコープを表示させています。
- ご使用になるパソコンの画面解像度によって、各エリアのサイズやレイアウトなどは自動的に調整されますので、下記の表示例と多少異なる場合があります。



画面レイアウトを切り替える



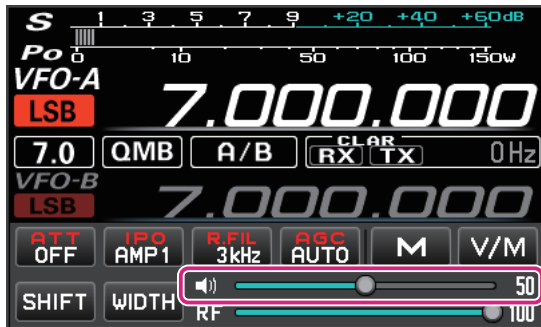
クリック：

画面レイアウトを 5 種類の中から選択できます。



クリック & ホールド：画面内の各エリアの大きさを初期設定に戻すことができます。

受信音量を調節する



● AF GAIN (スピーカーアイコン)

スライダーの上でマウスのホイールをまわすか、クリックまたはドラッグして受信音を聞きやすい音量に調節します。

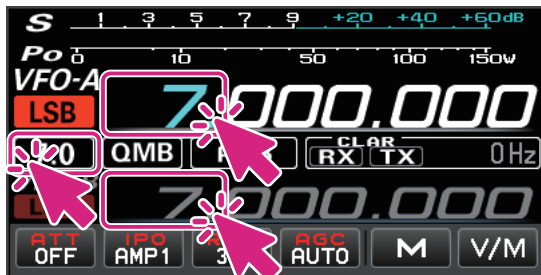


- スピーカーアイコンをクリックする度に、MUTE(消音)/MUTE 解除が切り替わります。
- パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
カーソルキー上(↑)/下(↓)

周波数を変更する

周波数帯 (バンド) を切り替える

1. MHz の桁またはバンド表示部をクリックするとバンド選択画面が表示されます。



2. 切り替えるバンドをクリックします。



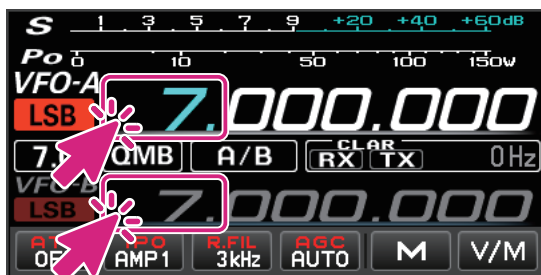
周波数を変更する

周波数の変更方法には以下の 3 通りの方法があります。

(1) マウスのホイール操作、ドラッグ操作

● MHz 桁

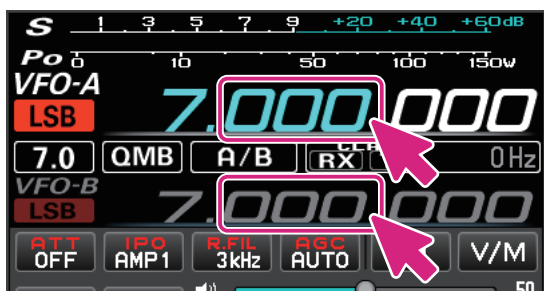
1. 周波数の MHz の上にマウスカーソルを移動すると緑色に変わります。



2. この状態でマウスのホイールをまわすと 1MHz ステップで周波数が変わります。

● kHz 桁

1. 周波数の 100kHz ~ 1kHz の 3 桁の上にマウスカーソルを移動すると 1kHz よりも上の桁が緑色に変わります。



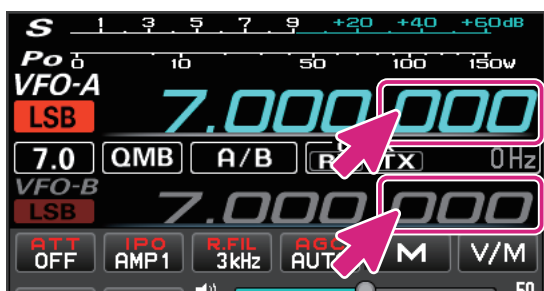
2. この状態でマウスのホイールをまわすと、設定した FAST ステップで周波数が変わります。
 - 数字の上側半分または下側半分をクリックすると、FAST ステップで周波数がアップまたはダウンします。
 - また、数字をクリックしたままマウスを上または下に移動すると、FAST ステップで周波数が連続で変わります。
 - FAST ステップまたは TUNING ステップを変更するには 100kHz ~ 1Hz の桁を右クリックします。詳しくは次ページの“チューニングステップを変更する”を参照してください。



キーボードの [SHIFT] キーを押しながら、100kHz ~ 1Hz の桁をクリックすると、その桁以下をワンタッチでゼロにできます。

● Hz 桁

1. 周波数の 100Hz ~ 1Hz の 3 桁の上にマウスカーソルを移動すると、周波数のすべての桁が緑色に変わります。



2. この状態でマウスのホイールをまわすと、TUNING ステップで周波数が変わります。
 - 数字の上側半分または下側半分をクリックすると、TUNING ステップで周波数がアップまたはダウンします。
 - また、数字をクリックしたままマウスを上または下に移動すると、TUNING ステップで周波数が連続で変わります。
 - TUNING ステップまたは FAST ステップを変更するには 100kHz ~ 1Hz の桁を右クリックします。詳しくは次ページの“チューニングステップを変更する”を参照してください。

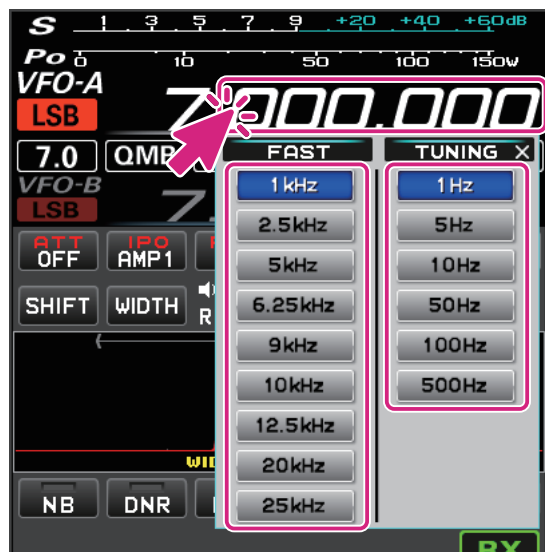
- キーボードの [SHIFT] キーを押しながら、100kHz ~ 1Hz の桁をクリックすると、その桁以下をワンタッチでゼロにできます。



- 周波数表示部ではキーボードの [SHIFT] キーを押しながらホイールをまわしても FAST ステップにはなりません。
- パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
Page UP/Page Down
SHIFT+Page UP/SHIFT+Page Down (もう一方の VFO)

• チューニングステップを変更する

1. 100kHz ~ 1Hz の桁を右クリックすると、FAST ステップと TUNING ステップの設定画面が表示されます。
2. 切り替える FAST ステップまたは TUNING ステップをクリックします。



(2) スペクトラムスコープ画面で周波数を変更する

1. スペクトラムスコープの画面にマウスカーソルを移動して、マウスのホイールをまわすと TUNING ステップで周波数が変化します。
 - キーボードの [SHIFT] キーを押しながらマウスのホイールをまわすと FAST ステップで周波数がアップ/ダウンします。
 - また、スペクトラムスコープで信号のピークなど、スコープ画面内をクリックすると、その周波数付近にジャンプします。その後、マウスのホイールをまわして周波数を合わせて目的の信号を聞くことができます。



スペクトラムスコープ画面内を右クリックすると FAST ステップと TUNING ステップの設定画面が表示されます。

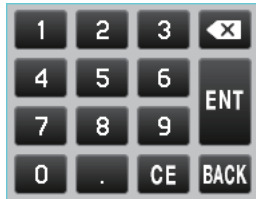


(3) テンキー画面で周波数を入力する

1. 周波数の MHz の桁で右クリックするとテンキー画面が表示されます。



2. 画面をマウスでクリックするか、またはパソコンの数字キーで周波数を入力します。

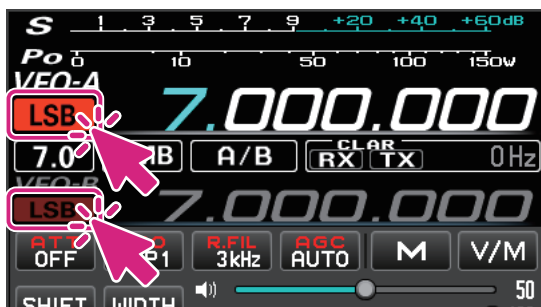


キーボード操作：

- Enter キー： 入力した周波数を確定する (ENT)
- Backspace キー： カーソルの前の数字を消去する (X)
- Delete キー： 入力中の数字を全て消去する (CE)
- Esc キー： 周波数入力をキャンセルしてテンキー画面を閉じる (BACK)

モード（電波形式）を切り替える

1. モードのアイコンをクリックします。



2. 切り替えるモードをクリックします。



- モードのアイコンを右クリックすると、下記のモードの間をワンタッチで切り換えることができます。

LSB ↔ USB、CW-L ↔ CW-U、AM ↔ AM-N、FM ↔ FM-N

DATA-L ↔ DATA-U、DATA-FM ↔ D-FM-N、RTTY-L ↔ RTTY-U



- パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。

LSB/USB： F1

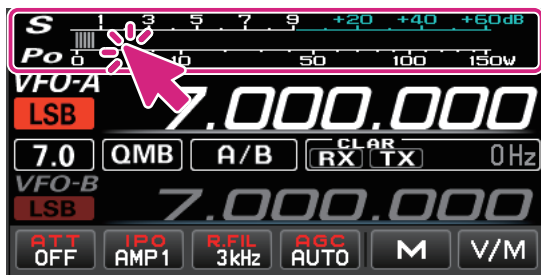
CW-L/CW-U： F2

AM： F3

FM： F4

送信時に表示するメーターを切り替える

1. S/PO メーター部分をクリックします。



2. 切り替えるメーターをクリックします。



送信する

1. PTT ボタンをクリック & ホールドしている間、送信状態になります。

送信中は周波数の上に TX アイコンが表示されます。



2. パソコンのマイクロホンに向かって話します。
3. PTT ボタンを放すと受信に戻ります。

i パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
スペースキー

● MOX ボタンに切り替える

PTT スイッチを MOX スイッチに切り替えることができます。

1. PTT ボタンを右クリックすると“PTT”と“MOX”の設定画面が表示されます。



2. [MOX] をクリックします。

画面各部の機能 (FTDX10)

電源ボタン



クリック： リモートコントロール中ではないときは、自動でトランシーバーの電源がオンになり、リモートコントロールを開始します。
リモートコントロール中は、自動でトランシーバーの電源がオフになり、リモートコントロールを終了します。

リモートボタン



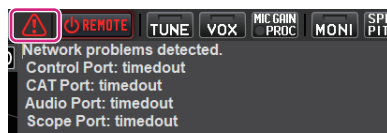
クリック： リモートコントロール中ではないときは、トランシーバーの電源がオフの時は自動でオンになりリモートコントロールを開始します。
リモートコントロール中は、トランシーバーの電源はオフにせずに、リモートコントロールを終了します。



ネットワークが不安定な場合などでリモートコントロールが切断されてしまった場合に、[REMOTE] ボタンをクリックしてリモートコントロールを再開できます。

• ワーニング（注意）表示

ワーニング表示が点灯したまま、あるいは時々点灯する場合は、ネットワーク回線またはポート解放の設定に問題がある可能性があります。SCU-LAN10 取扱説明書<インストール編>を参照し、設定を最初からやり直してください。ワーニング表示をクリックして、検出された問題を確認することができます。

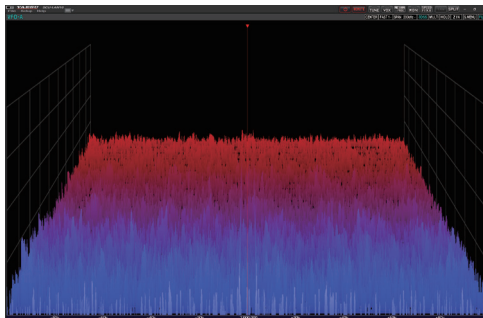
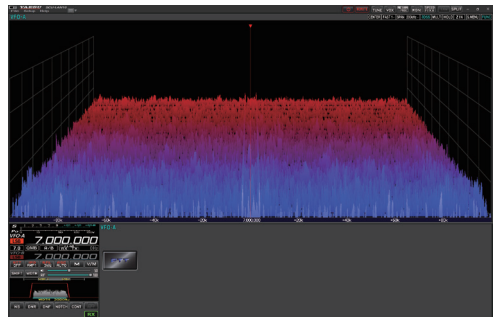
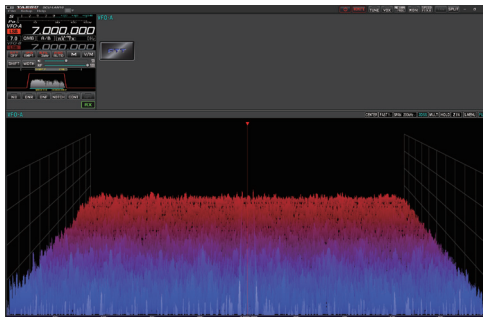
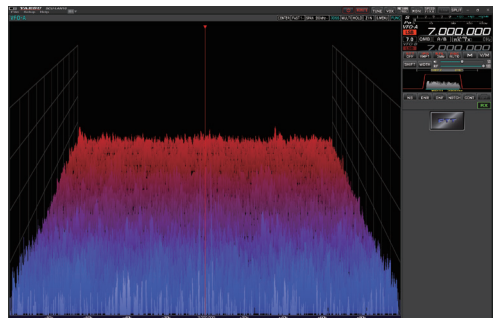
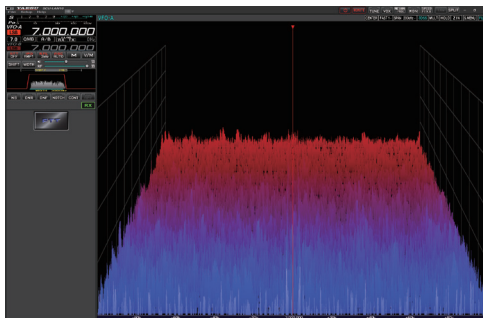


画面レイアウト切替ボタン

画面レイアウト切替ボタン

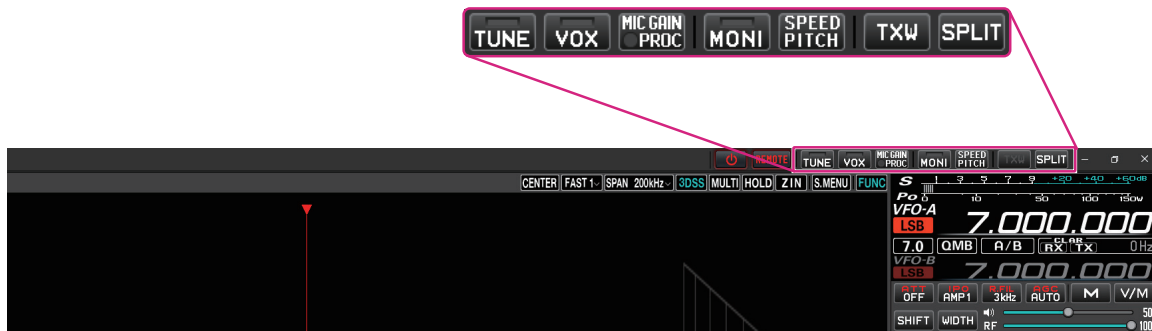


クリック： 画面レイアウトを 5 種類の中から選択します。



クリック & ホールド： 画面内の各エリアの大きさを初期設定に戻すことができます。

送信機能ボタン



TUNE ボタン

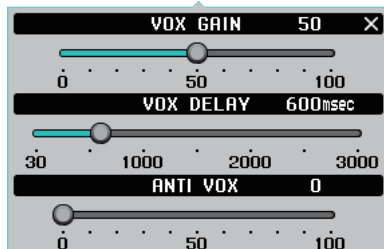


- クリック：** アンテナチューナーの ON/OFF を切り替えます。
ON の時、ボタンのインジケーターが赤く点灯します。
- クリック & ホールド：** 自動的に送信状態になり、アンテナチューナーのチューニング動作がスタートします。

VOX ボタン




- クリック：** VOX の ON/OFF を切り替えます。
ON の時、ボタンのインジケーターが赤く点灯します。
- 右クリック：** VOX 設定ウィンドウが開きます



MIC GAIN/PROC ボタン



- クリック：** PROC の ON/OFF を切り替えます。(LSB または USB モード時のみ動作します)
ON の時、ボタンの丸いインジケーターが赤く点灯します。
- 右クリック：** MIC GAIN/AMC/PROC 設定ウィンドウが開きます。
MIC GAIN/AMC/PROC 設定ウィンドウは右上の [ピン留めボタン]  をクリックすると、表示させたままにすることができます。



MONI ボタン



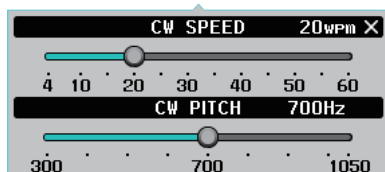
- クリック： モニター機能の ON/OFF を切り替えます。
ON の時、ボタンのインジケーターが赤く点灯します。
- 右クリック： モニターレベル（音量）設定ウィンドウが開きます



SPEED/PITCH ボタン



- クリック： CW SPEED と CW PITCH の設定ウィンドウが開きます。



TXW ボタン



- クリック： SPLIT ON 中に送受信の周波数を入れ換えます。
ON の時、ボタンが赤色で点滅表示されます。

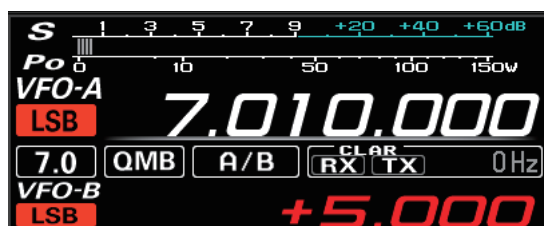
SPLIT ボタン



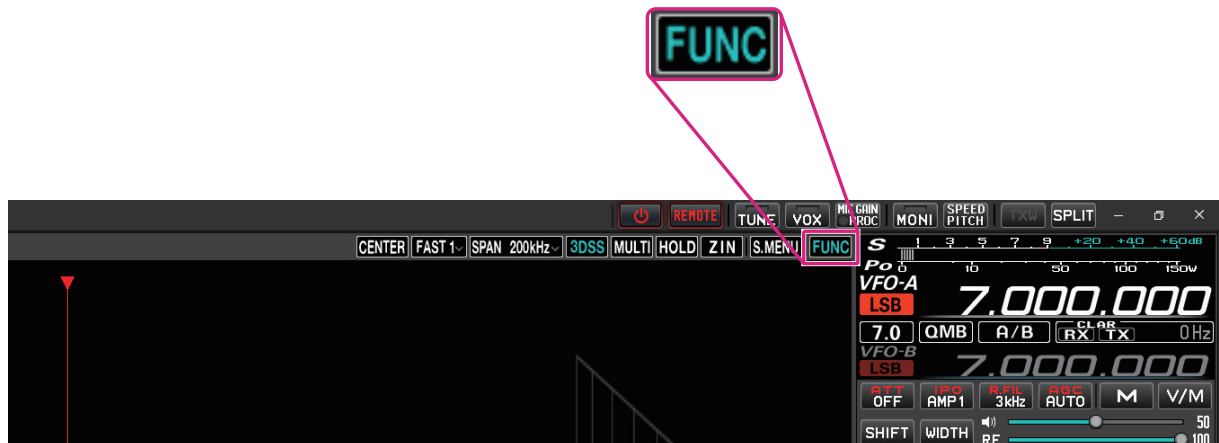
- クリック： SPLIT（スプリット機能）の ON/OFF を切り替えます。
ON の時、ボタンが赤色で表示されます。
- クリック & ホールド： クイックスプリット機能により、現在の VFO の周波数に“クイックスプリット機能のオフセット周波数設定値（初期設定値 :+5kHz）”が加算された周波数にもう一方の VFO が設定されて、スプリット機能が ON になります。
スプリット機能が ON のときには、クリック & ホールドする度に現在の VFO-B の周波数に“クイックスプリット機能のオフセット周波数設定値（初期設定値 :+5kHz）”が加算されます。
- 右クリック： スプリット機能の設定画面が開きます。



“DELTA”に設定すると、受信周波数に対する送信周波数のオフセット値が「+」または「-」で表示されます。（オフセットが 100kHz を超えると、通常の周波数表示になります。）



FUNC ボタン (ファンクションメニュー表示)

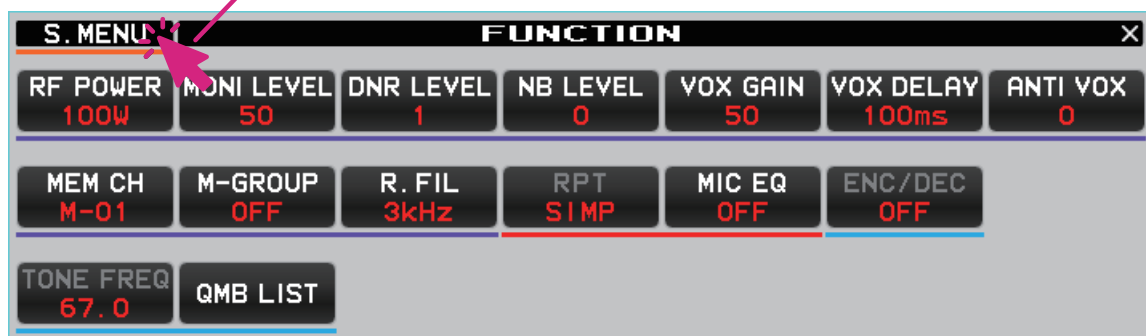


クリックすると各種機能の設定を行うファンクションメニュー画面を表示します。(トランシーバーのファンクションメニュー表示とは一部、項目が異なります。)



メニュー左上の [S.MENU] をクリックすると、スペクトラムスコープメニューに切り替わります。

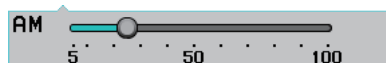
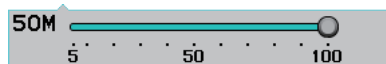
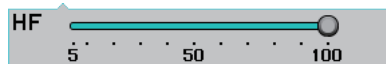
スペクトラムスコープメニューを表示



RF POWER ボタン



クリック： 現在の送信周波数 (HF 帯 / 50MHz 帯) または通信モード (AM モード)、それぞれの送信出力を調節します。



送信出力の設定は、トランシーバー本体のセットモード “MAX POWER” で設定されている最大送信出力以下の範囲内で設定できます。リモートコントロールではセットモード “MAX POWER” は変更できません。

セットモード [OPERATION SETTING] → [TX GENERAL]

HF MAX POWER (HF 帯)

50M MAX POWER (50MHz 帯)

AM MAX POWER (AM モード)

MONI LEVEL ボタン

MONI LEVEL
50

クリック： モニター機能の音量を調節します。



DNR LEVEL ボタン

DNR LEVEL
1

クリック： DNR レベル（ノイズが減衰するレベル）を調節します。



NB LEVEL ボタン

NB LEVEL
0

クリック： NB（ノイズブランカー）レベルを調節します。



VOX GAIN ボタン

VOX GAIN
50

クリック： VOX ゲインの調節をします。



VOX DELAY ボタン

VOX DELAY
500ms

クリック： VOX 機能で送信中に言葉の切れ目で受信状態に戻るまでの時間 (30 ~ 3000msec) を設定します。



ANTI VOX ボタン

ANTI VOX
50

クリック： VOX が“ON”のときに、スピーカーからの受信音で送信状態にならないように調節します。



MEM CH ボタン

MEM CH
M-01

メモリーモード中、メモリーチャンネルを選択します。

クリック： ボタンの上部をクリックすると順にメモリーチャンネルを選択します。ボタンの下部をクリックすると逆順にメモリーチャンネルを選択します。

ホイール： メモリーチャンネルを選択します。

M-GROUP ボタン

M-GROUP
OFF

クリック：メモリーグループ機能が ON のとき、メモリーグループを順に選択します。

ホイール：メモリーグループ機能が ON のとき、メモリーグループを選択します。

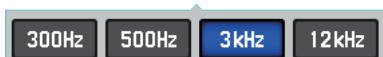
右クリック：メモリーグループ機能の ON/OFF を選択します。



R.FIL ボタン

R. FIL
3kHz

クリック：ルーフィングフィルタを選択します。現在の通信モードによって選択できるルーフィングフィルタは異なります。



● リモートコントロールする無線機に装備されていないルーフィングフィルタは表示されません。

● 300Hz のフィルタはオプションです。

● パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。

r キー

RPT ボタン

RPT
SIMP

クリック：レピータ運用時のシフト方向を選択します。



SIMP：送信、受信共に同じ周波数です。

+（プラス）：受信周波数より高い周波数（初期設定は +100kHz）で送信します。

-（マイナス）：受信周波数より低い周波数（初期設定は -100kHz）で送信します。

MIC EQ ボタン

MIC EQ
OFF

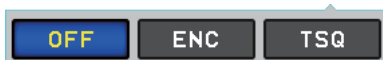
クリック：パラメトリックマイクイコライザー機能の ON/OFF が切り替わります。

※リモートコントロールでマイクイコライザーのパラメータの詳細設定は変更できません。

ENC/DEC ボタン

ENC/DEC
OFF

クリック：トーンエンコーダー機能またはトーンスケルチ機能をオンにします。



TONE FREQ ボタン

TONE FREQ
88.5

クリック：トーンエンコーダー機能およびトーンスケルチ機能のトーン周波数を設定します。



QMB LIST ボタン

QMB LIST

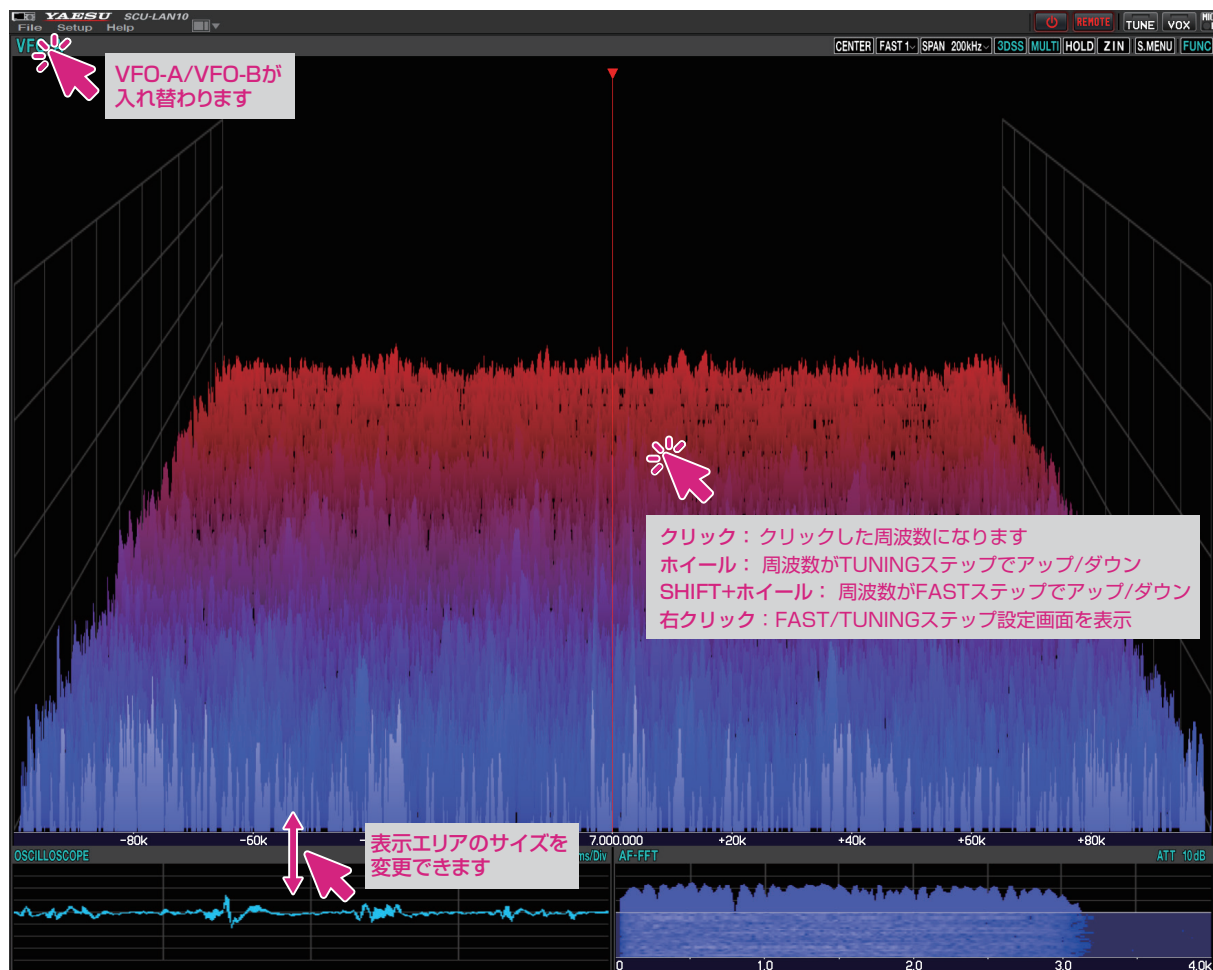
現在の周波数帯の QMB（クイックメモリーバンク）にメモリーされている内容を確認または削除することができます。また、右上の [10ch] または [5ch] をクリックして、QMB のメモリーチャンネル数を設定できます。

QMB LIST						X
1	--.---.---	-----	6	--.---.---	-----	10ch
2	--.---.---	-----	7	--.---.---	-----	
3	--.---.---	-----	8	--.---.---	-----	
4	--.---.---	-----	9	--.---.---	-----	
5	--.---.---	-----	10	--.---.---	-----	DELETE

スペクトラムスコープエリア

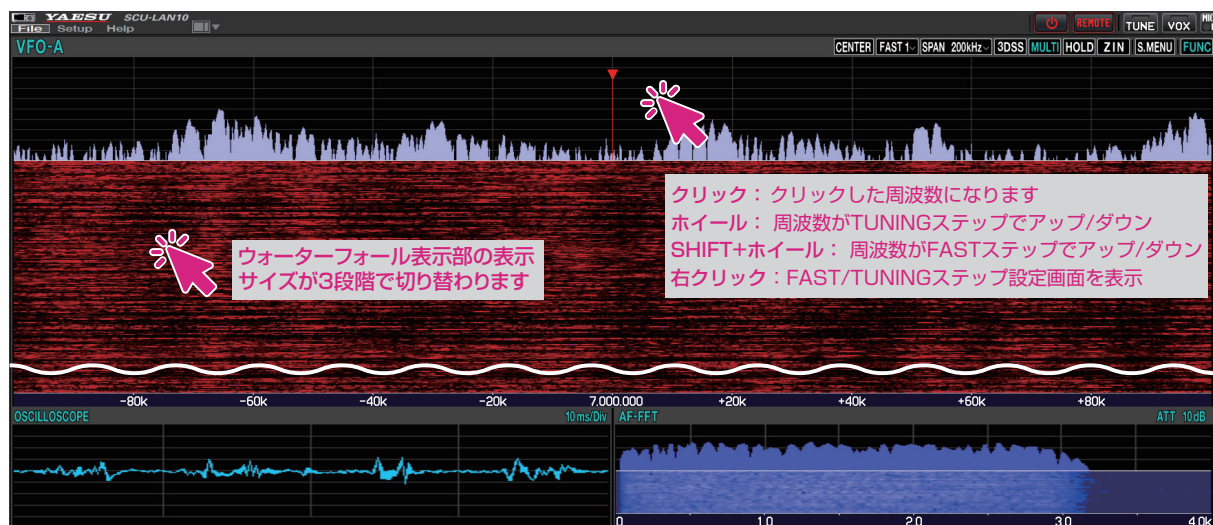
画面操作

3DSS 表示



キーボードの [SHIFT] キーを押しながらマウスのホイールをまわすと周波数が FAST ステップでアップダウンします。

ウォーターホール表示



キーボードの [SHIFT] キーを押しながらマウスのホイールをまわすと周波数が FAST ステップでアップダウンします。

- ホイールをまわして受信周波数を変更

スペクトラムスコープ画面でマウスのホイールをまわすと、受信周波数が TUNING ステップでアップ / ダウンします。

また、キーボードの [SHIFT] キーを押しながらマウスのホイールをまわすと周波数が FAST ステップでアップダウンします。

- クリックして受信周波数を変更

スペクトラムスコープ画面をクリックすると、その周波数付近にジャンプします。その後、マウスのホイールをまわして周波数を合わせて目的の信号を聞くことができます。

- 右クリックして FAST/TUNING ステップを変更

スペクトラムスコープ画面をクリックすると、FAST ステップと TUNING ステップの設定画面が開きます。


- VFO-A/VFO-B 切り換え

VFO-A / **VFO-B**

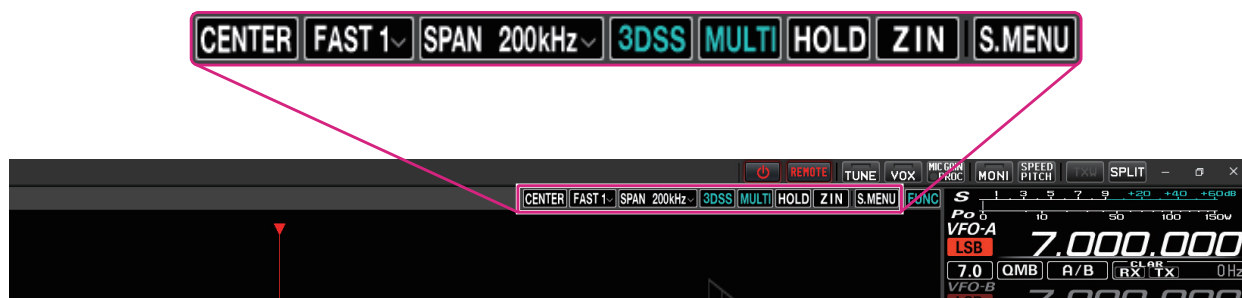
クリックする度に VFO-A と VFO-B が入れ替わります。

- ウォーターホール表示エリアのサイズ変更

スペクトラムスコープがウォーターホール表示になっているときに、ウォーターホール表示部をクリックすると、表示エリアのサイズを 3 段階で変更できます。

※画面レイアウトアイコン  をクリック & ホールドすると、サイズを初期化することができます。

スコープ機能ボタン



CENTER/CURSOR/FIX ボタン

CENTER / **CURSOR** / **FIX**

スペクトラムスコープの動作を切り替えます。

クリック： CENTER（センター）表示と CURSOR（カーソル）表示、FIX（フィックス）表示が、クリックするたびに切り替わります。

クリック & ホールド：

- ・ CENTER または CURSOR の時にボタンをクリック & ホールドすると、受信周波数の 100Hz 以下の桁がゼロになります。
- ・ FIX の時にボタンをクリック & ホールドすると、受信周波数がスコープのスタート周波数に戻ります。

右クリック： FIX の時にボタンを右クリックすると、スコープのスタート周波数（左端）を入力するポップアップ画面が開きます。



キーボード操作：

Enter キー： 入力した周波数を確定する (ENT)

Backspace キー： カーソルの前の数字を消去する (X)

Delete キー： 入力中の数字を全て消去する (CE)

Esc キー： 周波数入力をキャンセルしてテンキー画面を閉じる (BACK)

SLOW1/SLOW2/FAST1/FAST2/FAST3 ボタン



スペクトラムスコープ表示のスweep速度を切り替えます。

クリック： スペクトラムスコープ表示のスweep速度を選択するポップアップ画面が表示されます。



SLOW1： スweepスピード 遅い

SLOW2： スweepスピード ↑

FAST1： スweepスピード 標準

FAST2： スweepスピード ↓

FAST3： スweepスピード 早い



この機能の設定は、リモートコントロールソフトウェアにのみ適用されます。トランシーバーのスペクトラムスコープ画面とは個別の設定です。

SPAN ボタン



スコープ画面の周波数スパン（表示範囲）を設定します。

クリック： スコープ表示のスパンを選択するポップアップ画面が表示されます。



パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
カーソルキー左(←)/ 右(→)

3DSS ボタン



3DSS 表示とウォーターフォール表示を切り換えます。

クリック： “3DSS” 表示と “ウォーターフォール” 表示が切り替わります。“3DSS” 表示のときボタンの文字が緑色で表示されます。

MULTI（マルチ表示切替）ボタン



クリック： オシロスコープ画面と AF-FFT 画面を表示する“マルチ表示”に切り替わります。“マルチ表示”のときボタンの文字が緑色で表示されます。

クリック & ホールド： “マルチ表示”の時にボタンをクリック & ホールドすると、オシロスコープ画面と AF-FFT 画面の表示位置を変更できます。

HOLD ボタン



スコープ画面と受信のフィルター画面の波形描画を一時停止します。

クリック： 一時停止 / 解除をします。一時停止中はボタンが赤色で点滅して表示されます。

ZIN（オートゼロイン）ボタン



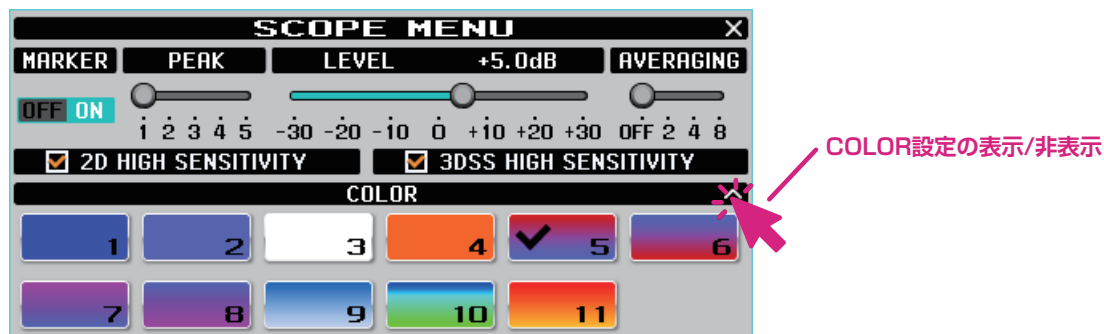
CW モードで CW 信号を受信中、受信 PITCH（音程）と一致するように、相手局の周波数に自動的に調整（ゼロイン）できます。

クリック： CW 信号を受信中にクリックすると、自動的にゼロインします。

S.MENU ボタン（スペクトラムスコープメニュー表示）



クリック： スコープ表示に関する設定を行うスコープメニュー画面を表示します。



● MARKER



ON/OFF のボタン部分をクリックして、受信周波数マーカー（緑）、送信周波数マーカー（赤）の表示を ON/OFF します。

i スペクトラムスコープの動作が“CENTER”に設定されている時は、常にスコープの中心が受信周波数ですので、受信周波数マーカー（緑）は表示されません。

● PEAK



信号のレベルに対するスペクトラムスコープの表示色の濃淡を調整できます。

LV1：薄い

LV2：↑

LV3：標準

LV4：↓

LV5：濃い

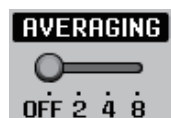
i この機能の設定は、リモートコントロールソフトウェアにのみ適用されます。トランシーバーのスペクトラムスコープ画面の設定とは個別に動作します。

● LEVEL



目的の信号とノイズを区別しやすくするため、表示レベルの調整をします。

● AVERAGING



波形を平均化して滑らかに表示します。

OFF： 平均化しません

2 ～ 8： 平均化して表示します



この機能はリモートコントロールソフトウェア専用ですので、この設定はトランシーバーのスペクトラムスコープ画面には影響しません。

● 2D HIGH SENSITIVITY



チェックマークを付けるとウォーターフォールの表示感度（縦軸）を強調して表示します。

● 3DSS HIGH SENSITIVITY



チェックマークを付けると 3DSS の表示感度（縦軸）を強調して表示します。

● COLOR 設定



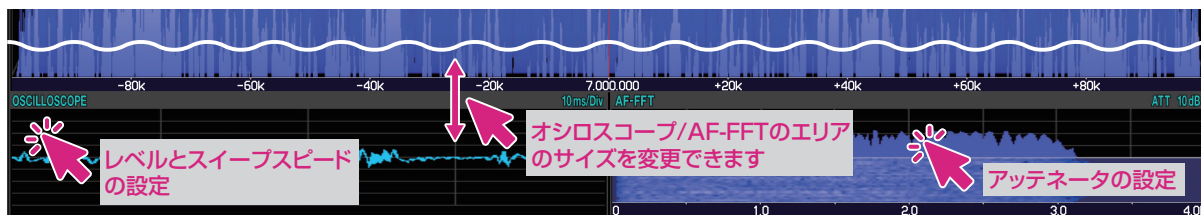
好みのカラーをクリックして表示色を選択します。



この機能の設定は、リモートコントロールソフトウェアにのみ適用されます。トランシーバーのスペクトラムスコープ画面の設定とは個別に動作します。


オシロスコープ / AF-FFT エリア

画面操作



● オシロスコープ / AF-FFT エリアのサイズ変更

オシロスコープ / AF-FFT エリアの上部のタイトルバーをドラッグするとオシロスコープ / AF-FFT の表示エリアのサイズを変更することができます。

※画面上部の画面レイアウトアイコン  をクリック & ホールドすると、サイズを初期化することができます。

● クリックしてレベルとスイープスピードの設定（オシロスコープ）

オシロスコープ表示エリア内をクリックすると、波形の表示レベルと時間軸のスケールを設定できます。



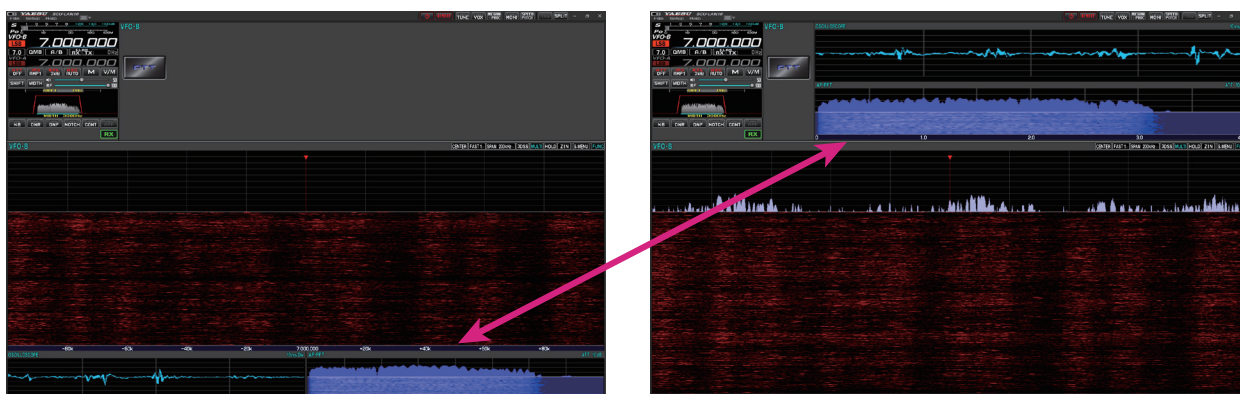
● アッテネータの設定（AF-FFT）

AF-FFT 表示エリア内をクリックすると、アッテネータを設定できます。



● 表示位置の変更

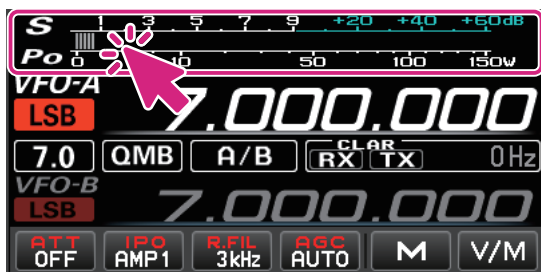
“マルチ表示”の時に [MULTI] ボタンをクリック & ホールドすると、オシロスコープ画面と AF-FFT 画面の表示位置を変更できます。



VFO-A/VFO-B 操作部



送信時のメーター動作選択



クリック： 送信時のメーター動作を選択できます。



- PO： 送信出力表示
- ALC： ALC 電圧表示
- SWR： アンテナ SWR 表示
- COMP： AMC ゲインコントロール表示
(スピーチプロセッサ動作時はコンプレッションレベル表示)
- ID： 終段 FET のドレイン電流表示
- VDD： 終段 FET のドレイン電圧表示

メモリーチャンネルの選択



ホイール：メモリーチャンネル呼び出し中にメモリーチャンネル表示部の上にカーソルを移動して、ホイールをまわすとメモリーチャンネルが選択できます。

QMB チャンネルの選択



ホイール：QMB 呼び出し中に QMB チャンネル表示部の上にカーソルを移動して、ホイールをまわすと QMB メモリーチャンネルが選択できます。



パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
q キー

電波形式の切換



クリック：電波形式の切換ができます。



右クリック：下記のモード間をワンタッチで切り換えることができます。

LSB ↔ USB、CW-L ↔ CW-U、AM ↔ AM-N、FM ↔ FM-N

DATA-L ↔ DATA-U、DATA-FM ↔ D-FM-N、RTTY-L ↔ RTTY-U



パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。

LSB/USB： F1 キー

CW-L/CW-U： F2 キー

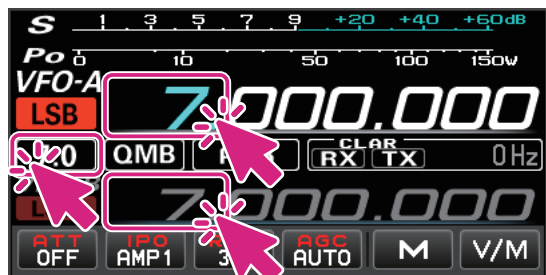
AM： F3 キー

FM： F4 キー

周波数の変更操作

バンド選択

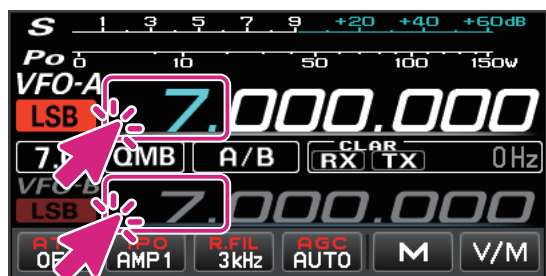
MHz の桁またはバンド表示部をクリックするとバンド選択画面が表示されます。



クリック： バンド選択

1.8	3.5	5.0	7.0	10	14
18	21	24.5	28/29	50	70/GEN

MHz 桁

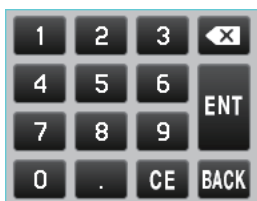


ホイール： 周波数が 1MHz ずつアップ / ダウン

クリック： バンド選択

1.8	3.5	5.0	7.0	10	14
18	21	24.5	28/29	50	70/GEN

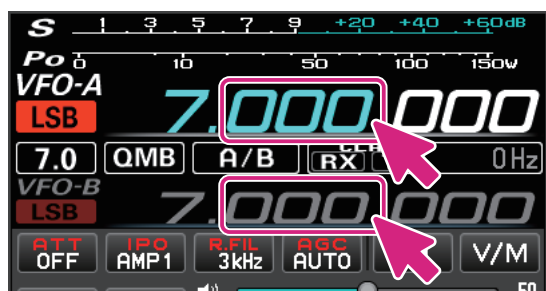
右クリック： テンキー画面がポップアップして周波数を入力できます。テンキー画面をマウスでクリックするか、またはパソコンのキーボードで入力することもできます。



キーボード操作：

- Enter キー： 入力した周波数を確定する (ENT)
- Backspace キー： カーソルの前の数字を消去する (<X>)
- Delete キー： 入力中の数字を全て消去する (CE)
- Esc キー： 周波数入力をキャンセルしてテンキー画面を閉じる (BACK)

kHz 桁

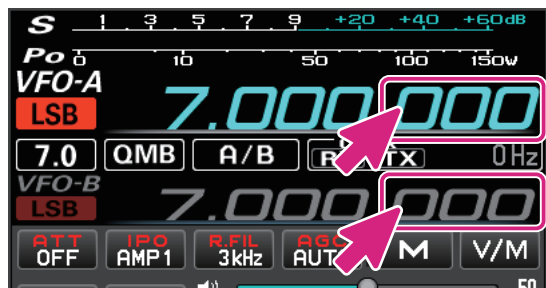


- ホイール： 周波数が FAST ステップずつアップ / ダウン
 クリック： 数字の上半分 / 下半分をクリックすると周波数が FAST ステップずつアップ / ダウン
 上下にドラッグ： 周波数が FAST ステップで連続的にアップ / ダウン
 右クリック： FAST ステップ / TUNING ステップの設定画面を表示



キーボードの[SHIFT]キーを押しながら、各桁の数字をクリックすると、その桁以下の数字をワンタッチでゼロにできます。

Hz 桁



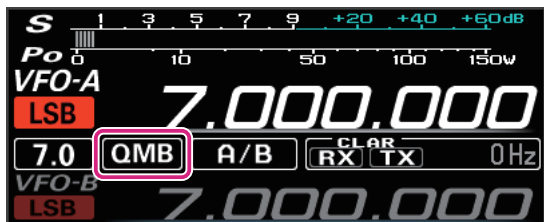
- ホイール： TUNING ステップで周波数がアップ / ダウン
 クリック： 数字の上半分 / 下半分をクリックすると TUNING ステップで周波数がアップ / ダウン
 上下にドラッグ： TUNING ステップで周波数が連続でアップ / ダウン
 右クリック： FAST ステップ / TUNING ステップの設定画面を表示





- 周波数表示部ではキーボードの [SHIFT] キーを押しながらホイールをまわしても FAST ステップにはなりません。
- キーボードの [SHIFT] キーを押しながら、各桁の数字をクリックすると、その桁以下の数字をワンタッチでゼロにできます。
- パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
現在の VFO : Page UP キー /Page Down キー
もう一方の VFO : Shift + Page UP キー /Shift + Page Down キー

QMB 操作



クリック : QMB にメモリーされている情報が順番に呼び出されます。
QMB 呼び出し中に QMB チャンネル番号表示部でホイールをまわすと QMB チャンネルを選択することができます。



パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
q キー

クリック & ホールド : 現在の運用状態を専用のメモリーチャンネル (QMB:クイックメモリーバンク) に 5 チャンネルまたは 10 チャンネルまでメモリーすることができます。

右クリック : QMB のリストが表示されます。

QMB LIST						X
1	--.---.---	-----	6	--.---.---	-----	10ch
2	--.---.---	-----	7	--.---.---	-----	
3	--.---.---	-----	8	--.---.---	-----	
4	--.---.---	-----	9	--.---.---	-----	
5	--.---.---	-----	10	--.---.---	-----	DELETE

削除したい QMB メモリーをクリックして [DELETE] ボタンをクリックすると、消去することができます。

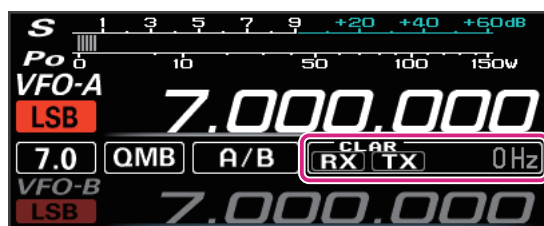
右上の [5ch] または [10ch] ボタンをクリックすると、QMB のチャンネル数を切り替えられます。

VFO-A / VFO-B 切替操作



クリック : VFO-A / VFO-B を切り替えます。

CLAR（クラリファイア）操作



- クリック：** [RX] また [TX] ボタンをクリックすると、RX クラリファイアまたは TX クラリファイアがオンになります。
- ホイール：** オフセット量（受信周波数と送信周波数の差）の表示部でホイールをまわすと、オフセット量が 10Hz ステップまたは 100Hz ステップ（AM/FM/DATA-FM/D-FM-N モード時）で変わります。
- クリック & ホールド：** [RX] また [TX] ボタンをクリック & ホールドすると、オフセット量をクリアします。

受信部の設定操作



IPO（Intercept Point Optimization）ボタン



現在の IPO 設定を表示します。接続するアンテナやコンディションによる受信する信号強度にあわせて、RF アンプ部のゲインを選択できます。

クリック： IPO、AMP1（利得約 10dB）、AMP2（利得約 20dB）から選択します。

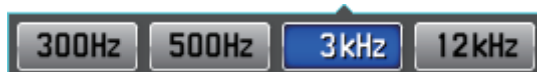


R.FIL（ルーフィングフィルタの切り替え）ボタン



現在選択されているルーフィングフィルタの帯域幅を表示します。

クリック： 300Hz、500Hz、3kHz、12kHz のルーフィングフィルタを選択します。現在の通信モードによって選択できるルーフィングフィルタは異なります。



- リモートコントロールする無線機に装備されていないルーフィングフィルタは表示されません。
- 300Hz のフィルタはオプションです。
- パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
r キー

AGC (Automatic Gain Control) ボタン



現在選択されている AGC の設定を表示します。運用モード（電波型式）やフェージングなどの状態にあわせ、AGC 回路の時定数を切り換えて受信できます。

クリック： OFF、AUTO、FAST、MID、SLOW から選択します。AUTO のときは、電波形式に応じて自動的に時定数が切り替わります。



メモリーチャンネル操作



M ボタン



- メモリーチャンネルリストが表示されていないとき：
クリック： メモリーチャンネルリストを開きます。
クリック & ホールド： VFO の内容を最後に使用したメモリーチャンネルに書き込んで、メモリーチャンネルリストを開きます。
- メモリーチャンネルリストが表示されているとき：
クリック： メモリーチャンネルリストを閉じます。
クリック & ホールド： VFO の内容を現在選択しているメモリーチャンネルに書き込みます。

V/M ボタン



- メモリーチャンネルリストが表示されていないとき：
クリック： VFO と最後に使用したメモリーチャンネルを交互に呼び出します。
メモリーチャンネル呼び出し中にメモリーチャンネル番号表示部でホイールをまわすとメモリーチャンネルを選択することができます。
クリック & ホールド： メモリーチャンネルリストを開きます。
- メモリーチャンネルリストが表示されているとき：
クリック： メモリーチャンネルリストを閉じます。

メモリーチャンネルリストの操作

MEMORY CH LIST					
CH	FREQ	MODE	NAME	SCAN MEMORY	DISPLAY TYPE
M-01	7.000.000	LSB		SCAN	FREQ
M-02	7.000.000	LSB		SCAN	FREQ
M-03	14.000.000	USB	YAESU	SCAN	FREQ
M-04	--.---.---	-----	-----	----	----
M-05	--.---.---	-----	-----	----	----
M-06	--.---.---	-----	-----	----	----

GET DATA RECALL M ▶ VFO VFO ▶ M ERASE

SEND DATA



メモリーチャンネルリスト画面の最下部の枠線をドラッグすると、ウィンドウを広げて表示するチャンネル数を増やすことができます。

● 無線機からメモリーデータを読み込む



無線機に保存されている全てのメモリーチャンネルのデータを SCU-LAN10 リモートコントロールソフトウェアに読み込むことができます。



無線機からメモリーデータを読み込むと現在 SCU-LAN10 リモートコントロールソフトウェアに保存されているメモリーデータは上書きされます。



リモートコントロールソフトウェアが現在、保存しているメモリーデータとは異なる機種種の無線機からメモリーデータを読み込む場合、機種ごとに異なる部分のデータを含めて、メモリーチャンネルに格納できるすべてのデータが転送されて上書きされます。異なる機種種のデータを読み込む場合は十分にご注意ください。

クリック： 確認画面が表示されますので、読み込む場合は [YES] をクリックします。

右クリック： メモリーデータを最後に読み込んだ日時を表示します。

● メモリーデータを無線機へ転送する



SCU-LAN10 リモートコントロールソフトウェアに保存されている全てのメモリーチャンネルのデータを無線機に転送することができます。



リモートコントロールソフトウェアでは無線機に保存されているメモリーデータとは別に、SCU-LAN10 リモートコントロールソフトウェア側で独立してメモリーデータを保存しています。



リモートコントロールソフトウェアが現在、保存しているメモリーデータを異なる機種種の無線機に書き込むと、基本データは転送されますが、機種ごとに異なる部分のデータは初期値が転送されます。異なる機種にデータを転送する場合は十分にご注意ください。

クリック： 確認画面が表示されますので、転送する場合は [YES] をクリックします。

右クリック： メモリーデータを最後に転送した日時を表示します。

● メモリーチャンネル呼び出す



クリック： 選択中のメモリーチャンネルのデータを呼び出します。

- メモリーデータを VFO に転送する

M ▶ VFO

クリック： 選択中のメモリーチャンネルのデータを現在の VFO に転送します。

- メモリーに書き込む

VFO ▶ M

クリック： 現在の VFO の周波数や運用モードなどの情報を選択中のメモリーチャンネルに書き込みます。

- メモリーチャンネルの消去 / 復活

ERASE / **RESTORE**

クリック： 選択中のメモリーチャンネルを消去または復活します。



メモリーチャンネル“M-01”は消去できません。

メモリーチャンネルの編集

MEMORY CH LIST					
CH	FREQ	MODE	NAME	SCAN MEMORY	DISPLAY TYPE
M-01	7.000.000	LSB	YAESU	SKIP	NAME
M-02	14.195.000	USB	20m Band	SKIP	FREQ
M-03	14.000.000	USB	YAESU	SCAN	FREQ
M-04	29.300.000	FM		SCAN	FREQ
M-05	50.500.000	AM	6m AM	SCAN	NAME
M-06	--.---.---	-----	-----	----	----

MODE、NAME、SCAN MEMORY、DISPLAY TYPE の各欄を右クリックするとメモリーチャンネルの各項目の内容を編集することができます。

- MODE

電波形式を選択します。

LSB	USB	CW-L	CW-U
AM	AM-N	FM	FM-N
DATA-L	DATA-U	DATA-FM	D-FM-N
RTTY-L	RTTY-U	PSK	

- NAME

メモリーチャンネルのアルファタグ（最大 12 文字）を入力 / 編集します。

- SCAN MEMORY

メモリースキャン時に、スキャンしたくないチャンネルを“SKIP”に設定します。

SCAN **SKIP**

- DISPLAY TYPE

メモリーを呼び出したときの表示を“周波数表示”または“アルファタグ表示”に設定します。

FREQ **NAME**

AF Gain/RF Gain 調節



AF (スピーカーアイコン)

スライダーの上でマウスのホイールをまわすか、またはドラッグまたはクリックして受信音量を調節します。

i スピーカーアイコンをクリックする度に、MUTE/MUTE 解除が切り替わります。

RF (RF GAIN)

スライダーの上でマウスのホイールをまわすか、またはドラッグまたはクリックして RF ゲインを調節します。

i RF アイコンを右クリックすると、RF ゲインと SQL レベルのどちらを調節するか選択できます。

SHIFT/WIDTH 操作



SHIFT ボタン

SHIFT

クリック： ボタンが青色になっているときは、フィルター機能表示エリアのマウス操作で、IF フィルターのシフト周波数を変更できます。

i パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
s キー

クリック & ホールド： IF フィルターのシフト周波数が 0Hz に戻ります。

i シフトができない電波形式の時は、ボタンがグレースアウトで表示されます。

WIDTH ボタン



クリック： ボタンが青色で表示されているときは、フィルター機能表示エリアのマウス操作で、IF フィルターの帯域幅を変更できます。



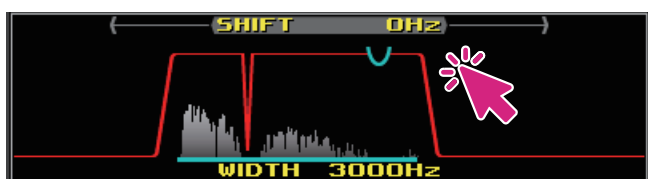
パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
W キー

クリック & ホールド： IF フィルターの帯域幅が初期値に戻ります。



帯域幅が変更できない電波形式の時は、ボタンがグレイアウトで表示されます。

フィルター機能表示エリアの操作



クリック / ホイール： SHIFT、WIDTH、NOTCH、CONTOUR、APF の各機能は、それぞれのボタンをクリックしてボタンが青色で表示されているときに、帯域幅やシフト、中心周波数などをマウスで調節することができます。

右クリック： フィルター機能表示エリア内の信号のスペクトラム表示の表示 / 非表示が選択できます。



フィルター機能表示エリアの操作

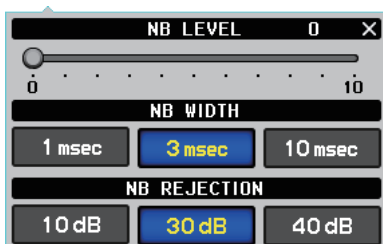


NB（ノイズブランカー）ボタン



クリック： ノイズブランカー機能がオン / オフします。

右クリック： ノイズブランカー機能の動作設定が変更できます。



DNR（デジタルノイズリダクション）ボタン



クリック： デジタルノイズリダクション機能がオン / オフします。
右クリック： デジタルノイズリダクション機能のレベルが設定できます。



DNF（デジタルノッチフィルター）ボタン



クリック： デジタルノッチフィルター機能がオン / オフします。

NOTCH（ノッチ）ボタン



クリック： IF ノッチ機能がオン / オフします。



パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
n キー

右クリック： IF ノッチ機能の帯域幅が選択できます。



CONT（コンツアー）ボタン

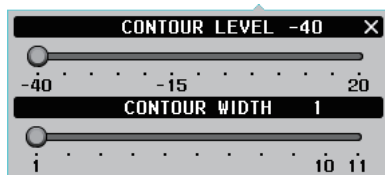


クリック： コンツアー機能がオン / オフします。



パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
c キー

右クリック： コンツアー機能の減衰量と帯域幅が設定できます。



APF（オーディオピークフィルター）ボタン



APF 機能は CW モード専用です。



クリック： APF 機能がオン / オフします。
右クリック： APF 機能の帯域幅が設定できます。



PTT 操作



PTT ボタン

クリック & ホールド： 送信します。



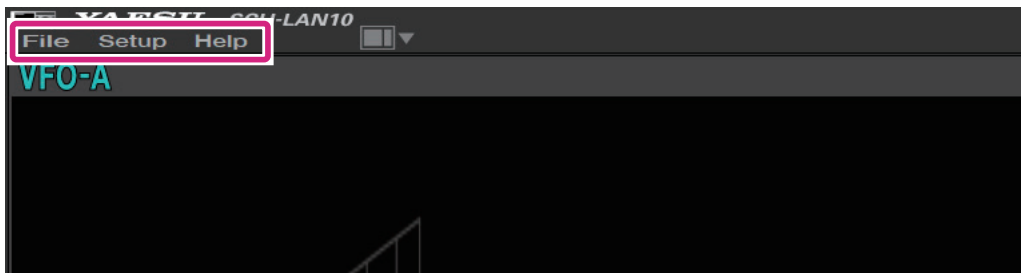
パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
スペースキー

右クリック：

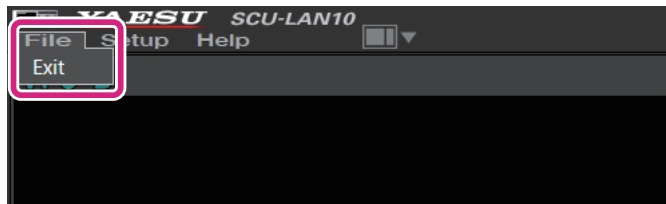
ボタンの機能を“PTT”と“MOX”から選択できます。



メニューバー

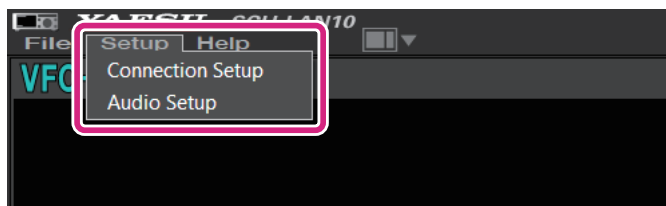


File



Exit : リモートコントロールソフトウェアを終了します。

Setup



Connection Setup : SCU-LAN10 との接続に関する設定をします。
最初に一度だけ設定すれば変更する必要はありません。

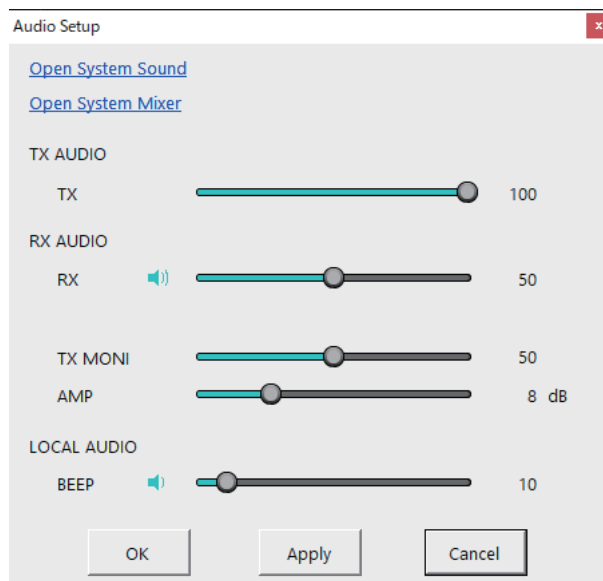
Field	Value
Transceiver	FTDX10
Login Account	
User	
Password	*****
Network	
Remote Address	192.168.1.1
Control Port	
CAT Port	
Audio Port	
Scope Port	
Audio Quality	PCM(16kHz)
Audio Send Buffer Size	200msec
Audio Recv Buffer Size	100msec

SCU-LAN10 とリモート接続中はグレイアウト表示となり、設定の確認だけができます。

詳しくは、SCU-LAN10 取扱説明書 <インストール編> を参照してください。

Audio Setup :

オーディオレベルの設定画面を開きます。



Open System Sound Windows の“サウンド”画面が表示されます。

Open System Mixer Windows の“音量ミキサー”画面が表示されます。
Windows での音量調整について詳しくは SCU-LAN10 取扱説明書 <インストール編> を参照してください。

TX AUDIO

TX


送信変調レベルを調節します。

この調節は MIC GAIN/PROC ボタン  を右クリックして、表示される MIC GAIN 調節バー  の調節と同じです。

RX AUDIO

RX

受信音量を調節します。

この調節は VFO 操作部の音量調節バー  50 の調節と同じです。

TX MONI

モニター機能で送信音をモニターするときの音量を調節します。

この調節はボタン  を右クリックして、表示される MONI 調節バー  の調節と同じです。

AMP

受信音または TX MONI 音量が Windows の音量調節または上記の音量調節をしても、音量が著しく小さいような場合や歪んでしまうような場合に調節します。通常は変更する必要はありません。(工場出荷時設定：8dB)

LOCAL AUDIO

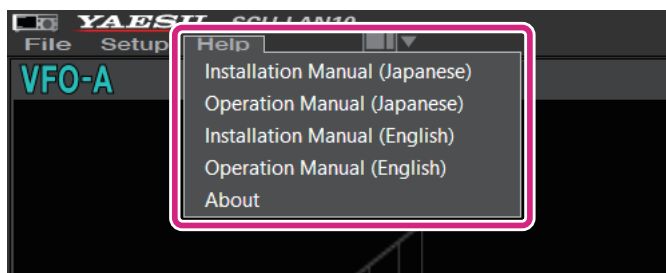
BEEP

リモートコントロールソフトウェアを操作したときのビープ音量を調節します。



“Audio Setup”画面で調節しても音量が著しく小さいような場合や逆に音が大きすぎて歪んでしまうような場合には、Windows での音量調節をしてください。Windows での音量調節について詳しくは SCU-LAN10 取扱説明書 <インストール編> を参照してください。それでも調整できない場合に上記の RX AUDIO の“AMP”の設定を変更してください。

Help



Installation Manual (Japanese) : 取扱説明書＜インストール編＞（日本語）の PDF ファイルを開きます。

Operation Manual (Japanese) : 取扱説明書（日本語）の PDF ファイル（本書）を開きます。

Installation Manual (English) : 取扱説明書＜インストール編＞（英語）の PDF ファイルを開きます。

Operation Manual (English) : 取扱説明書（英語）の PDF ファイルを開きます。

About : このソフトウェアの情報を表示します。

ショートカットキー

パソコンのキーボードのキーで下記の操作ができます。

機能	キー操作
スペクトラムスコープ スパン（広く）	カーソルキー 右（→）
スペクトラムスコープ スパン（狭く）	カーソルキー 左（←）
VFO 周波数アップ	Page Up Shift + Page Up（もう一方の VFO）
VFO 周波数ダウン	Page Down キー Shift + Page Down キー（もう一方の VFO）
AF GAIN アップ	カーソルキー 上（↑）
AF GAIN ダウン	カーソルキー 下（↓）
SHIFT 機能選択	s キー
WIDTH 機能選択	w キー
ルーフィングフィルタ選択	r キー
NOTCH 機能選択	n キー
CONTOUR 機能選択	c キー
モード切換（LSB/USB）	F1 キー
モード切換（CW-L/CW-U）	F2 キー
モード切換（AM）	F3 キー
モード切換（FM）	F4 キー
QMB 呼び出し	q キー
PTT（送信）	スペースキー



ショートカットキーの編集はできません。

基本的な使い方 (FT-710)

SCU-LAN10 リモートコントロールソフトウェアを起動する

1. Windows のスタートボタンをクリックして、“Yaesu Musen” グループの [YAESU SCU-LAN10] アイコンをクリックして、リモートコントロールソフトウェアを起動します。





- デスクトップの [YAESU SCU-LAN10] アイコンをダブルクリックしてリモートコントロールソフトウェアを起動することもできます。
- 画面左上の“Setup”メニューの“Connection Setup”で、ご使用になるトランシーバー(FT-710 シリーズ)に設定されていないと、一部の機能の動作や画面の表示が正常に動作しません。設定について詳しくは“SCU-LAN10 取扱説明書 <インストール編>”を参照してください。
- はじめて SCU-LAN10 と接続したときは、自動で“Connection Setup”画面が表示されますので初期設定をしてください。

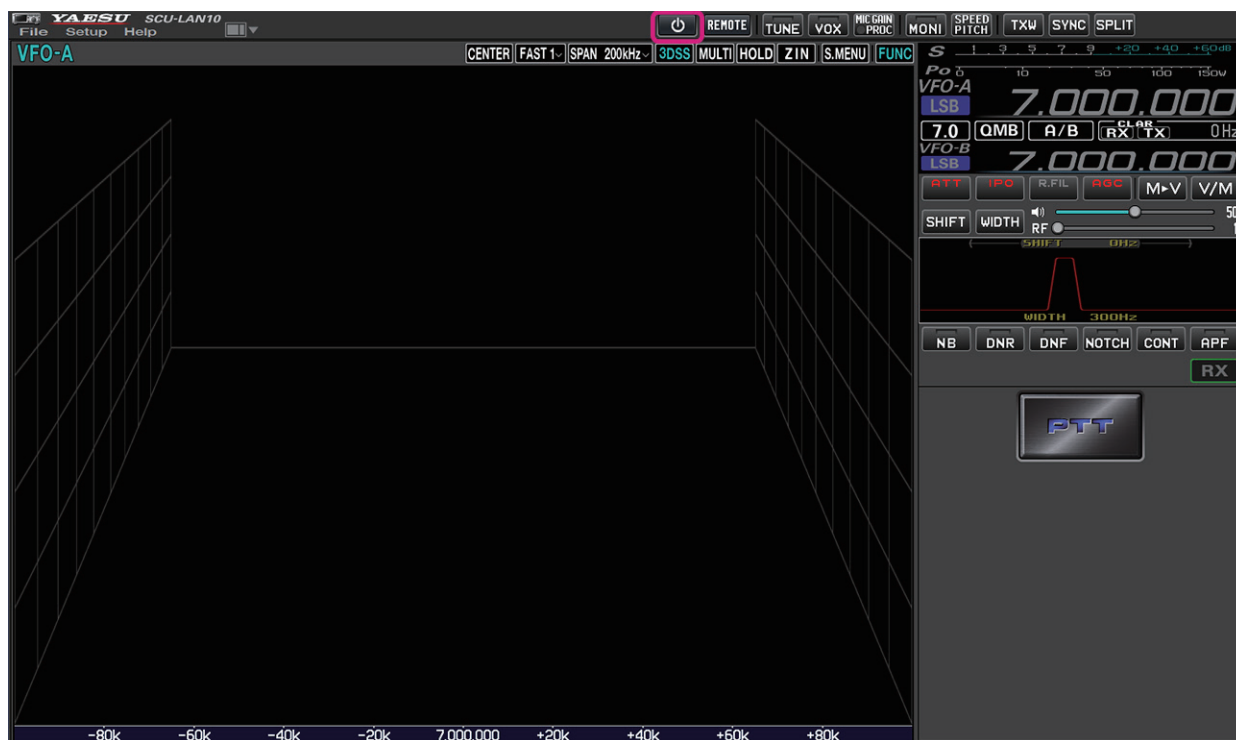


1. [] ボタンをクリックします。

自動でトランシーバーの電源がオンになり、リモートコントロールが開始されます。

リモートコントロール中は “” ボタンと “REMOTE” ボタンが赤色に変わります。

- [REMOTE] ボタンはリモートコントロールの開始 / 終了をします。[REMOTE] ボタンをクリックするとトランシーバーの電源がオフの時は自動でオンになります。ネットワークが不安定な場合などでリモートコントロールが切断されてしまった場合には、[REMOTE] ボタンをクリックして再開できます。
- はじめて [] ボタンまたは [REMOTE] ボタンをクリックしたときに、Windows やお使いのファイヤーウォールソフトウェアの設定により、警告画面が表示される場合があります。このときは、リモートコントロールソフトウェアからのインターネットアクセスを許可する(ブロックを解除する)ように設定してください。

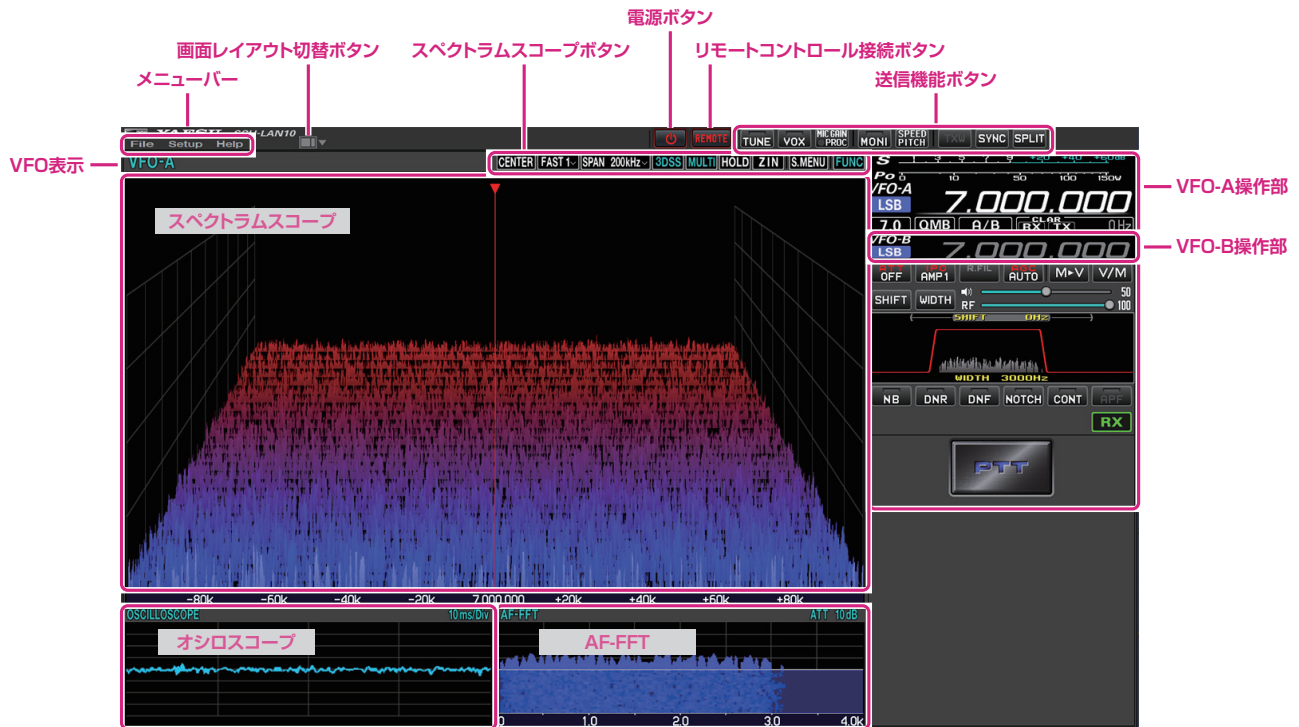


リモートコントロールソフトウェア画面

初期設定では、画面の左側にスペクトラムスコープ、右側に周波数やメーター、フィルター画面などが表示されます。



- 下記の表示例では [MULTI] ボタンをクリックしてオシロスコープ、AF-FFT スコープを表示させています。
- ご使用になるパソコンの画面解像度によって、各エリアのサイズやレイアウトなどは自動的に調整されますので、下記の表示例と多少異なる場合があります。



画面レイアウトを切り替える



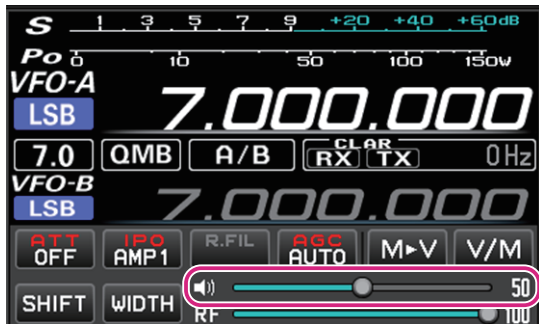
クリック：

画面レイアウトを 5 種類の中から選択できます。



クリック & ホールド：画面内の各エリアの大きさを初期設定に戻すことができます。

受信音量を調節する



● AF GAIN (スピーカーアイコン)

スライダーの上でマウスのホイールをまわすか、クリックまたはドラッグして受信音を聞きやすい音量に調節します。

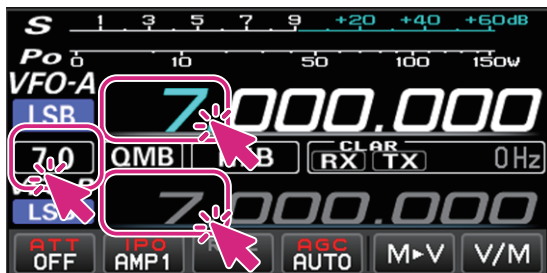


- スピーカーアイコンをクリックする度に、MUTE(消音)/MUTE 解除が切り替わります。
- パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
カーソルキー上(↑)/下(↓)

周波数を変更する

周波数帯 (バンド) を切り替える

1. MHz の桁またはバンド表示部をクリックするとバンド選択画面が表示されます。



2. 切り替えるバンドをクリックします。



周波数を変更する

周波数の変更方法には以下の 3 通りの方法があります。

(1) マウスのホイール操作、ドラッグ操作

● MHz 桁

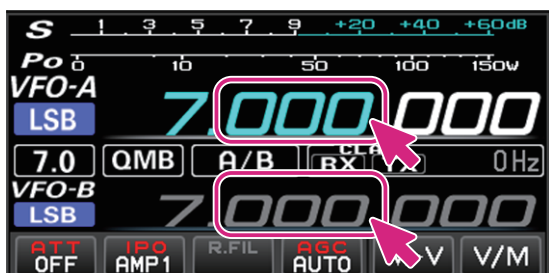
1. 周波数の MHz の上にマウスカーソルを移動すると水色に変わります。



2. この状態でマウスのホイールをまわすと 1MHz ステップで周波数が変わります。

● kHz 桁

1. 周波数の 100kHz ~ 1kHz の 3 桁の上にマウスカーソルを移動すると 1kHz よりも上の桁が水色に変わります。



2. この状態でマウスのホイールをまわすと、設定した FAST ステップで周波数が変わります。
 - 数字の上側半分または下側半分のクリックすると、FAST ステップで周波数がアップまたはダウンします。
 - また、数字をクリックしたままマウスを上または下に移動すると、FAST ステップで周波数が連続で変わります。
 - FAST ステップまたは TUNING ステップを変更するには 100kHz ~ 1Hz の桁を右クリックします。詳しくは次ページの“チューニングステップを変更する”を参照してください。



キーボードの [SHIFT] キーを押しながら、100kHz ~ 1Hz の桁をクリックすると、その桁以下をワンタッチでゼロにできます。

● Hz 桁

1. 周波数の 100Hz ~ 1Hz の 3 桁の上にマウスカーソルを移動すると、周波数のすべての桁が水色に変わります。



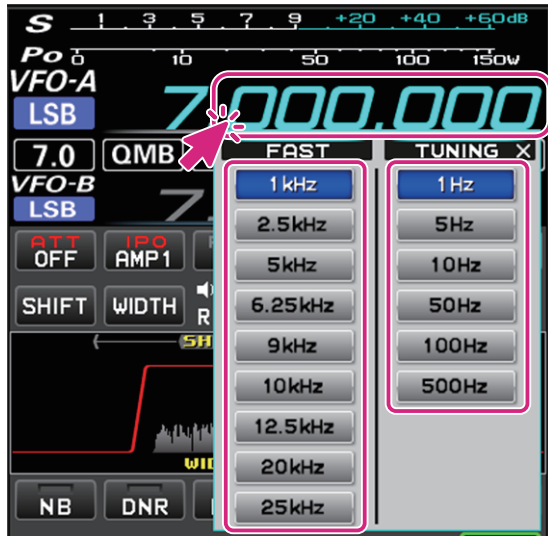
2. この状態でマウスのホイールをまわすと、TUNING ステップで周波数が変わります。
 - 数字の上側半分または下側半分のクリックすると、TUNING ステップで周波数がアップまたはダウンします。
 - また、数字をクリックしたままマウスを上または下に移動すると、TUNING ステップで周波数が連続で変わります。
 - TUNING ステップまたは FAST ステップを変更するには 100kHz ~ 1Hz の桁を右クリックします。詳しくは次ページの“チューニングステップを変更する”を参照してください。



- キーボードの [SHIFT] キーを押しながら、100kHz ~ 1Hz の桁をクリックすると、その桁以下をワンタッチでゼロにできます。
- 周波数表示部ではキーボードの [SHIFT] キーを押しながらホイールをまわしても FAST ステップにはなりません。
- パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
Page UP/Page Down

• チューニングステップを変更する

1. 100kHz ~ 1Hz の桁を右クリックすると、FAST ステップと TUNING ステップの設定画面が表示されます。
2. 切り替える FAST ステップまたは TUNING ステップをクリックします。



(2) スペクトラムスコープ画面で周波数を変更する

1. スペクトラムスコープの画面にマウスカーソルを移動して、マウスのホイールをまわすと TUNING ステップで周波数が変化します。
 - キーボードの [SHIFT] キーを押しながらマウスのホイールをまわすと FAST ステップで周波数がアップ / ダウンします。
 - また、スペクトラムスコープで信号のピークなど、スコープ画面内をクリックすると、その周波数付近にジャンプします。その後、マウスのホイールをまわして周波数を合わせて目的の信号を聞くことができます。

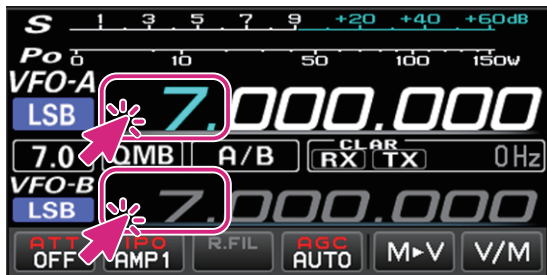


スペクトラムスコープ画面内を右クリックすると FAST ステップと TUNING ステップの設定画面が表示されます。

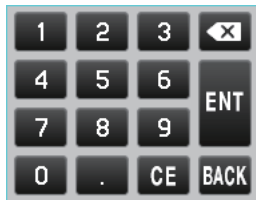


(3) テンキー画面で周波数を入力する

1. 周波数の MHz の桁で右クリックするとテンキー画面が表示されます。



2. 画面をマウスでクリックするか、またはパソコンの数字キーで周波数を入力します。



キーボード操作：

- Enter キー： 入力した周波数を確定する (ENT)
- Backspace キー： カーソルの前の数字を消去する (X)
- Delete キー： 入力中の数字を全て消去する (CE)
- Esc キー： 周波数入力をキャンセルしてテンキー画面を閉じる (BACK)

モード（電波形式）を切り替える

1. モードのアイコンをクリックします。



2. 切り替えるモードをクリックします。



- モードのアイコンを右クリックすると、下記のモードの間をワンタッチで切り換えることができます。
LSB ↔ USB、CW-L ↔ CW-U、AM ↔ AM-N、FM ↔ FM-N
DATA-L ↔ DATA-U、DATA-FM ↔ D-FM-N、RTTY-L ↔ RTTY-U



- パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
LSB/USB： F1
CW-L/CW-U： F2
AM： F3
FM： F4

送信時に表示するメーターを切り替える

1. S/PO メーター部分をクリックします。



2. 切り替えるメーターをクリックします。




送信する

1. PTT ボタンをクリック & ホールドしている間、送信状態になります。

送信中は周波数の上に TX アイコンが表示されます。



2. パソコンのマイクロホンに向かって話します。
3. PTT ボタンを放すと受信に戻ります。

 パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
スペースキー

● MOX ボタンに切り替える

PTT スイッチを MOX スイッチに切り替えることができます。

1. PTT ボタンを右クリックすると“PTT”と“MOX”の設定画面が表示されます。



2. [MOX] をクリックします。

画面各部の機能 (FT-710)

電源ボタン

電源ボタン



クリック： リモートコントロール中ではないときは、自動でトランシーバーの電源がオンになり、リモートコントロールを開始します。
リモートコントロール中は、自動でトランシーバーの電源がオフになり、リモートコントロールを終了します。

リモートボタン

リモートコントロールボタン



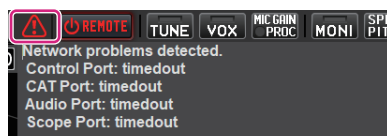
クリック： リモートコントロール中ではないときは、トランシーバーの電源がオフの時は自動でオンになりリモートコントロールを開始します。
リモートコントロール中は、トランシーバーの電源はオフにせずに、リモートコントロールを終了します。



ネットワークが不安定な場合などでリモートコントロールが切断されてしまった場合に、[REMOTE] ボタンをクリックしてリモートコントロールを再開できます。

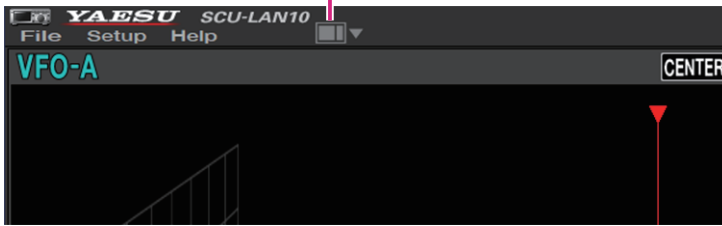
• ワーニング (注意) 表示

ワーニング表示が点灯したまま、あるいは時々点灯する場合は、ネットワーク回線またはポート解放の設定に問題がある可能性があります。SCU-LAN10 取扱説明書<インストール編>を参照し、設定を最初からやり直してください。ワーニング表示をクリックして、検出された問題を確認することができます。

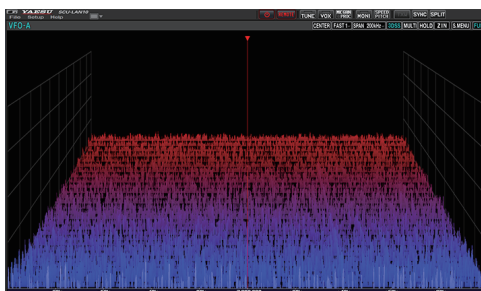
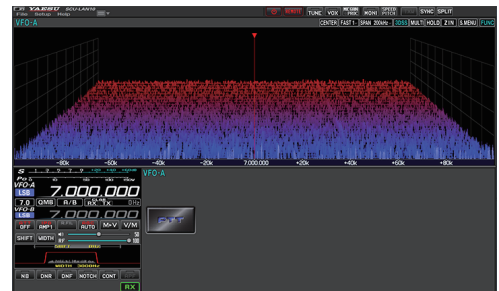
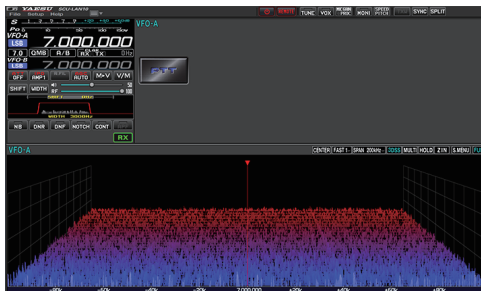
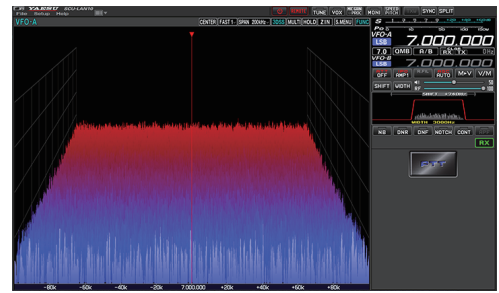
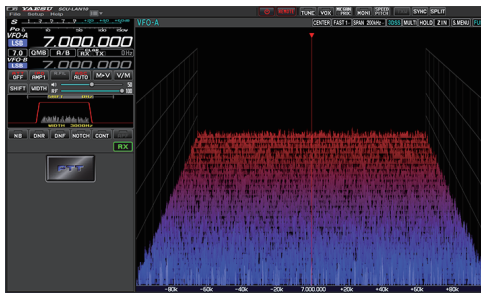


画面レイアウト切替ボタン

画面レイアウト切替ボタン

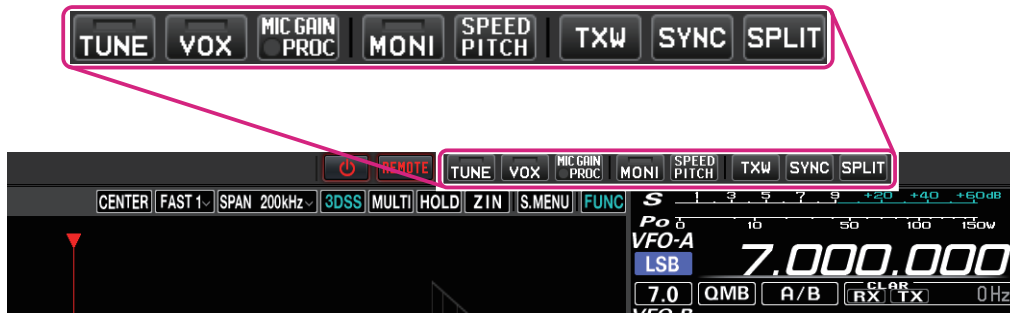


クリック： 画面レイアウトを5種類の中から選択します。



クリック & ホールド： 画面内の各エリアの大きさを初期設定に戻すことができます。

送信機能ボタン



TUNE ボタン

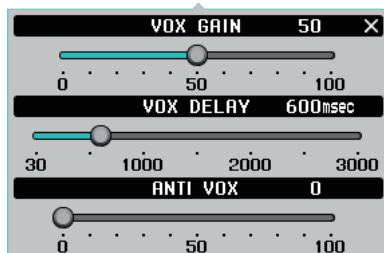


- クリック： アンテナチューナーの ON/OFF を切り替えます。
ON の時、ボタンのインジケーターが赤く点灯します。
- クリック & ホールド： 自動的に送信状態になり、アンテナチューナーのチューニング動作がスタートします。

VOX ボタン




- クリック： VOX の ON/OFF を切り替えます。
ON の時、ボタンのインジケーターが赤く点灯します。
- 右クリック： VOX 設定ウィンドウが開きます



MIC GAIN/PROC ボタン



- クリック： PROC の ON/OFF を切り替えます。(LSB または USB モード時のみ動作します)
ON の時、ボタンの丸いインジケーターが赤く点灯します。
- 右クリック： MIC GAIN/AMC/PROC 設定ウィンドウが開きます。
MIC GAIN/AMC/PROC 設定ウィンドウは右上の [ピン留めボタン]  をクリックすると、表示させたままにすることができます。



MONI ボタン



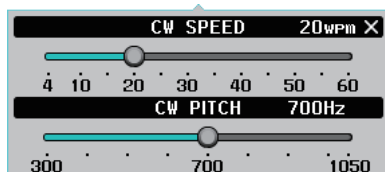
- クリック： モニター機能の ON/OFF を切り替えます。
ON の時、ボタンのインジケーターが赤く点灯します。
- 右クリック： モニターレベル（音量）設定ウィンドウが開きます



SPEED/PITCH ボタン



- クリック： CW SPEED と CW PITCH の設定ウィンドウが開きます。



TXW ボタン



- クリック： SPLIT ON 中に送受信の周波数を入れ換えます。
ON の時、ボタンが赤色で点滅表示されます。

SYNC ボタン



- クリック： VFO-A の周波数と VFO-B の周波数を同じステップで同時に変更できます。
ON の時、ボタンが赤色で表示されます。

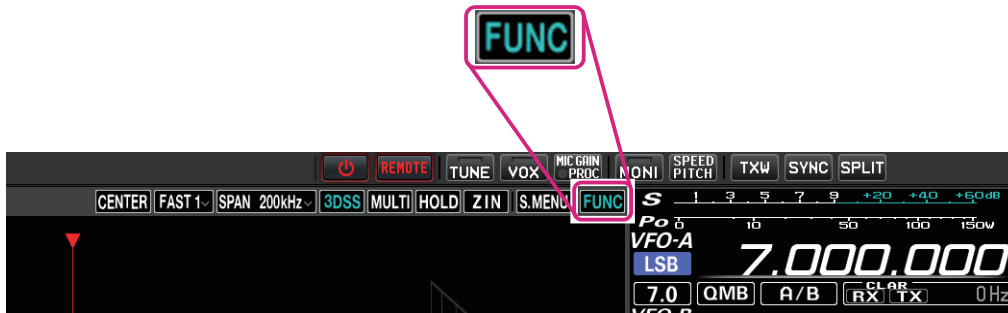
SPLIT ボタン



- クリック： SPLIT（スプリット機能）の ON/OFF を切り替えます。
ON の時、ボタンが赤色で表示されます。
- クリック & ホールド： クイックスプリット機能により、現在の VFO の周波数に“クイックスプリット機能のオフセット周波数設定値（初期設定値 :+5kHz）”が加算された周波数にもう一方の VFO が設定されて、スプリット機能が ON になります。
スプリット機能が ON のときには、クリック & ホールドする度に現在の VFO-B の周波数に“クイックスプリット機能のオフセット周波数設定値（初期設定値 :+5kHz）”が加算されます。
- 右クリック： スプリット機能の設定画面が開きます。



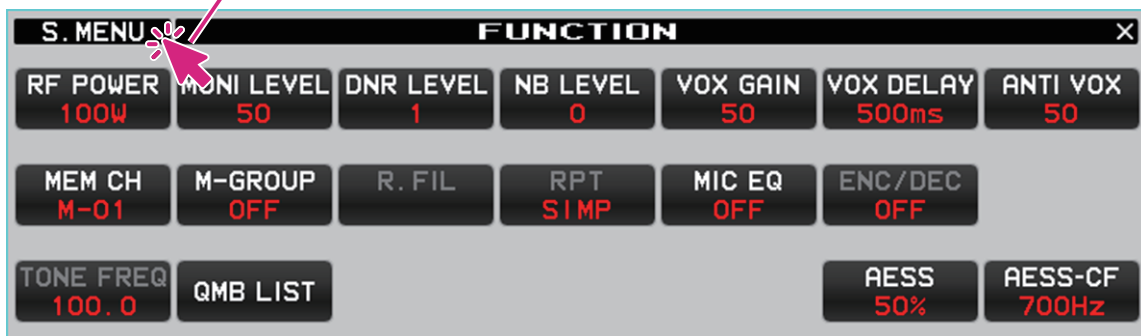
FUNC ボタン（ファンクションメニュー表示）



クリックすると各種機能の設定を行うファンクションメニュー画面を表示します。（トランシーバーのファンクションメニュー表示とは一部、項目が異なります。）

i メニュー左上の [S.MENU] をクリックすると、スペクトラムスコープメニューに切り替わります。

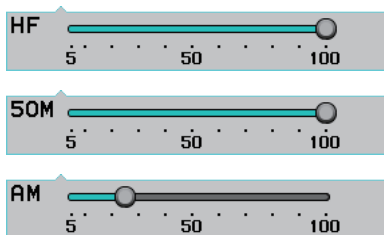
スペクトラムスコープメニューを表示



RF POWER ボタン

RF POWER
100W

クリック： 現在の送信周波数（HF 帯 /50MHz 帯）または通信モード（AM モード）、それぞれの送信出力を調節します。



送信出力の設定は、トランシーバー本体のセットモード “MAX POWER” で設定されている最大送信出力以下の範囲内で設定できます。リモートコントロールではセットモード “MAX POWER” は変更できません。

セットモード [OPERATION SETTING] → [TX GENERAL]

HF MAX POWER (HF 帯)

50M MAX POWER (50MHz 帯)

AM MAX POWER (AM モード)

MONI LEVEL ボタン

MONI LEVEL
50

クリック： モニター機能の音量を調節します。



DNR LEVEL ボタン

DNR LEVEL
1

クリック： DNR レベル（ノイズが減衰するレベル）を調節します。



NB LEVEL ボタン

NB LEVEL
0

クリック： NB（ノイズブランカー）レベルを調節します。



VOX GAIN ボタン

VOX GAIN
50

クリック： VOX ゲインの調節をします。



VOX DELAY ボタン

VOX DELAY
500ms

クリック： VOX 機能で送信中に言葉の切れ目で受信状態に戻るまでの時間 (30 ~ 3000msec) を設定します。



ANTI VOX ボタン

ANTI VOX
50

クリック： VOX が“ON”のときに、スピーカーからの受信音で送信状態にならないように調節します。



MEM CH ボタン

MEM CH
M-01

メモリーモード中、メモリーチャンネルを選択します。

クリック： ボタンの上部をクリックすると順にメモリーチャンネルを選択します。ボタンの下部をクリックすると逆順にメモリーチャンネルを選択します。

ホイール： メモリーチャンネルを選択します。

M-GROUP ボタン

M-GROUP
OFF

クリック：メモリーグループ機能が ON のとき、メモリーグループを順に選択します。

ホイール：メモリーグループ機能が ON のとき、メモリーグループを選択します。

右クリック：メモリーグループ機能の ON/OFF を選択します。



RPT ボタン

RPT
SIMP

クリック：レピータ運用時のシフト方向を選択します。



SIMP：送信、受信共に同じ周波数です。

+（プラス）：受信周波数より高い周波数（初期設定は +100kHz）で送信します。

-（マイナス）：受信周波数より低い周波数（初期設定は -100kHz）で送信します。

MIC EQ ボタン

MIC EQ
OFF

クリック：パラメトリックマイクイコライザー機能の ON/OFF が切り替わります。

※リモートコントロールでマイクイコライザーのパラメータの詳細設定は変更できません。

ENC/DEC ボタン

ENC/DEC
OFF

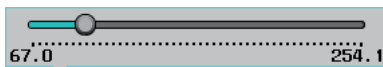
クリック：トーンエンコーダー機能またはトーンスケルチ機能をオンにします。



TONE FREQ ボタン

TONE FREQ
88.5

クリック：トーンエンコーダー機能およびトーンスケルチ機能のトーン周波数を設定します。



QMB LIST ボタン

QMB LIST

現在の周波数帯の QMB（クイックメモリーバンク）にメモリーされている内容を確認または削除することができます。また、右上の [10ch] または [5ch] をクリックして、QMB のメモリーチャンネル数を設定できます。

QMB LIST						X
1	--.---.---	-----	6	--.---.---	-----	10ch
2	--.---.---	-----	7	--.---.---	-----	
3	--.---.---	-----	8	--.---.---	-----	
4	--.---.---	-----	9	--.---.---	-----	
5	--.---.---	-----	10	--.---.---	-----	DELETE

スペクトラムスコープエリア

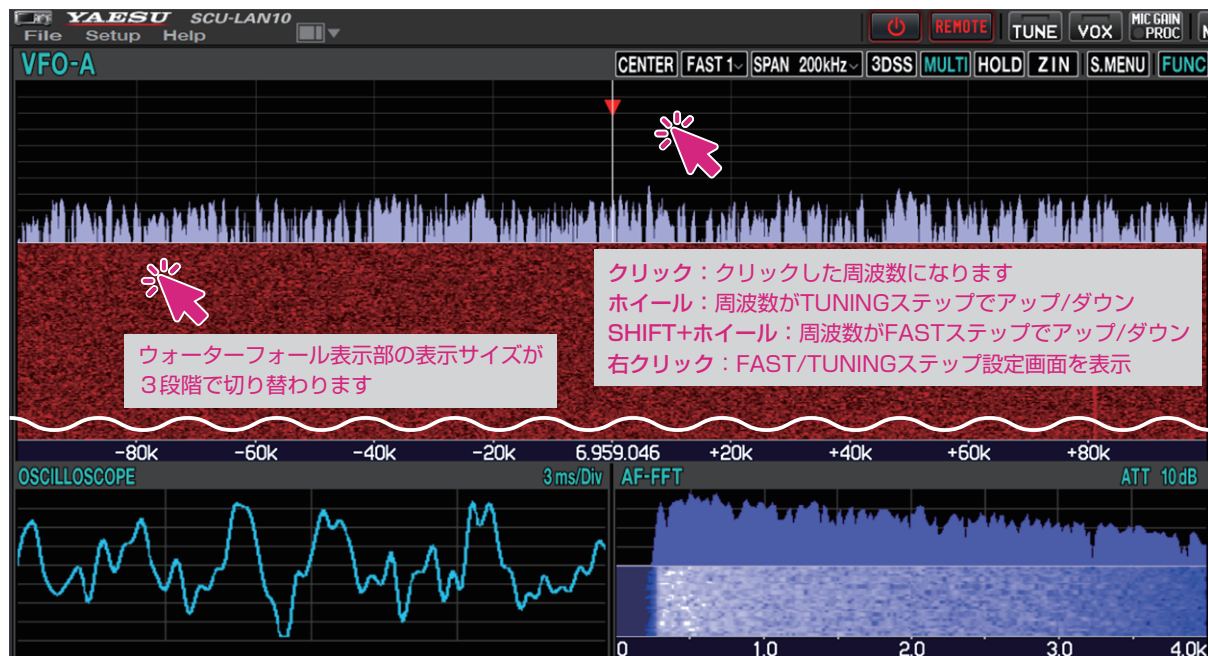
画面操作

3DSS 表示



キーボードの [SHIFT] キーを押しながらマウスのホイールをまわすと周波数が FAST ステップでアップダウンします。

ウォーターホール表示



キーボードの [SHIFT] キーを押しながらマウスのホイールをまわすと周波数が FAST ステップでアップダウンします。

- ホイールをまわして受信周波数を変更

スペクトラムスコープ画面でマウスのホイールをまわすと、受信周波数が TUNING ステップでアップ / ダウンします。

また、キーボードの [SHIFT] キーを押しながらマウスのホイールをまわすと周波数が FAST ステップでアップダウンします。

- クリックして受信周波数を変更

スペクトラムスコープ画面をクリックすると、その周波数付近にジャンプします。その後、マウスのホイールをまわして周波数を合わせて目的の信号を聞くことができます。

- 右クリックして FAST/TUNING ステップを変更

スペクトラムスコープ画面をクリックすると、FAST ステップと TUNING ステップの設定画面が開きます。


- VFO-A/VFO-B 切り換え

VFO-A / **VFO-B**

クリックする度に VFO-A と VFO-B が入れ替わります。

- ウォーターホール表示エリアのサイズ変更

スペクトラムスコープがウォーターホール表示になっているときに、ウォーターホール表示部をクリックすると、表示エリアのサイズを 3 段階で変更できます。

※画面レイアウトアイコン  をクリック & ホールドすると、サイズを初期化することができます。

スコープ機能ボタン



CENTER/CURSOR/FIX ボタン

CENTER / **CURSOR** / **FIX**

スペクトラムスコープの動作を切り替えます。

クリック： CENTER (センター) 表示と CURSOR (カーソル) 表示、FIX (フィックス) 表示が、クリックするたびに切り替わります。

クリック & ホールド：

- ・ CENTER または CURSOR の時にボタンをクリック & ホールドすると、受信周波数の 100Hz 以下の桁がゼロになります。
- ・ FIX の時にボタンをクリック & ホールドすると、受信周波数がスコープのスタート周波数に戻ります。

右クリック： FIX の時にボタンを右クリックすると、スコープのスタート周波数（左端）を入力するポップアップ画面が開きます。



キーボード操作：

Enter キー： 入力した周波数を確定する (ENT)

Backspace キー： カーソルの前の数字を消去する (X)

Delete キー： 入力中の数字を全て消去する (CE)

Esc キー： 周波数入力をキャンセルしてテンキー画面を閉じる (BACK)

SLOW1/SLOW2/FAST1/FAST2/FAST3 ボタン



スペクトラムスコープ表示のスweep速度を切り替えます。

クリック： スペクトラムスコープ表示のスweep速度を選択するポップアップ画面が表示されます。



SLOW1： スweepスピード 遅い

SLOW2： スweepスピード ↑

FAST1： スweepスピード 標準

FAST2： スweepスピード ↓

FAST3： スweepスピード 早い



この機能の設定は、リモートコントロールソフトウェアにのみ適用されます。トランシーバーのスペクトラムスコープ画面とは個別の設定です。

SPAN ボタン



スコープ画面の周波数スパン（表示範囲）を設定します。

クリック： スコープ表示のスパンを選択するポップアップ画面が表示されます。



パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
カーソルキー左(←)/ 右(→)

3DSS ボタン



3DSS 表示とウォーターフォール表示を切り換えます。

クリック： “3DSS” 表示と “ウォーターフォール” 表示が切り替わります。“3DSS” 表示のときボタンの文字が緑色で表示されます。

MULTI（マルチ表示切替）ボタン



クリック： オシロスコープ画面と AF-FFT 画面を表示する“マルチ表示”に切り替わります。“マルチ表示”のときボタンの文字が緑色で表示されます。

クリック & ホールド： “マルチ表示”の時にボタンをクリック & ホールドすると、オシロスコープ画面と AF-FFT 画面の表示位置を変更できます。

HOLD ボタン



スコープ画面と受信のフィルター画面の波形描画を一時停止します。

クリック： 一時停止 / 解除をします。一時停止中はボタンが赤色で点滅して表示されます。

ZIN（オートゼロイン）ボタン



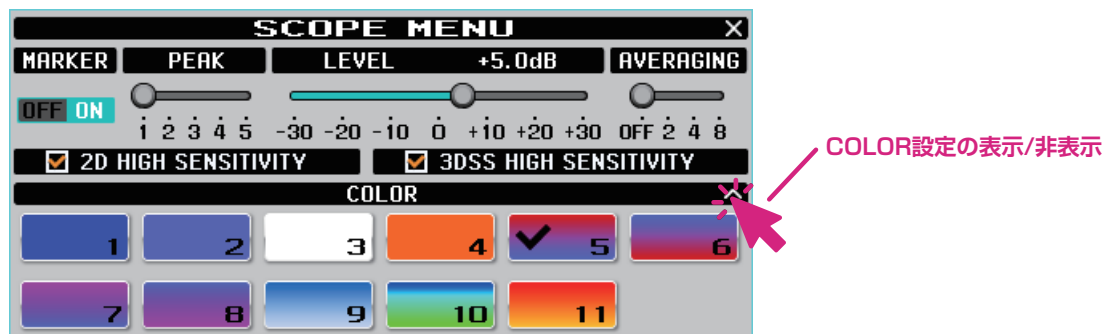
CW モードで CW 信号を受信中、受信 PITCH（音程）と一致するように、相手局の周波数に自動的に調整（ゼロイン）できます。

クリック： CW 信号を受信中にクリックすると、自動的にゼロインします。

S.MENU ボタン（スペクトラムスコープメニュー表示）



クリック： スコープ表示に関する設定を行うスコープメニュー画面を表示します。



● MARKER



ON/OFF のボタン部分をクリックして、受信周波数マーカー（緑）、送信周波数マーカー（赤）の表示を ON/OFF します。

i スペクトラムスコープの動作が“CENTER”に設定されている時は、常にスコープの中心が受信周波数ですので、受信周波数マーカー（緑）は表示されません。

● PEAK



信号のレベルに対するスペクトラムスコープの表示色の濃淡を調整できます。

LV1： 薄い

LV2： ↑

LV3： 標準

LV4： ↓

LV5： 濃い

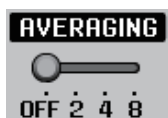
i この機能の設定は、リモートコントロールソフトウェアにのみ適用されます。トランシーバーのスペクトラムスコープ画面の設定とは個別に動作します。

● LEVEL



目的の信号とノイズを区別しやすくするため、表示レベルの調整をします。

● AVERAGING



波形を平均化して滑らかに表示します。

OFF： 平均化しません

2 ～ 8： 平均化して表示します



この機能はリモートコントロールソフトウェア専用ですので、この設定はトランシーバーのスペクトラムスコープ画面には影響しません。

● 2D HIGH SENSITIVITY



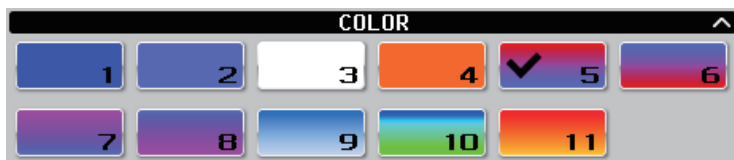
チェックマークを付けるとウォーターフォールの表示感度（縦軸）を強調して表示します。

● 3DSS HIGH SENSITIVITY



チェックマークを付けると 3DSS の表示感度（縦軸）を強調して表示します。

● COLOR 設定



好みのカラーをクリックして表示色を選択します。



この機能の設定は、リモートコントロールソフトウェアにのみ適用されます。トランシーバーのスペクトラムスコープ画面の設定とは個別に動作します。


オシロスコープ / AF-FFT エリア

画面操作



● オシロスコープ / AF-FFT エリアのサイズ変更

オシロスコープ / AF-FFT エリアの上部のタイトルバーをドラッグするとオシロスコープ / AF-FFT の表示エリアのサイズを変更することができます。

※画面上部の画面レイアウトアイコン  をクリック & ホールドすると、サイズを初期化することができます。

● クリックしてレベルとスイープスピードの設定（オシロスコープ）

オシロスコープ表示エリア内をクリックすると、波形の表示レベルと時間軸のスケールを設定できます。



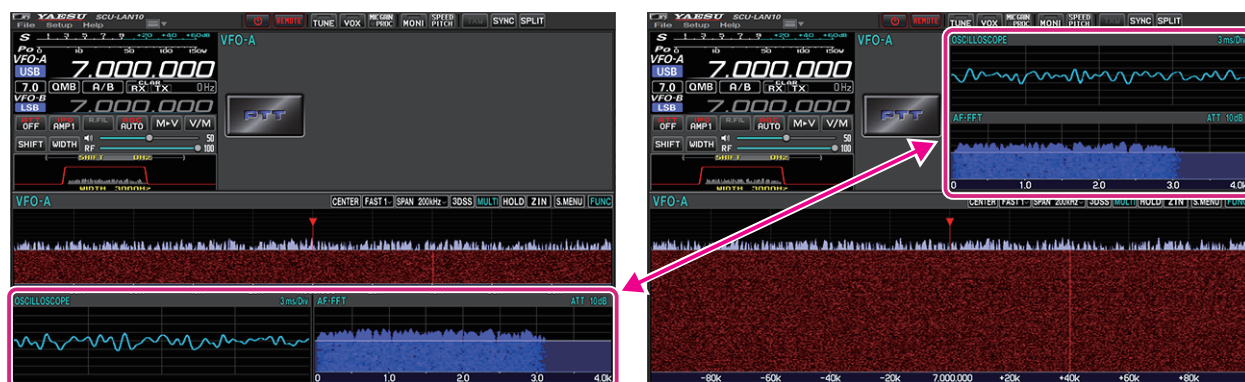
● アッテネータの設定（AF-FFT）

AF-FFT 表示エリア内をクリックすると、アッテネータを設定できます。



● 表示位置の変更

“マルチ表示”の時に [MULTI] ボタンをクリック & ホールドすると、オシロスコープ画面と AF-FFT 画面の表示位置を変更できます。



VFO-A/VFO-B 操作部



送信時のメーター動作選択



クリック： 送信時のメーター動作を選択できます。



- PO： 送信出力表示
- ALC： ALC 電圧表示
- SWR： アンテナ SWR 表示
- COMP： AMC ゲインコントロール表示
(スピーチプロセッサ動作時はコンプレッションレベル表示)
- ID： 終段 FET のドレイン電流表示
- VDD： 終段 FET のドレイン電圧表示

メモリーチャンネルの選択




ホイール： メモリーチャンネル呼び出し中にメモリーチャンネル表示部の上にカーソルを移動して、ホイールをまわすとメモリーチャンネルが選択できます。

QMB チャンネルの選択



ホイール： QMB 呼び出し中に QMB チャンネル表示部の上にカーソルを移動して、ホイールをまわすと QMB メモリーチャンネルが選択できます。

 パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
q キー

電波形式の切換




クリック： 電波形式の切換ができます。



右クリック： 下記のモード間をワンタッチで切り換えることができます。

LSB ↔ USB、CW-L ↔ CW-U、AM ↔ AM-N、FM ↔ FM-N

DATA-L ↔ DATA-U、DATA-FM ↔ D-FM-N、RTTY-L ↔ RTTY-U

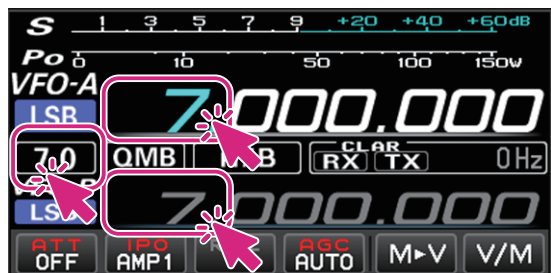
 パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。

LSB/USB： F1 キー
CW-L/CW-U： F2 キー
AM： F3 キー
FM： F4 キー

周波数の変更操作

バンド選択

MHz の桁またはバンド表示部をクリックするとバンド選択画面が表示されます。



クリック： バンド選択

1.8	3.5	5.0	7.0	10	14
18	21	24.5	28/29	50	70/GEN

MHz 桁

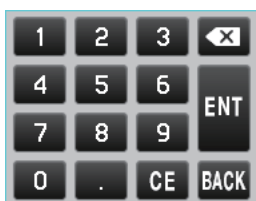


ホイール： 周波数が 1MHz ずつアップ / ダウン

クリック： バンド選択

1.8	3.5	5.0	7.0	10	14
18	21	24.5	28/29	50	70/GEN

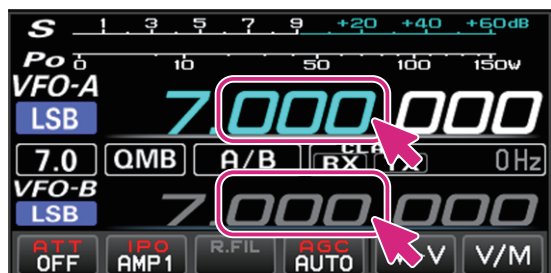
右クリック： テンキー画面がポップアップして周波数を入力できます。テンキー画面をマウスでクリックするか、またはパソコンのキーボードで入力することもできます。



キーボード操作：

- Enter キー： 入力した周波数を確定する (ENT)
- Backspace キー： カーソルの前の数字を消去する (X)
- Delete キー： 入力中の数字を全て消去する (CE)
- Esc キー： 周波数入力をキャンセルしてテンキー画面を閉じる (BACK)

kHz 桁



- ホイール： 周波数が FAST ステップずつアップ / ダウン
 クリック： 数字の上半分 / 下半分をクリックすると周波数が FAST ステップずつアップ / ダウン
 上下にドラッグ： 周波数が FAST ステップで連続的にアップ / ダウン
 右クリック： FAST ステップ / TUNING ステップの設定画面を表示
 FASTステップ TUNINGステップ



キーボードの[SHIFT]キーを押しながら、各桁の数字をクリックすると、その桁以下の数字をワンタッチでゼロにできます。

Hz 桁



- ホイール： TUNING ステップで周波数がアップ / ダウン
 クリック： 数字の上半分 / 下半分をクリックすると TUNING ステップで周波数がアップ / ダウン
 上下にドラッグ： TUNING ステップで周波数が連続でアップ / ダウン
 右クリック： FAST ステップ / TUNING ステップの設定画面を表示
 FASTステップ TUNINGステップ





- 周波数表示部ではキーボードの [SHIFT] キーを押しながらホイールをまわしても FAST ステップにはなりません。
- キーボードの [SHIFT] キーを押しながら、各桁の数字をクリックすると、その桁以下の数字をワンタッチでゼロにできます。
- パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
現在の VFO : Page UP キー /Page Down キー
もう一方の VFO : Shift + Page UP キー /Shift + Page Down キー

QMB 操作



クリック： QMB にメモリーされている情報が順番に呼び出されます。
QMB 呼び出し中に QMB チャンネル番号表示部でホイールをまわすと QMB チャンネルを選択することができます。



パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
q キー

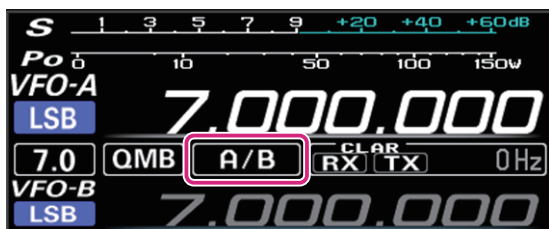
クリック & ホールド： 現在の運用状態を専用のメモリーチャンネル (QMB: クイックメモリーバンク) に 5 チャンネルまたは 10 チャンネルまでメモリーすることができます。

右クリック： QMB のリストが表示されます。

QMB LIST						X
1	--.---.---	-----	6	--.---.---	-----	10ch
2	--.---.---	-----	7	--.---.---	-----	
3	--.---.---	-----	8	--.---.---	-----	
4	--.---.---	-----	9	--.---.---	-----	
5	--.---.---	-----	10	--.---.---	-----	DELETE

削除したい QMB メモリーをクリックして [DELETE] ボタンをクリックすると、消去することができます。
右上の [5ch] または [10ch] ボタンをクリックすると、QMB のチャンネル数を切り替えられます。

VFO-A / VFO-B 切替操作



クリック： VFO-A / VFO-B を切り替えます。

CLAR（クラリファイア）操作



- クリック：** [RX] また [TX] ボタンをクリックすると、RX クラリファイアまたは TX クラリファイアがオンになります。
- ホイール：** オフセット量（受信周波数と送信周波数の差）の表示部でホイールをまわすと、オフセット量が 10Hz ステップまたは 100Hz ステップ（AM/FM/DATA-FM/D-FM-N モード時）で変わります。
- クリック & ホールド：** [RX] また [TX] ボタンをクリック & ホールドすると、オフセット量をクリアします。

受信部の設定操作



IPO（Intercept Point Optimization）ボタン



現在の IPO 設定を表示します。接続するアンテナやコンディションによる受信する信号強度にあわせて、RF アンプ部のゲインを選択できます。

クリック： IPO、AMP1（利得約 10dB）、AMP2（利得約 20dB）から選択します。



AGC（Automatic Gain Control）ボタン



現在選択されている AGC の設定を表示します。運用モード（電波型式）やフェージングなどの状態にあわせ、AGC 回路の時定数を切り換えて受信できます。

クリック： OFF、AUTO、FAST、MID、SLOW から選択します。AUTO のときは、電波形式に応じて自動的に時定数が切り替わります。



メモリーチャンネル操作



M>V ボタン



- メモリーチャンネルリストが表示されていないとき：
クリック：最後に使用したメモリーチャンネルの内容を VFO に書き込みます。







V/M ボタン



- メモリーチャンネルリストが表示されていないとき：
クリック：VFO と最後に使用したメモリーチャンネルを交互に呼び出します。
メモリーチャンネル呼び出し中にメモリーチャンネル番号表示部でホイールをまわすとメモリーチャンネルを選択することができます。
クリック & ホールド：メモリーチャンネルリストを開きます。
- メモリーチャンネルリストが表示されているとき：
クリック：メモリーチャンネルリストを閉じます。

メモリーチャンネルリストの操作

MEMORY CH LIST					
CH	FREQ	MODE	NAME	SCAN MEMORY	DISPLAY TYPE
M-01	7.000.000	LSB		SCAN	FREQ
M-02	7.000.000	LSB		SCAN	FREQ
M-03	14.000.000	USB	YAESU	SCAN	FREQ
M-04	--.---.---	-----	-----	----	----
M-05	--.---.---	-----	-----	----	----
M-06	--.---.---	-----	-----	----	----

 GET DATA  RECALL  M > VFO  VFO > M  SEND DATA  ERASE



メモリーチャンネルリスト画面の最下部の枠線をドラッグすると、ウィンドウを広げて表示するチャンネル数を増やすことができます。

● 無線機からメモリーデータを読み込む



無線機に保存されている全てのメモリーチャンネルのデータを SCU-LAN10 リモートコントロールソフトウェアに読み込むことができます。



無線機からメモリーデータを読み込むと現在 SCU-LAN10 リモートコントロールソフトウェアに保存されているメモリーデータは上書きされます。



リモートコントロールソフトウェアが現在、保存しているメモリーデータとは異なる機種種の無線機からメモリーデータを読み込む場合、機種ごとに異なる部分のデータを含めて、メモリーチャンネルに格納できるすべてのデータが転送されて上書きされます。異なる機種種のデータを読み込む場合は十分にご注意ください。

クリック： 確認画面が表示されますので、読み込む場合は [YES] をクリックします。

右クリック： メモリーデータを最後に読み込んだ日時を表示します。

● メモリーデータを無線機へ転送する



SCU-LAN10 リモートコントロールソフトウェアに保存されている全てのメモリーチャンネルのデータを無線機に転送することができます。



リモートコントロールソフトウェアでは無線機に保存されているメモリーデータとは別に、SCU-LAN10 リモートコントロールソフトウェア側で独立してメモリーデータを保存しています。



リモートコントロールソフトウェアが現在、保存しているメモリーデータを異なる機種種の無線機に書き込むと、基本データは転送されますが、機種ごとに異なる部分のデータは初期値が転送されます。異なる機種にデータを転送する場合は十分にご注意ください。

クリック： 確認画面が表示されますので、転送する場合は [YES] をクリックします。

右クリック： メモリーデータを最後に転送した日時を表示します。

● メモリーチャンネル呼び出す



クリック： 選択中のメモリーチャンネルのデータを呼び出します。

- メモリーデータを VFO に転送する

M ▶ VFO

クリック： 選択中のメモリーチャンネルのデータを現在の VFO に転送します。

- メモリーに書き込む

VFO ▶ M

クリック： 現在の VFO の周波数や運用モードなどの情報を選択中のメモリーチャンネルに書き込みます。

- メモリーチャンネルの消去 / 復活

ERASE / **RESTORE**

クリック： 選択中のメモリーチャンネルを消去または復活します。



メモリーチャンネル“M-01”は消去できません。

メモリーチャンネルの編集

MEMORY CH LIST					
CH	FREQ	MODE	NAME	SCAN MEMORY	DISPLAY TYPE
M-01	7.000.000	LSB	YAESU	SKIP	NAME
M-02	14.195.000	USB	20m Band	SKIP	FREQ
M-03	14.000.000	USB	YAESU	SCAN	FREQ
M-04	29.300.000	FM		SCAN	FREQ
M-05	50.500.000	AM	6m AM	SCAN	NAME
M-06	--.---.---	-----	-----	----	----

MODE、NAME、SCAN MEMORY、DISPLAY TYPE の各欄を右クリックするとメモリーチャンネルの各項目の内容を編集することができます。

- MODE

電波形式を選択します。

LSB	USB	CW-L	CW-U
AM	AM-N	FM	FM-N
DATA-L	DATA-U	DATA-FM	D-FM-N
RTTY-L	RTTY-U	PSK	

- NAME

メモリーチャンネルのアルファタグ（最大 12 文字）を入力 / 編集します。

- SCAN MEMORY

メモリースキャン時に、スキャンしたくないチャンネルを“SKIP”に設定します。

SCAN **SKIP**

- DISPLAY TYPE

メモリーを呼び出したときの表示を“周波数表示”または“アルファタグ表示”に設定します。

FREQ **NAME**

AF Gain/RF Gain 調節



AF (スピーカーアイコン)

スライダーの上でマウスのホイールをまわすか、ドラッグまたはクリックして受信音量を調節します。



スピーカーアイコンをクリックする度に、MUTE/MUTE 解除が切り替わります。

RF (RF GAIN)

スライダーの上でマウスのホイールをまわすか、ドラッグまたはクリックして RF ゲインを調節します。



RF アイコンを右クリックすると、RF ゲインと SQL レベルのどちらを調節するか選択できます。

SHIFT/WIDTH 操作



SHIFT ボタン



クリック：

ボタンが青色になっているときは、フィルター機能表示エリアのマウス操作で、IF フィルターのシフト周波数を変更できます。



パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
s キー

クリック & ホールド： IF フィルターのシフト周波数が 0Hz に戻ります。



シフトができない電波形式の時は、ボタンがグレイアウトで表示されます。

WIDTH ボタン



クリック：

ボタンが青色で表示されているときは、フィルター機能表示エリアのマウス操作で、IF フィルターの帯域幅を変更できます。



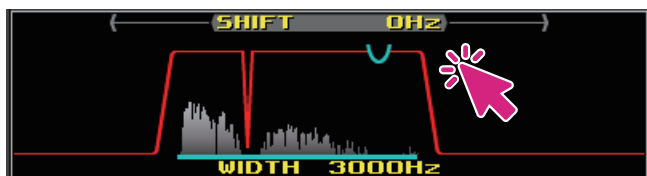
パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
w キー

クリック & ホールド： IF フィルターの帯域幅が初期値に戻ります。



帯域幅が変更できない電波形式の時は、ボタンがグレイアウトで表示されます。

フィルター機能表示エリアの操作



クリック / ホイール： SHIFT、WIDTH、NOTCH、CONTOUR、APF の各機能は、それぞれのボタンをクリックしてボタンが青色で表示されているときに、帯域幅やシフト、中心周波数などをマウスで調節することができます。

右クリック： フィルター機能表示エリア内の信号のスペクトラム表示の表示 / 非表示が選択できます。



フィルター機能表示エリアの操作

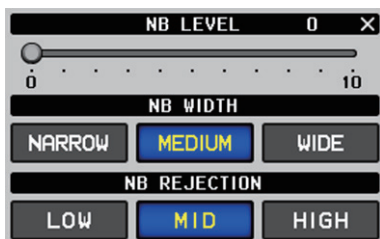


NB（ノイズブランカー） ボタン



クリック： ノイズブランカー機能がオン / オフします。

右クリック： ノイズブランカー機能の動作設定が変更できます。



DNR（デジタルノイズリダクション） ボタン



クリック： デジタルノイズリダクション機能がオン / オフします。

右クリック： デジタルノイズリダクション機能のレベルが設定できます。



DNF（デジタルノッチフィルター） ボタン



クリック： デジタルノッチフィルター機能がオン / オフします。

NOTCH（ノッチ） ボタン



クリック： IF ノッチ機能がオン / オフします。



パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
n キー

右クリック： IF ノッチ機能の帯域幅が選択できます。



CONT（コンツアー） ボタン

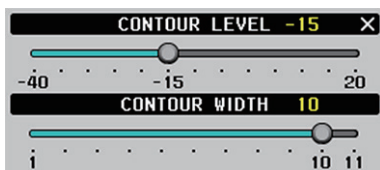


クリック： コンツアー機能がオン / オフします。



パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
c キー

右クリック： コンツアー機能の減衰量と帯域幅が設定できます。



APF（オーディオピークフィルター） ボタン



APF 機能は CW モード専用です。



クリック： APF 機能がオン / オフします。

右クリック： APF 機能の帯域幅が設定できます。



PTT 操作



PTT ボタン

クリック & ホールド： 送信します。



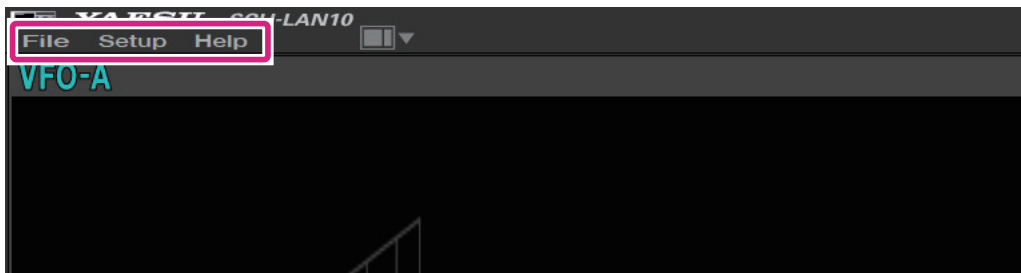
パソコンのキーボードのショートカットキーでも操作できます。
スペースキー

右クリック：

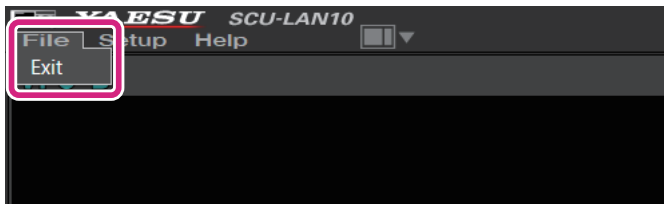
ボタンの機能を“PTT”と“MOX”から選択できます。



メニューバー

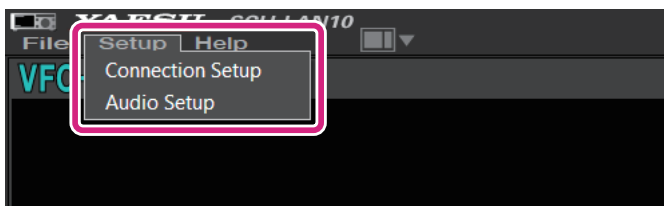


File

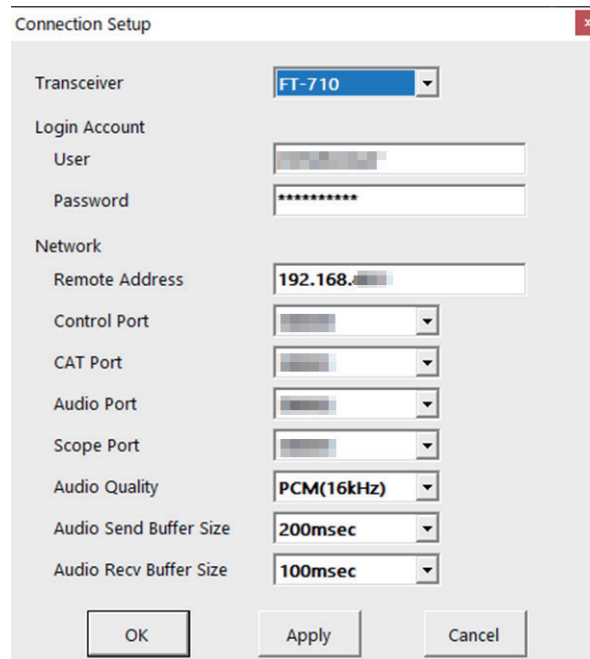


Exit : リモートコントロールソフトウェアを終了します。

Setup



Connection Setup : SCU-LAN10 との接続に関する設定をします。
最初に一度だけ設定すれば変更する必要はありません。

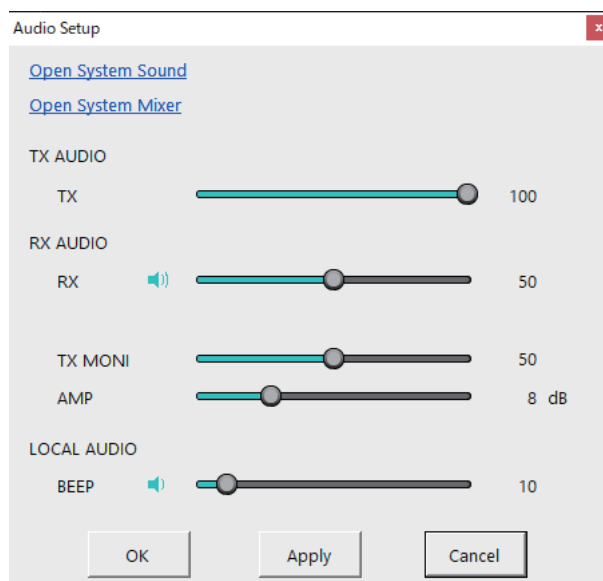


SCU-LAN10 とリモート接続中はグレイアウト表示となり、設定の確認だけができます。

詳しくは、SCU-LAN10 取扱説明書 <インストール編> を参照してください。

Audio Setup :

オーディオレベルの設定画面を開きます。



Open System Sound Windows の“サウンド”画面が表示されます。

Open System Mixer Windows の“音量ミキサー”画面が表示されます。
Windows での音量調整について詳しくは SCU-LAN10 取扱説明書 <インストール編> を参照してください。

TX AUDIO

TX


送信変調レベルを調節します。

この調節は MIC GAIN/PROC ボタン  を右クリックして、表示される MIC GAIN 調節バー  の調節と同じです。

RX AUDIO


RX

受信音量を調節します。

この調節は VFO 操作部の音量調節バー  の調節と同じです。

TX MONI

モニター機能で送信音をモニターするときの音量を調節します。

この調節はボタン  を右クリックして、表示される MONI 調節バー  の調節と同じです。

AMP

受信音または TX MONI 音量が Windows の音量調節または上記の音量調節をしても、音量が著しく小さいような場合や歪んでしまうような場合に調節します。通常は変更する必要はありません。(工場出荷時設定：8dB)

LOCAL AUDIO

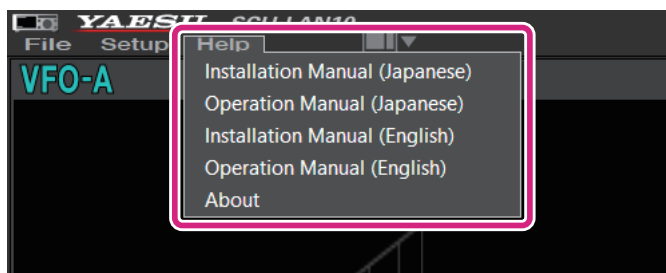
BEEP

リモートコントロールソフトウェアを操作したときのビープ音量を調節します。



“Audio Setup”画面で調節しても音量が著しく小さいような場合や逆に音が大きすぎて歪んでしまうような場合には、Windows での音量調節をしてください。Windows での音量調節について詳しくは SCU-LAN10 取扱説明書 <インストール編> を参照してください。それでも調整できない場合に上記の RX AUDIO の“AMP”の設定を変更してください。

Help



Installation Manual (Japanese) : 取扱説明書＜インストール編＞（日本語）の PDF ファイルを開きます。

Operation Manual (Japanese) : 取扱説明書（日本語）の PDF ファイル（本書）を開きます。

Installation Manual (English) : 取扱説明書＜インストール編＞（英語）の PDF ファイルを開きます。

Operation Manual (English) : 取扱説明書（英語）の PDF ファイルを開きます。

About : このソフトウェアの情報を表示します。

ショートカットキー

パソコンのキーボードのキーで下記の操作ができます。

機能	キー操作
スペクトラムスコープ スパン（広く）	カーソルキー 右（→）
スペクトラムスコープ スパン（狭く）	カーソルキー 左（←）
VFO 周波数アップ	Page Up Shift + Page Up（もう一方の VFO）
VFO 周波数ダウン	Page Down キー Shift + Page Down キー（もう一方の VFO）
AF GAIN アップ	カーソルキー 上（↑）
AF GAIN ダウン	カーソルキー 下（↓）
SHIFT 機能選択	s キー
WIDTH 機能選択	w キー
NOTCH 機能選択	n キー
CONTOUR 機能選択	c キー
モード切換（LSB/USB）	F1 キー
モード切換（CW-L/CW-U）	F2 キー
モード切換（AM）	F3 キー
モード切換（FM）	F4 キー
QMB 呼び出し	q キー
PTT（送信）	スペースキー



ショートカットキーの編集はできません。



八重洲無線株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井 6-26-3 大森ベルポート D-3F

2310-C